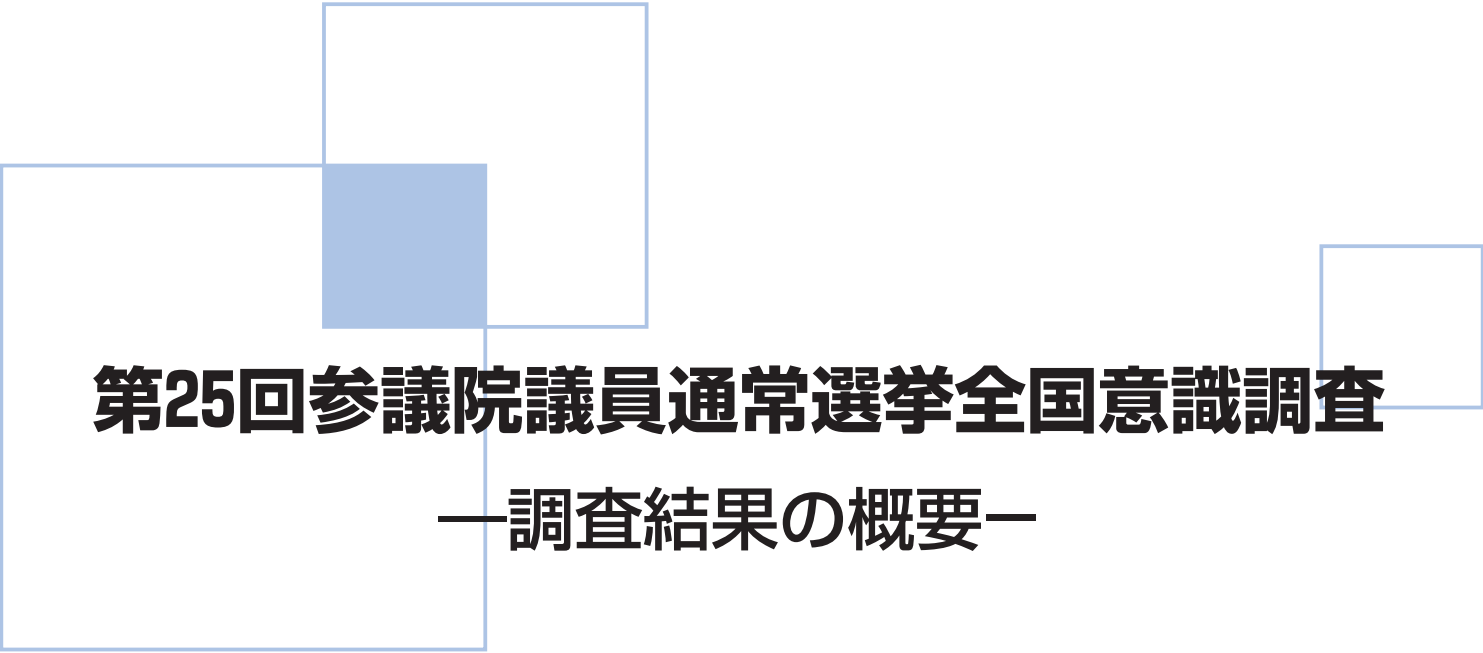


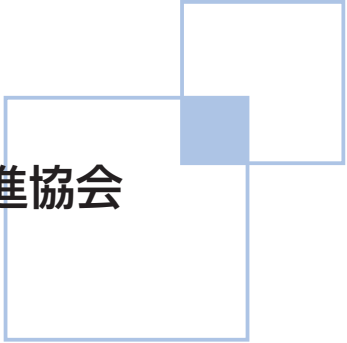


第25回参議院議員通常選挙全国意識調査

—調査結果の概要—

令和2年3月

公益財団法人 明るい選挙推進協会



はしがき

当協会は、参議院議員通常選挙における有権者の投票行動と意識を探るため、全国の有権者を対象とした意識調査を行ってきました。

第25回参議院議員通常選挙（令和元年7月21日）についても、全国の有権者3,150人を対象とし、郵送調査法により実施しました。

この報告書は、調査の設計、質問票及び回答の単純分布等を記すとともに、質問票への回答について、クロス分析や過去の調査結果との対比等を行い、「調査結果の概要」としてまとめたものです。

質問項目の作成や調査報告書の監修について、埼玉大学社会調査研究センター長 松本正生氏、東京大学大学院情報学環教授 前田幸男氏にご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

本調査が、今後の啓発事業のよき参考になれば幸いです。

令和2年3月

公益財団法人明るい選挙推進協会

- 目 次 -

I	調査の設計	1
II	標本抽出法方法	3
III	質問票と回答の単純分布	5
IV	はじめに	14
V	投票率・選挙競争率	15
VI	調査結果の概要	23
1	選挙に対する意識	23
2	投票参加率	30
3	棄権の理由	42
4	投票行動	44
5	政治的志向	53
6	選挙関連情報源	62
7	選挙制度関連	66
8	清潔度の印象	71
9	その他	72

I 調査の設計

1 調査の目的

この調査は、令和元年 7 月 21 日に執行された第 25 回参議院議員通常選挙における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的とする。

2 調査の項目

この調査は、次の諸項を調査の目的とした。

- (1) 政治・選挙への関心
- (2) 投票と棄権
- (3) 投票選択の経緯
- (4) 選挙媒体との接触
- (5) 選挙制度について
- (6) 選挙啓発への参加と接触

3 調査の設計

この調査は、次のように設計した。

- (1) 調査地域 全国
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,150 人
- (4) 標本抽出 選挙人名簿を使用
- (5) 抽出方法 層化 2 段無作為抽出法
- (6) 調査方法 郵送配布郵送回収法
- (7) 調査時期 令和元年 10 月 30 日(水)～12 月 24 日(火)
 - 事前葉書投函 10 月 23 日(水)
 - 調査票投函 10 月 29 日(火)
 - 督促(封書)投函 11 月 14 日(木)
- (8) 調査実施委託機関 株式会社 毎日新聞社 世論調査室

4 回収結果

- (1) 回収数(回収率)
 - 総回収数 1,765 (56.0%)
 - うち有効回答数 1,719 (54.6%)

(2) 年代別・都市規模別回収結果 (総回収数)

①年代別

年 代	標本数	回収数	回収率 (%)
18・19 歳	70	29	41.4
20 歳代前半	169	72	42.6
20 歳代後半	180	86	47.8
30 歳代	420	220	52.4
40 歳代	564	286	50.7
50 歳代	468	270	57.7
60 歳代	494	342	69.2
70 歳代	469	313	66.7
80 歳以上	316	147	46.5
合計	3,150	1,765	56.0

② 都市規模

都市規模	標本数	回収数	回収率 (%)
大都市	915	488	53.3
20 万人以上の市	765	419	54.8
10 万人以上の市	615	345	56.1
10 万人未満の市	600	359	59.8
郡部 (町村)	255	154	60.4
合計	3,150	1,765	56.0

Ⅱ 標本抽出方法

- 1 母集団：全国の市区町村に居住する満 18 歳以上の男女個人
- 2 標本数：3,150 人
- 3 地点数：209 市町村 210 地点
- 4 抽出方法：層化 2 段無作為抽出法

【層化】

- (1) 全国の市町村を、都道府県を単位として次の 11 地区に分類した。

(地 区)

北海道地区＝北海道	(1 道)
東北地区 ＝青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	(6 県)
関東地区 ＝茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、 神奈川県	(1 都 6 県)
北陸地区 ＝新潟県、富山県、石川県、福井県	(4 県)
東山地区 ＝山梨県、長野県、岐阜県	(3 県)
東海地区 ＝静岡県、愛知県、三重県	(3 県)
近畿地区 ＝滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	(2 府 4 県)
中国地区 ＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	(5 県)
四国地区 ＝徳島県、香川県、愛媛県、高知県	(4 県)
北九州地区＝福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	(4 県)
南九州地区＝熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	(4 県)

- (2) 各地区においては、さらに都市規模によって次のように分類した。

◎ 大都市（都市ごとに分類）

（東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、
新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、
広島市、北九州市、福岡市、熊本市）

◎ 人口 10 万人以上の市

◎ 人口 10 万人未満の市

◎ 郡部（町村）

(注) ここでいう市とは、令和元年 5 月 1 日現在市制施行の地域である。

- (3) 各地区・都市規模別各層における母集団（令和元年 7 月 17 日現在の 18 歳以上の人口）の大きさによりそれぞれ 3,150 の標本数を比例配分し、1 調査地点の標本数が 15 人になるように調査地点数を決めた。

〔抽出〕

- (1) 第1次抽出単位となる調査地点として、第25回参議院議員通常選挙時に設定された投票区を使用した。
- (2) 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の、市区町村コード順に従った。
- (3) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点（町・丁目・番地・地区などを指定）から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した。

〔結 果〕

以上の抽出作業の結果、得られた地区・都市規模別標本数及び調査地点数は、次のとおりである。

※（ ）内は調査地点数

都市規模	大都市	人口10万人以上の市	人口10万人未満の市	郡 部 (町 村)	計
北海道	45(3)	45(3)	15(1)	30(2)	135(9)
東北	30(2)	90(6)	75(5)	30(2)	225(15)
関東	450(30)	465(31)	120(8)	45(3)	1080(72)
北陸		60(4)	45(3)	15(1)	120(8)
東山	15(1)	45(3)	60(4)	15(1)	135(9)
東海	90(6)	150(10)	45(3)	30(2)	315(21)
近畿	150(10)	240(16)	105(7)	15(1)	510(34)
中国	45(3)	90(6)	45(3)	15(1)	195(13)
四国	30(2)	45(3)	15(1)	15(1)	105(7)
北九州	45(3)	75(5)	45(3)	30(2)	195(13)
南九州	15(1)	75(5)	30(2)	15(1)	135(9)
計	915(61)	1380(92)	600(40)	255(17)	3,150(210)

Ⅲ 質問票と回答の単純分布

「第 25 回参議院議員通常選挙に関する意識調査」調査票

Q 1 あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 非常に関心を持っている	19.5
2 多少は関心を持っている	57.0
3 あまり関心を持っていない	19.5
4 全く関心を持っていない	2.7
5 わからない	0.9
無回答	0.2

Q 2 あなたは、政治、選挙に関する情報を主に何から得ていますか。最も多くの情報を得ているものを1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 テレビ	59.7
2 ラジオ	1.7
3 新聞	20.0
4 雑誌	0.3
5 インターネット	13.8
6 家族や知人からの話	3.6
7 その他	0.8
無回答	0.1

Q 3 あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 大いに満足している	3.6
2 だいたい満足している	54.9
3 やや不満足である	31.4
4 大いに不満足である	8.0
5 わからない	2.0
無回答	0.1

Q 4 これからのあなたの生活は良くなると思いますか、悪くなると思いますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 今よりも良くなる	2.0
2 どちらかといえば良くなる	6.9
3 今と変わらない	35.0
4 どちらかといえば悪くなる	35.7
5 今よりも悪くなる	14.2
6 わからない	6.1
無回答	0.1

Q 5 あなたは現在の政治に対してどの程度満足していますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 大いに満足している	0.4
2 だいたい満足している	17.2
3 やや不満足である	47.9
4 大いに不満足である	25.4
5 わからない	8.7
無回答	0.4

Q 6 あなたはふだん、選挙の投票について、下記の中のどれに近い考えを持っていますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 投票することは国民の義務である	30.7
2 投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	36.4
3 投票する、しないは個人の自由である	30.2
4 わからない	2.4
無回答	0.3

Q 7 保守的とか革新的とかいう言葉が使われますが、あなたご自身はこの中のどれにあたると思いますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 保守的	9.4
2 やや保守的	27.3
3 中間	32.9
4 やや革新的	12.7
5 革新的	3.2
6 わからない	14.3
無回答	0.3

Q 8 7 月の参院選(以下「今回の参院選」)について、あなた自身は、どれくらい関心がありましたか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 非常に関心があった	15.2
2 多少は関心があった	41.4
3 あまり関心がなかった	32.9
4 全く関心がなかった	8.5
5 わからない	1.9
無回答	0.2

Q 9 あなたは、今回の参院選で、投票に行きましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

- | | |
|---------------------|------|
| 1 投票に行った (→Q10へ) | 70.2 |
| 2 投票に行かなかった (→Q11へ) | 28.4 |
| 3 わからない (→Q14へ) | 0.9 |
| 無回答 | 0.5 |

Q 10 当日投票をしましたか、それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|------------|------|
| 1 当日投票をした | 67.6 |
| 2 期日前投票をした | 31.2 |
| 3 不在者投票をした | 0.9 |
| 4 わからない | - |
| 無回答 | 0.2 |

→ Q 10 S Q 1 投票に行ったのは何時頃ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=816

- | | |
|--------------|------|
| 1 午前中 | 59.9 |
| 2 午後 (6時まで) | 31.4 |
| 3 午後6時から8時の間 | 6.5 |
| 4 わからない | 1.2 |
| 無回答 | 1.0 |

→ Q 10 S Q 2 期日前投票に行ったのは何時頃ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=377

- | | |
|--------------|------|
| 1 午前中 | 49.1 |
| 2 午後 (6時まで) | 34.7 |
| 3 午後6時から8時の間 | 12.7 |
| 4 午後8時以降 | 0.8 |
| 5 わからない | 2.7 |
| 無回答 | - |

Q 10 S Q 3 次に選挙区選挙についてお尋ねします。あなたは、選挙区選挙で、政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|--------------|------|
| 1 政党を重くみて | 45.1 |
| 2 候補者個人を重くみて | 31.4 |
| 3 一概にいけない | 21.4 |
| 4 わからない | 1.7 |
| 無回答 | 0.5 |

Q 10 S Q 4 あなたは選挙区選挙で候補者を選ぶ時、どういう点を重くみて投票する人を決めたのですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|-----------------------|------|
| 1 地元の利益を考えて | 22.6 |
| 2 自分と同じような職業の利益を考えて | 6.6 |
| 3 自分と同じような世代の利益を考えて | 14.6 |
| 4 候補者の政策や主張を考えて | 52.4 |
| 5 候補者の人柄を考えて | 26.6 |
| 6 候補者の属する党の政策や活動を考えて | 55.1 |
| 7 候補者の属する党の党首を考えて | 11.4 |
| 8 テレビや新聞、雑誌などで親しみを感じて | 4.6 |
| 9 政党間の勢力バランスを考えて | 8.9 |
| 10 家族や知人のすすめだったから | 9.1 |
| 11 その他 () | 1.2 |
| 12 わからない | 0.9 |
| 無回答 | 0.7 |

Q 10 S Q 5 選挙区選挙で、投票する人を決めたのはいつ頃でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|-----------------------------|------|
| 1 選挙期間に入る前から (7月3日以前) | 27.3 |
| 2 選挙期間に入った時 (7月4日(木)) | 16.9 |
| 3 選挙期間中 (7月5日(金)から7月20日(土)) | 42.2 |
| 4 投票日当日 (7月21日(日)) | 10.6 |
| 5 わからない | 2.3 |
| 無回答 | 0.7 |

Q 10 S Q 6 選挙区選挙で投票した人は、何党の人でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|---------------|------|
| 1 自由民主党 | 44.2 |
| 2 公明党 | 7.2 |
| 3 立憲民主党 | 16.7 |
| 4 国民民主党 | 3.7 |
| 5 日本共産党 | 5.6 |
| 6 日本維新の会 | 6.2 |
| 7 社会民主党 | 0.9 |
| 8 れいわ新選組 | 1.6 |
| 9 NHKから国民を守る党 | 0.9 |
| 10 その他の党 | 0.5 |
| 11 無所属 | 3.5 |
| 12 白票を入れた | 0.5 |
| 13 わからない | 6.7 |
| 無回答 | 1.7 |

Q10SQ7 次に比例代表選挙についてお尋ねします。比例代表選挙で、あなたは候補者名で投票しましたか、政党名で投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|---------|------|
| 1 政党名 | 64.1 |
| 2 候補者名 | 29.4 |
| 3 わからない | 5.3 |
| 無回答 | 1.2 |

Q10SQ8 比例代表選挙で、あなたがその政党、または候補者に投票することを決めたのはいつ頃でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|----------------------------|------|
| 1 選挙期間に入る前から（7月3日以前） | 31.8 |
| 2 選挙期間に入った時（7月4日（木）） | 14.8 |
| 3 選挙期間中（7月5日（金）から7月20日（土）） | 37.1 |
| 4 投票日当日（7月21日（日）） | 11.8 |
| 5 わからない | 3.8 |
| 無回答 | 0.6 |

Q10SQ9 比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1207

- | | |
|---------------|------|
| 1 自由民主党 | 39.8 |
| 2 公明党 | 9.0 |
| 3 立憲民主党 | 16.4 |
| 4 国民民主党 | 3.2 |
| 5 日本共産党 | 5.6 |
| 6 日本維新の会 | 7.7 |
| 7 社会民主党 | 1.5 |
| 8 れいわ新選組 | 3.2 |
| 9 NHKから国民を守る党 | 1.4 |
| 10 その他の党 | 0.9 |
| 11 白票を入れた | 0.5 |
| 12 わからない | 9.3 |
| 無回答 | 1.5 |

→ここまで回答された方はQ14へお進みください。

【Q9で「投票に行かなかった」と回答された方にお尋ねします】

Q11 投票に行かないと決めたのはいつ頃ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=489

- | | |
|----------------------------|------|
| 1 選挙期間に入る前から（7月3日以前） | 26.6 |
| 2 選挙期間に入った時（7月4日（木）） | 4.9 |
| 3 選挙期間中（7月5日（金）から7月20日（土）） | 17.0 |
| 4 投票日当日（7月21日（日）） | 35.2 |
| 5 わからない | 14.1 |
| 無回答 | 2.2 |

Q12 投票に行かなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=489

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 1 仕事があったから | 20.4 |
| 2 重要な用事（仕事を除く）があったから | 14.5 |
| 3 体調がすぐれなかったから | 17.0 |
| 4 投票所が遠かったから | 3.9 |
| 5 選挙にあまり関心がなかったから | 30.9 |
| 6 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから | 23.7 |
| 7 適当な候補者も政党もなかったから | 21.7 |
| 8 私一人が投票してもしなくても同じだから | 13.9 |
| 9 自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから | 7.6 |
| 10 選挙によって政治はよくならないと思ったから | 17.8 |
| 11 マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから | 3.3 |
| 12 今の政治を変える必要がないと思ったから | 1.0 |
| 13 今住んでいる所に選挙権がないから | 2.0 |
| 14 天候が悪かったから（暑すぎた、雨だったなど） | 1.4 |
| 15 その他（ ） | 9.0 |
| 16 わからない | 1.2 |
| 無回答 | 1.8 |

Q13 あなたはどのような状況だったら投票に行こうと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=489

- | | |
|--------------------------------|------|
| 1 投票所が近かったら | 7.4 |
| 2 投票所まで無料のバスなどが運行されたら | 1.2 |
| 3 移動投票所が巡回してくれたら | 3.3 |
| 4 駅やショッピングセンター・コンビニなどでも投票ができれば | 33.5 |
| 5 期日前投票が午後8時以降もできれば | 8.0 |
| 6 その他（ ） | 18.4 |
| 7 わからない | 23.7 |
| 無回答 | 4.5 |

(Q14へお進みください)

【全員の方にお尋ねします】

Q14 今回の参院選では、どのような政策課題を考慮しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 医療・介護	52.3	12 防災対策	17.2
2 子育て・教育	33.6	13 社会資本整備	4.3
3 景気対策	45.1	14 地域振興	12.3
4 雇用対策	20.8	15 憲法改正	14.7
5 財政再建	18.2	16 外交・防衛	15.2
6 年金	50.7	17 男女共同参画	2.7
7 消費税	29.8	18 選挙制度	3.5
8 震災からの復興	12.2	19 その他 ()	1.3
9 原発・エネルギー	15.3	20 政策は考えなかった	4.2
10 規制緩和	1.7	21 わからない	5.4
11 治安対策	6.6	無回答	1.0

Q15 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 投票率は低くてもかまわない (→Q16へ)	24.5
2 投票率が低いことは問題であるから、何らかの対策を講ずべきだと思う	64.8
無回答	10.6

→Q15SQ どのような対策をすべきだと思いますか。具体的にご記入ください。(自由回答)

【全員の方にお尋ねします】

Q16 一昨年(2017年)10月に行われた第48回衆院選の比例代表選挙で、あなたが投票したのは何党でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 自由民主党	37.5	8 日本のこころ	0.1
2 立憲民主党	12.9	9 その他の党	0.8
3 希望の党	0.9	10 白票を入れた	1.2
4 公明党	5.6	11 投票しなかった	12.9
5 日本共産党	4.4	12 選挙権がなかった	1.0
6 日本維新の会	5.2	13 わからない	13.9
7 社会民主党	1.2	無回答	2.4

Q17 3年前(2016年7月)の第24回参院選の比例代表選挙で、あなたが投票したのは何党、又は何党の候補者でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 自由民主党	35.7	8 生活の党	0.5
2 民進党	10.2	9 新党改革	-
3 公明党	5.2	10 その他の党	0.7
4 日本共産党	4.9	11 白票を入れた	1.1
5 おおさか維新の会	3.9	12 投票しなかった	10.9
6 日本のこころを大切にする党	0.1	13 選挙権がなかった	1.8
7 社会民主党	1.9	14 わからない	19.5
		無回答	3.5

Q18 あなたはふだん何党を支持していっていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 自由民主党	35.5	7 社会民主党	1.0
2 公明党	4.1	8 れいわ新選組	1.3
3 立憲民主党	9.2	9 NHKから国民を守る党	0.5
4 国民民主党	1.2	10 その他の党	0.4
5 日本共産党	2.9	11 支持する政党はない	30.0
6 日本維新の会	3.4	12 わからない	8.1
		無回答	2.6

Q19 あなたは今回の参院選で、インターネットをどのように利用しましたか。下記の中にあてはまるものがあればすべて選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 政党や候補者のホームページ・ブログを見た	9.7
2 政党や候補者のツイッター、フェイスブックを見た	5.8
3 政党や候補者のメールを受信した	0.4
4 自分自身が特定の候補者を応援又は批判する情報を発信した	0.2
5 政党や候補者とインターネットを通して交流した	0.2
6 動画共有サイトで選挙関連の動画を見た	3.9
7 ニュースサイトや選挙情報サイトを見た	17.0
8 ポートマッチを利用した	0.3
9 その他 ()	0.9
10 利用しなかった (→Q20へ)	62.3
11 わからない (→Q20へ)	4.1
無回答	6.5

Q19SQ インターネットで得られた情報は、投票に関して参考になりましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=466

1 参考になった	28.5	3 参考にならなかった	8.6
2 多少は参考になった	54.3	4 わからない	6.4
		無回答	2.1

(Q20へお進みください)

【全員の方にお尋ねします】

Q20 今回の参院選で、あなたが見たり聞いたりしたものが下記の中にありますか。あればすべて選んでAの欄に○をつけてください。その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでBの欄に○をつけてください。
n=1719

	A 見聞き したもの	B 役立っ たもの
1 候補者の政見放送・経歴放送（テレビ）	40.3	16.8
2 政党の政見放送（テレビ）	38.5	14.4
3 政党のテレビスポット広告	21.8	1.9
4 候補者の政見放送・経歴放送（ラジオ）	5.1	2.0
5 政党の政見放送（ラジオ）	3.9	1.5
6 政党のラジオスポット広告	3.1	0.3
7 政党や候補者のバナー広告・動画広告	6.3	1.0
8 選挙公報	37.7	18.5
9 候補者の新聞広告	29.4	10.2
10 政党の新聞広告	23.3	7.5
11 候補者のビラ	24.8	5.4
12 掲示場にはられた候補者のポスター	45.2	9.2
13 政党のビラ・ポスター	25.6	3.5
14 候補者の葉書	14.0	2.8
15 政党の葉書	7.2	0.8
16 政党の機関紙	5.8	1.5
17 政党の選挙公約などが記載されたパンフレット	15.5	6.1
18 党首討論会（テレビ・インターネット）	23.6	12.0
19 政党・候補者の演説会	8.1	3.7
20 公開討論会・合同個人演説会	3.3	1.3
21 政党・候補者の街頭演説	15.1	4.9
22 電話による勧誘	7.3	0.2
23 連呼	11.5	0.4
24 LINE やツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動	8.0	4.8
25 この中のどれも見聞きしなかった	4.0	
26 わからない	1.5	
無回答	3.8	46.4

Q21 今回の参院選は、全体としてきれいな選挙が行われたと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。
n=1719

1 きれいに行われた	17.2
2 そうはいえない	10.8
3 一概にいけない	26.9
4 わからない	43.2
無回答	1.9

Q22 きれいな選挙の実現や投票率の向上のために明るい選挙推進運動が行われています。都道府県や市区町村の選挙管理委員会と協力してこの運動を行っている、明るい選挙推進協議会や白ばら会があることをご存知ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。
n=1719

1 知っている	11.4
2 知らない	76.6
3 わからない	10.5
無回答	1.5

Q23 明るい選挙推進運動のシンボルキャラクター「選挙のめいすいくん」（下記）をあなたは見たことがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。
n=1719

1 ある	14.3
2 ない	72.9
3 わからない	10.9
無回答	1.9



Q24 転居する場合、引っ越し先の市区町村へ住民票を移さなければなりません。あなたはこのことをご存知でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。
n=1719

1 知っていた	94.4
2 知らなかった	4.0
無回答	1.7

Q25 現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければなりません。あなたは、このことをご存知でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。
n=1719

1 知っていた	56.5
2 知らなかった	41.7
無回答	1.7

Q26 今回の参院選で総務省や都道府県・市区町村の選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が「投票に参加しましょう」という呼びかけを行いました。下記の中で見たか聞いたかしたものがありますか。あればすべて選んで番号に○をつけてください。

※政党や候補者が実施したものは除いてください。

	n=1719
1 新聞広告	35.7
2 テレビスポット広告	42.7
3 ラジオスポット広告	4.3
4 交通広告（車内・駅・バス）	9.9
5 雑誌広告（フリーペーパーを含む）	2.8
6 啓発ポスター	18.2
7 国や都道府県、市区町村の広報紙	25.6
8 都道府県・市区町村などの広報車 （候補者の選挙運動用自動車は含まない）	17.4
9 街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン	7.3
10 立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン	10.2
11 電光掲示板、大型映像広告、ショッピングセンター、遊園地などでのアナウンス	1.9
12 銀行などのATM	1.0
13 コンビニのレジ画面	1.2
14 有線放送	2.9
15 国、都道府県、市区町村のホームページ、ツイッター、フェイスブック	2.6
16 インターネット上の啓発動画	4.0
17 その他（ ）	0.5
18 聞きしなかった（→Q27へ）	16.2
19 わからない（→Q27へ）	10.8
無回答	2.5

*1～17を選択された方はQ26SQへお進みください

Q26SQ これらを見聞きしたことによって、知れたことなどがありましたか。この中にあてはまるものがあればすべて選んで番号に○をつけてください。
（Q26で「聞きしなかった」、「わからない」と回答された方はお答えする必要はありません。Q27へお進みください）

	n=1211
1 選挙期日（投票日）が確認できた	67.2
2 投票場所が確認できた	24.9
3 投票時間が確認できた	23.2
4 投票方法を知った	10.7
5 期日前投票時間、期日前投票所が確認できた	24.6
6 一票の大切さを知った	11.1
7 その他（ ）	0.4
8 特になし	17.3
無回答	6.4

【全員の方にお尋ねします】

Q27 憲法改正のためには、国民が賛否を投票することが必要となります（国民投票制度）が、あなたはこの制度を知っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 よく知っている	10.6
2 だいたい内容を知っている	30.4
3 内容は知らないが「国民投票（制度）」という言葉は聞いたことがある	42.9
4 知らない	13.3
無回答	2.8

Q28 昨年5月に、衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とした「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が、公布・施行されましたが、あなたはこのことを知っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 よく知っている	3.6
2 だいたい内容を知っている	18.8
3 内容は知らないが言葉は聞いたことがある	34.5
4 知らない	39.4
無回答	3.7

Q28SQ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律は、女性議員を増やすためにどの程度効果的だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=385

1 努力義務なので、あまり効果的ではない	37.9
2 多少の効果はあると思う	54.3
3 かなり効果的である	5.5
無回答	2.3

Q29 日本で女性議員が少ないのはなぜだと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1719

1 政治に関心のある女性が少ないから	9.3
2 政治家という職業に魅力を感じる女性が少ないから	16.8
3 政治活動は家庭と両立しにくいから	27.2
4 政党が本気で女性を発掘しようとしなから	22.1
5 有権者が男性の方を政治家としてふさわしいと思っているから	15.5
6 その他（ ）	4.7
無回答	4.4

【全員の方にお尋ねします】

F 1 あなたは男性ですか、女性ですか。 n=1719

- | | | |
|---|----|------|
| 1 | 男性 | 47.8 |
| 2 | 女性 | 52.2 |

F 2 あなたのお年は満でいくつですか。 n=1719

- | | | | |
|----------|------|--------|------|
| _____ 歳 | | | |
| 18, 19 歳 | 1.6 | 50 歳代 | 15.3 |
| 20 歳代 | 9.1 | 60 歳代 | 19.5 |
| 30 歳代 | 12.4 | 70 歳代 | 17.9 |
| 40 歳代 | 16.2 | 80 歳以上 | 7.9 |

F 3 あなたが最後に在籍した(又は現在在籍している)学校を、下記の中から 1つ選んで 番号に○をつけてください。 n=1719

- | | | |
|---|-------------------------|------|
| 1 | 小学校・中学校卒(高等小学校を含む) | 10.1 |
| 2 | 高校卒(旧制中学校を含む) | 38.9 |
| 3 | 短大・高専・専修学校卒 | 18.8 |
| 4 | 大学・大学院卒(旧制高校、旧制専門学校を含む) | 29.1 |
| 5 | わからない | 0.4 |
| | 無回答 | 2.6 |

F 4 あなたの職業についてお尋ねします。下記の中からあてはまるものを 1つ選んで 番号に○をつけてください。 n=1719

- | | | |
|---|-----------|------|
| 1 | 勤め | 48.5 |
| 2 | 自営業主、自由業者 | 9.0 |
| 3 | 家族従業 | 1.9 |
| 4 | 学生 | 2.7 |
| 5 | 主婦 | 16.2 |
| 6 | 無職 | 19.4 |
| | 無回答 | 2.3 |

(F 5 へお進みください)

→ F 4 S Q 1 あなたの職業は下記のように分類した場合、どれにあたりますか。 1つ選んで 番号に○をつけてください。 n=1021

- | | | |
|---|--------------------|------|
| 1 | 経営者・役員・管理職 | 20.3 |
| 2 | 正社員・正職員 | 45.2 |
| 3 | 派遣社員 | 1.7 |
| 4 | パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託 | 28.3 |
| 5 | その他() | 3.2 |
| | 無回答 | 1.4 |

(F 4 S Q 2 へお進みください)

F 4 S Q 2 このように分類した場合、あなたの職業はどれにあたりますか。 1つ選んで 番号に○をつけてください。 n=1021

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | 農・林・水産に関わる仕事(農作物生産者、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など) | 4.9 |
| 2 | 保安的仕事(警察官、消防官、自衛官、警備員など) | 1.4 |
| 3 | 運輸・通信の仕事(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など) | 5.3 |
| 4 | 製造業の仕事(製品製造・組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など) | 16.2 |
| 5 | 販売・サービスの仕事(小売・卸売店主・店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールス、理・美容師、コック・料理人、ウェ이터・ウェイトレス、客室乗務員など) | 24.2 |
| 6 | 専門・技術の仕事(医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの) | 22.7 |
| 7 | 事務的仕事(企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の仕事など) | 17.9 |
| 8 | その他() | 5.9 |
| | 無回答 | 1.6 |

【全員の方にお尋ねします】

F 5 あなたは、この市(区・町・村)に何年くらい住んでいますか。 1つ選んで 番号に○をつけてください。 n=1719

- | | | |
|---|---------------------|------|
| 1 | 生まれてからずっと | 23.0 |
| 2 | 20年以上(生まれてからずっとを除く) | 42.4 |
| 3 | 10年以上 | 15.0 |
| 4 | 3年以上 | 9.2 |
| 5 | 3年未満 | 7.1 |
| 6 | わからない | 0.2 |
| | 無回答 | 3.3 |

F 6 あなたのご自宅から投票所へ行くのには、何分ぐらいかかりますか。 1つ選んで 番号に○をつけてください。 n=1719

- | | | |
|---|-------|------|
| 1 | 5分未満 | 34.2 |
| 2 | 10分未満 | 43.3 |
| 3 | 20分未満 | 14.9 |
| 4 | 20分以上 | 3.6 |
| 5 | わからない | 1.9 |
| | 無回答 | 2.1 |

F 7 あなたの投票所の投票時間は、何時まででしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 午後5時以前	3.4	5 その他 ()	0.4
2 午後6時	3.4	6 わからない	27.3
3 午後7時	11.3	無回答	1.6
4 午後8時	52.5		

F 8 あなたのご家族は、このように分類した場合どれにあたりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 1人世帯	12.1	5 その他の世帯	2.7
2 一世代世帯（夫婦だけ）	26.1	6 わからない	0.6
3 二世世代世帯（親と子）	47.1	無回答	0.9
4 三世世代世帯（親と子と孫）	10.5		

F 9 あなたは、このような団体に加入していますか。あればすべて選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 政治家の後援会	3.5
2 自治会	23.9
3 婦人会	2.3
4 青年団・消防団	1.0
5 老人クラブ（会）	5.1
6 P T A	6.1
7 農協その他の農林漁業団体	3.0
8 労働組合	5.8
9 商工業関係の経済団体	1.6
10 宗教団体	2.9
11 同好会・趣味のグループ	13.6
12 住民運動・消費者運動・市民運動の団体	0.6
13 NPO・地域づくり団体	1.7
14 同窓会	10.5
15 その他 ()	1.2
16 どれにも加入していない	44.4
17 わからない	2.6
無回答	2.3

F 10 あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 パソコン	20.8
2 スマートフォン	48.2
3 タブレット	3.4
4 携帯電話（スマートフォン以外）	2.7
5 インターネットは使わない	20.1
無回答	4.8

F 11 保守とかリベラルとかいう言葉がつかわれますが、あなたご自身はこの中のどれにあたると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1719

1 保守	8.4
2 やや保守	22.3
3 中間	25.8
4 ややリベラル	9.7
5 リベラル	3.5
6 わからない	28.7
無回答	1.6

40歳以上の方はここまでです。

【18-19歳、20歳代、30歳代の方にお聞きします】

F 12 あなたは、小学校、中学校、高校で選挙管理委員会の職員など外部講師による選挙に関する出前授業（模擬投票含む）を受けたことがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=399

1 受けたことがある	6.8
2 受けたことはない	68.4
3 外部講師ではなく、先生から受けた	6.5
4 わからない	13.3
無回答	5.0

【調査票の集計等について】

- 1 回答のあった調査票は以下の諸ルールに基づき、集計した。
 - ① 全体の 3 分の 1 以上の回答がない調査票は集計には使用しない（有効回答票としない）。
 - ② 調査対象者の性別が選挙人名簿と異なる場合、集計に使用しなかった。
 - ③ 調査対象者が記載した年齢が選挙人名簿の年齢と異なっていたときは±5 歳以内の場合に限り使用することとし、集計上は選挙人名簿に記載の年齢とした。
 - ④ 調査対象者の性別、又は年齢が未記入のものは、そのまま使用した。
 - ⑤ 質問が単一回答を求めているのに、複数回答があった場合
 - ア （選択肢「わからない」がある場合） Q1、Q3～5 等の 5 段階評価の質問については「意識の強いもの」を優先して処理した。（例 1 と 2 に回答があれば 1 を生かす）
「わからない」と他の選択肢に回答があった場合は、「わからない」以外の選択肢を使用した。
 - イ （選択肢「わからない」がない場合） 選択肢が段階評価でない場合は、回答番号をランダムに選び、単一回答とした。（段階評価の場合は上記アと同じ）
 - ⑥ 投票率が低い理由を 1 つ選ぶ質問(Q15)や支持政党を 1 つ選ぶ質問(Q18)、投票時間を選ぶ質問(Q10SQ1、SQ2、F7)で複数回答があった場合は無回答とした。
 - ⑦ Q26 で 18 や 19 に○がついていながら、Q26SQ にも○をつけるなど回答する必要のない質問に回答があった場合(Q26SQ)は無回答とした。
 - ⑧ Q20 での A「見聞きした」と B「役に立った」の関係で、B に回答があり、対応する A に回答がない場合、A を回答ありとした。
 - ⑨ Q10SQ4、Q12、Q14、Q19、Q20 など複数回答を求める質問で、「わからない」との重複回答があった場合、「わからない」を消して他の選択肢を使用した。
 - ⑩ Q16、Q17 で 1～11 を選んでいるが、年齢(F2)が 20 歳以下など、回答内容と年齢との違いが見られた場合、そのままとした。
- 2 調査結果（集計結果）は、原則として小数点第 1 位（第 2 位を四捨五入）までの百分率で表示している。
- 3 回答を複数答える質問の場合は、構成比が 100.0%を超えることがある。
- 4 30 頁以降の分析上の集計について、原則、無回答は除いて計算している。

IV はじめに

第 25 回参議院議員通常選挙（以下「参院選」）は、令和元年 7 月 4 日（木）に公示され、7 月 21 日（日）に投開票が行われた。12 年ごとに訪れる亥年の選挙の年に行われた今回の参院選は、衆議院選挙との同日選の可能性、夫婦の老後資金に「2 千万円が必要」とする試算を盛り込んだ金融庁の報告書をめぐる、いわゆる「老後 2 千万円問題」と称する年金問題、令和元年 10 月から消費税が 8% から 10% に増えることへの是非、与党が憲法改正の国会発議に必要な「3 分の 2」の議席を獲得できるかなどが公示日までの間、話題にのぼった。

選挙制度では今回の参院選から、選挙区間における議員一人当たりの人口の較差の縮小を図るため、選挙区選出議員の定数を 2 増加する是正措置が取られた。また比例代表選挙については、これまでの非拘束名簿式を維持しながら、当選人となるべき順位が記載された名簿登載者を優先的に当選人とする特定枠制度が導入されるとともに、比例代表選出議員の定数も 4 増加された。

また、平成 30 年 5 月に、国政選挙及び地方選挙において、男女の候補者数をできる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とした「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が成立・施行されてから初めての国政選挙でもあった。

選挙結果は表 1 のとおりで、自由民主党は 57 議席を獲得、改選前議席数より 9 議席減少した。公明党 3 議席増え 14 議席、非改選議員を含めると連立与党は 141 議席となり、過半数は超えたものの、3 分の 2 議席を確保するまでには至らなかった。立憲民主党は 8 議席伸ばし 17 議席を獲得、日本維新の会も 3 議席増え 10 議席となった。その他今回の参院選で初めて国政選挙に進出した、れいわ新選組が 2 議席を、NHK から国民を守る党が 1 議席を獲得した。

表 1 第 25 回参院選結果

	改選後					改選前			増減 (A)－(B)
	当選人			非改選	合計(A)	改選前	非改選	合計(B)	
	選挙区	比例代表	計						
自由民主党	38	19	57	56	113	66	56	122	－9
立憲民主党	9	8	17	15	32	9	15	24	8
公明党	7	7	14	14	28	11	14	25	3
国民民主党	3	3	6	15	21	8	15	23	
日本維新の会	5	5	10	6	16	7	6	13	3
日本共産党	3	4	7	6	13	8	6	14	－1
社会民主党	－	1	1	1	2	1	1	2	0
れいわ新選組	－	2	2	－	2	1	－	1	1
NHKから国民を守る党	－	1	1	－	1	－	－	0	1
オリーブの木	－	－	－	－	0	－	－	0	0
幸福実現党	－	－	－	－	0	－	－	0	0
労働の解放をめざす労働者党	－	－	－	－	0	－	－	0	0
安楽死制度を考える会	－	－	－	－	0	－	－	0	0
諸派・無所属	9	－	9	8	17	5	8	13	4
欠員	0	－	－	－	0	5	－	5	－5
合計	74	50	124	121	245	121	121	242	3

明るい選挙推進協会は選挙後、有権者を対象に全国的な政治意識調査を実施した。本報告書はその調査結果を中心としながら、あわせて過去の調査データとの比較を行い、今回の参院選の実態を明らかにすることを目的としている。

V 投票率・選挙結果・選挙競争率・選挙違反検挙状況

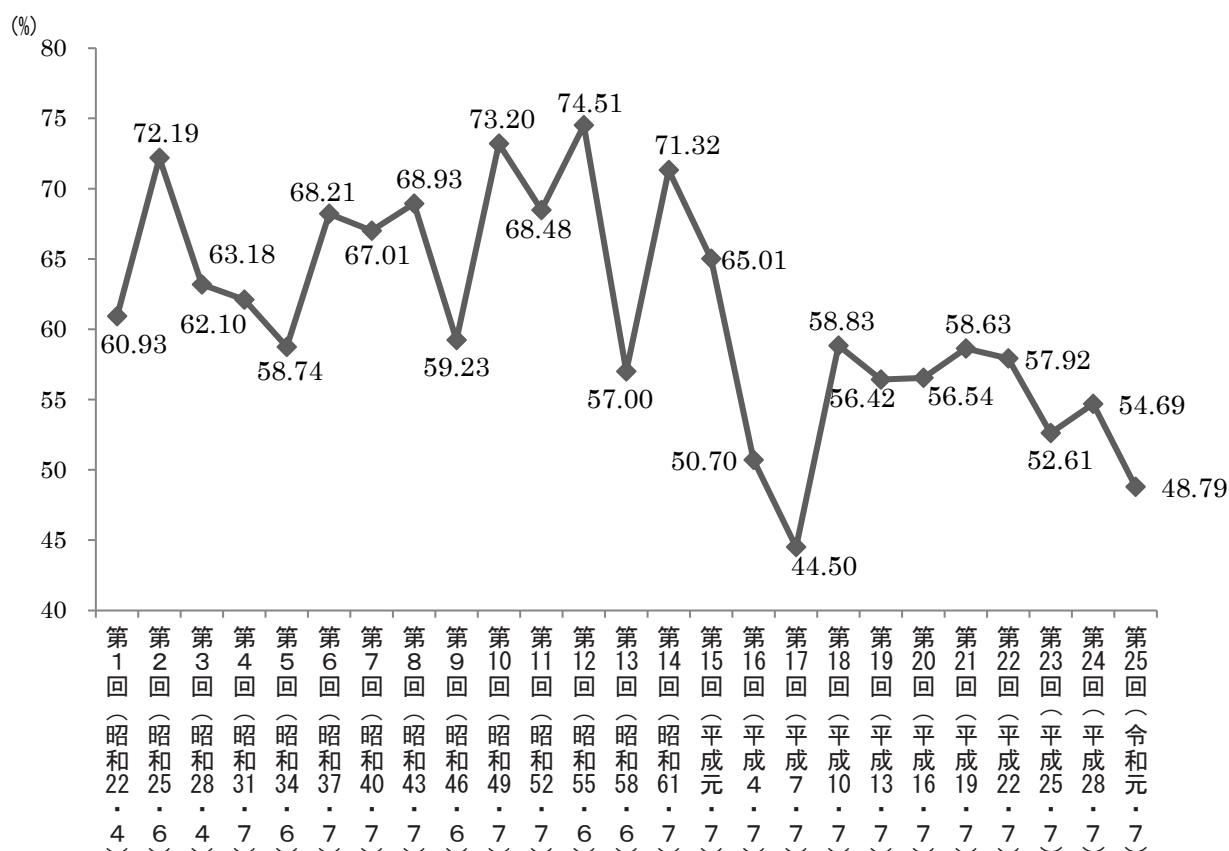
ここでは総務省が発表した投票率・選挙結果・選挙競争率、警察庁が発表した選挙違反検挙状況を見てみる。

(1) 投票率

今回の参院選の比例代表選挙の投票率は 48.79%であった（選挙区選挙は 48.80%）。前回より 5.9 ポイント減少し、第 17 回（平 7）の 44.50%に次いで、2 番目に低い結果となった¹。

また、国政選挙史上、投票率が 50%を下回る 2 回目の選挙となった。

図 1 参院選投票率の推移（全国区選挙・比例代表選挙）

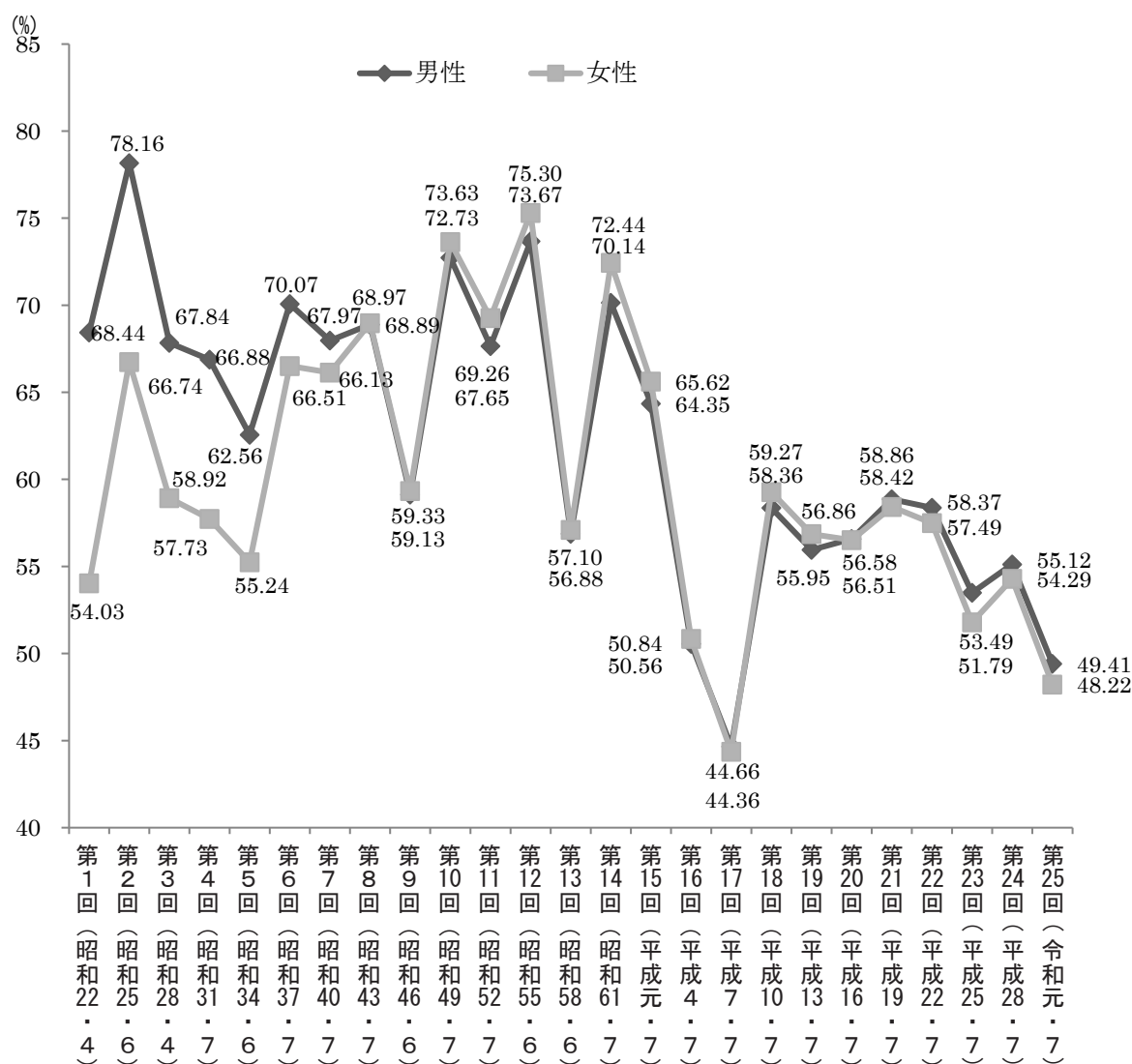


¹ 投票率を比較すれば今回は史上 2 番目に低いこととなるが、最も低かった平成 7 年当時に比べ、投票時間が 2 時間延長されている、期日前投票制度がある、共通投票所が設置できる、など有権者を取り巻く投票環境等は現在の方がより整備されている。この点も加味し今回の投票結果を見ていく必要もあると考える。

男女別の投票率を見ると（図2）、男性が49.41%、女性が48.22%で、前回より男性が5.71ポイント、女性が6.07ポイント減少した。

男女間の投票率について、第1回から第7回までは男性の方が高く、第8回から第19回までは、第17回を除き、概ね1ポイント程度で、女性が男性を上回った。第20回からは再び男性が女性を上回るようになったが、その差はわずかである。今回も男性が上回るものの、その差は1.19ポイントであった。

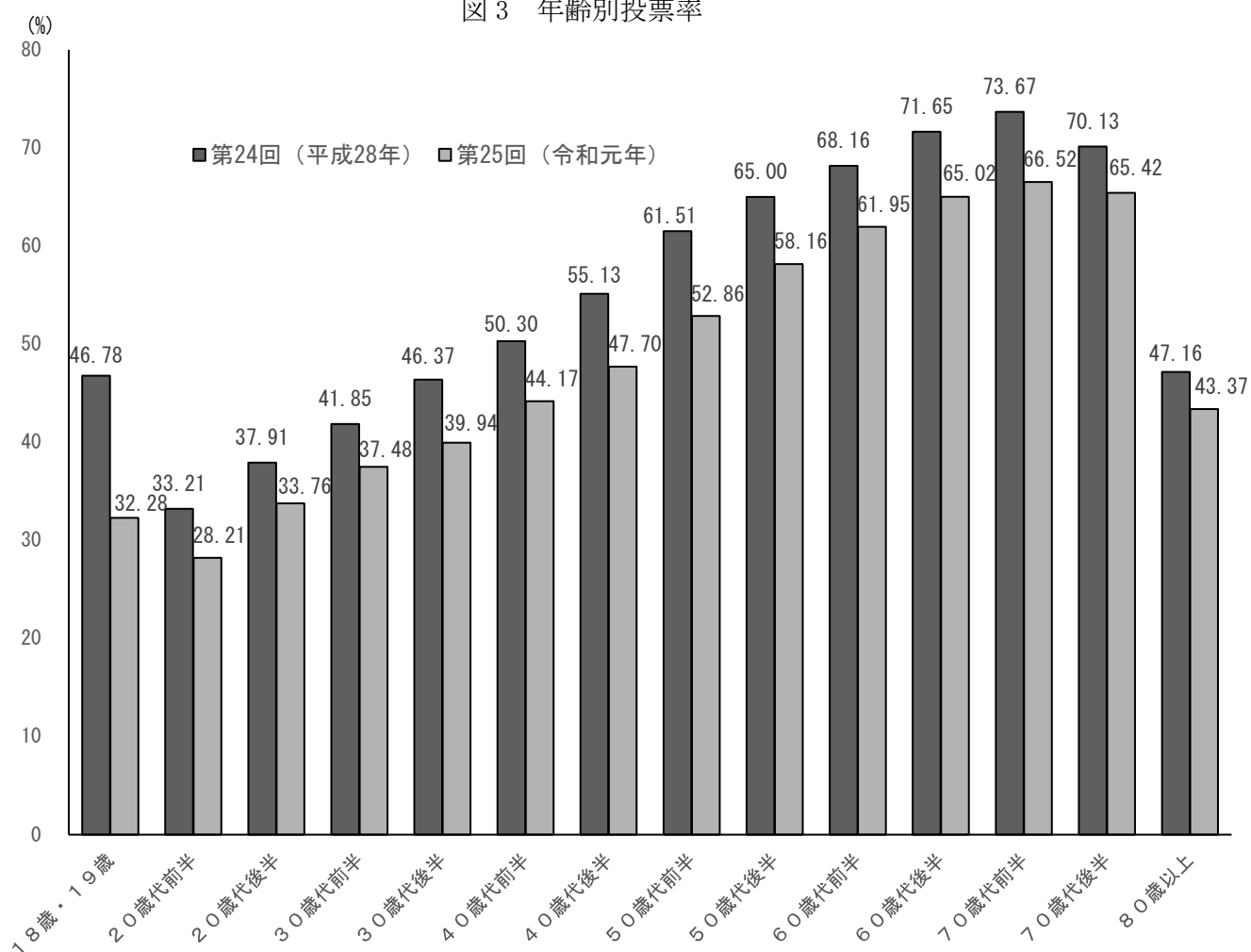
図2 男女別投票率の推移（全国区選挙・比例代表選挙）



総務省が公表した今回の参院選の年齢別投票率を、前回参院選時(第24回)と比較して見てみる(図3)。最も投票率が低い20歳代前半を起点に、年齢の高まりとともに投票率も上昇する傾向は、前回と同じ様相となっている。今回、20歳代前半の投票率は28.21%、最も高かったのは70歳代前半の66.52%で、その差は38.31ポイントと2倍を超える開きとなっている。また20歳代前半から80歳以上までの投票率を前回と比較してみると、各年齢において約4~8ポイント、今回の方が低い結果となっている。

前回の参院選から有権者となった18歳、19歳の投票率を見てみると、今回は32.28%と20歳代前半(28.21%)は上回ったものの、前回の46.78%からは14.50ポイントも低下した²。これは他の年代に比し、群を抜く減少幅となっている。更に付け加えれば、3年前、46.78%の投票率を示した18-19歳は、今回は21-24歳となり20歳代前半に含まれるが、その投票率の減少幅は更に大きく18.57ポイントとなった。これは前回参院選が、18歳に選挙権年齢が引き下げられた最初の国政選挙であったことから多くの関心を集めたことに由来すると思われる。結果として、18歳選挙権そのものに関心が薄れることで、若者の投票率も下がったのであろう。今後の若年層の投票率を注視していくことが必要である。

図3 年齢別投票率



² 今回の18-19歳、それぞれの投票率(抽出)は、18歳は35.62%(前回51.17%)、19歳は28.83%(前回39.66%)であった。

都道府県別の投票率を見ると（表 2）、今回、最も投票率が高かったのは山形県の 60.73%で、次いで岩手県の 56.54%、秋田県の 56.28%が続く。山形県は前は 2 位、岩手県は前は 9 位であった。

今回、高知県以外のすべての都道府県で投票率は減少しているが、その中で減少幅が最も大きかったのは青森県で、前回から 12.37 ポイント低下した（今回 42.93%、前回 55.30%）。

次に、前回の参院選から合区選挙区となった、鳥取県・島根県、徳島県・高知県の 4 県の投票率を見てみる。島根県は今回は 54.04%と、前回の 62.19%より 8.15 ポイント低下した。鳥取県も今回は 49.98%で、前回の 56.28%より 6.30 ポイント低下した。徳島県・高知県を見ると、徳島県は今回は 38.60%で、前回の 46.96%より 8.36 ポイント低下した。高知県は今回は 46.33%で、前回の 45.52%より 0.81 ポイントとわずかながら増えている。

表 2 都道府県別投票率（比例代表選挙 降順）

	投票率(%)		比較 (A)-(B)		投票率(%)		比較 (A)-(B)
	第25回 (A)	第24回 (B)			第25回 (A)	第24回 (B)	
1 山形県(2)	60.73	62.20	-1.47	25 愛知県(26)	48.18	55.41	-7.23
2 岩手県(9)	56.54	57.77	-1.23	26 群馬県(42)	48.17	50.50	-2.33
3 秋田県(4)	56.28	60.86	-4.58	27 福井県(18)	47.63	56.49	-8.86
4 新潟県(5)	55.30	59.76	-4.46	28 山口県(31)	47.31	53.35	-6.04
5 長野県(1)	54.29	62.85	-8.56	29 熊本県(37)	47.23	51.46	-4.23
6 島根県(3)	54.04	62.19	-8.15	30 石川県(14)	47.00	56.87	-9.87
7 北海道(15)	53.75	56.77	-3.02	31 富山県(24)	46.87	55.60	-8.73
8 福島県(12)	52.41	57.12	-4.71	32 埼玉県(36)	46.48	51.94	-5.46
9 愛媛県(19)	52.38	56.35	-3.97	33 京都府(39)	46.42	51.15	-4.73
10 滋賀県(17)	51.96	56.51	-4.55	34 高知県(47)	46.33	45.52	0.81
11 東京都(11)	51.76	57.48	-5.72	35 鹿児島県(22)	45.75	55.85	-10.10
12 三重県(6)	51.69	59.74	-8.05	36 長崎県(21)	45.46	55.88	-10.42
13 山梨県(7)	51.56	58.82	-7.26	37 香川県(43)	45.31	50.04	-4.73
14 宮城県(33)	51.16	52.38	-1.22	38 千葉県(35)	45.28	52.01	-6.73
15 岐阜県(10)	51.00	57.74	-6.74	39 佐賀県(16)	45.25	56.69	-11.44
16 大分県(8)	50.54	58.37	-7.83	40 岡山県(40)	45.08	50.85	-5.77
17 静岡県(23)	50.45	55.75	-5.30	41 茨城県(41)	45.02	50.77	-5.75
18 和歌山県(28)	50.41	55.28	-4.87	42 広島県(45)	44.67	49.58	-4.91
19 鳥取県(20)	49.98	56.28	-6.30	43 栃木県(38)	44.14	51.38	-7.24
20 奈良県(13)	49.53	56.89	-7.36	44 青森県(27)	42.93	55.30	-12.37
21 沖縄県(29)	48.96	54.36	-5.40	45 福岡県(32)	42.85	52.85	-10.00
22 神奈川県(25)	48.72	55.46	-6.74	46 宮崎県(44)	41.78	49.75	-7.97
23 大阪府(34)	48.62	52.23	-3.61	47 徳島県(46)	38.60	46.96	-8.36
24 兵庫県(30)	48.59	53.73	-5.14	計	48.79	54.69	-5.90

（ ）内の数字は前回の順位

(2) 選挙結果

比例代表選挙、選挙区選挙の結果をそれぞれ見ていく（表 3-1、3-2）。

まず、比例代表選挙は、自由民主党（以下、自民党という）が 35.37% を得票し、定数（50）の約 4 割となる 19 議席を獲得した。得票率が 10% 以上のその他の政党を見ると、立憲民主党が 15.81% で 8 議席、公明党が 13.05% で 7 議席を獲得している。

選挙区選挙では、自民党が 39.77% の得票率で、38 議席を獲得した。議席率は 51.35% であった。その他、立憲民主党は 15.79% の得票率で 9 議席を、公明党は 7.77% の得票率で 7 議席を、日本維新の会は 7.28% の得票率で 5 議席を、日本共産党（以下、共産党という）は 7.37% の得票率で 3 議席を、国民民主党は 6.47% の得票率で 3 議席を、それぞれ獲得した。

表 3-1 党派別得票率（比例代表選挙）

	比例代表選挙				
	立候補者数	議席数	得票数	得票率	議席率
自由民主党	33	19	17,712,373.119	35.37	38.00
立憲民主党	22	8	7,917,720.945	15.81	16.00
国民民主党	14	3	3,481,078.400	6.95	6.00
公明党	17	7	6,536,336.451	13.05	14.00
日本維新の会	14	5	4,907,844.388	9.80	10.00
日本共産党	26	4	4,483,411.183	8.95	8.00
社会民主党	4	1	1,046,011.520	2.09	2.00
れいわ新選組	9	2	2,280,252.750	4.55	4.00
NHKから国民を守る党	4	1	987,885.326	1.97	2.00
オリーブの木	4		167,897.997	0.34	0.00
幸福実現党	3		202,278.772	0.40	0.00
労働の解放をめざす労働者党	4		80,055.927	0.16	0.00
安楽死制度を考える会	1		269,052.000	0.54	0.00
諸派					
合計	155	50	50,072,198.778	100.00	100.00

表 3-2 党派別得票率（選挙区選挙）

	選挙区選挙				
	立候補者数	議席数	得票数	得票率	議席率
自由民主党	49	38	20,030,330.963	39.77	51.35
立憲民主党	20	9	7,951,430.000	15.79	12.16
国民民主党	14	3	3,256,859.000	6.47	4.05
公明党	7	7	3,913,359.000	7.77	9.46
日本維新の会	8	5	3,664,530.000	7.28	6.76
日本共産党	14	3	3,710,768.000	7.37	4.05
社会民主党	3	0	191,820.000	0.38	0.00
れいわ新選組	1	0	214,438.000	0.43	0.00
NHKから国民を守る党	37	0	1,521,344.000	3.02	0.00
オリーブの木	6	0	91,675.000	0.18	0.00
幸福実現党	9	0	187,491.000	0.37	0.00
労働の解放をめざす労働者党	6	0	75,317.841	0.15	0.00
安楽死制度を考える会	9	0	215,181.000	0.43	0.00
諸派	1	0	3,586.029	0.01	0.00
無所属	31	9	5,335,641.135	10.59	12.16
合計	215	74	50,363,770.968	100.00	100.00

比例代表制が導入された第13回以降の男女別立候補者数と当選者数及び当選者中の女性議員の比率の推移を表4にまとめた。

冒頭述べたとおり、今回の参院選は「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が成立・施行されてから初の国政選挙となったが、女性の候補者数は104人と前回より8人多く、うち当選者数は28人と前回と同じく過去最多となっている。³

表4 男女別立候補者数・当選者数

	候補者数		当選者数		当選した女性議員の比率(%)
	男性	女性	男性	女性	
第13回(昭和58・6)	375	55	116	10	7.94
第14回(昭和61・7)	424	82	116	10	7.94
第15回(平成元・7)	524	146	104	22	17.46
第16回(平成4・7)	517	123	113	13	10.32
第17回(平成7・7)	443	124	105	21	16.67
第18回(平成10・7)	364	110	106	20	15.87
第19回(平成13・7)	359	137	103	18	14.88
第20回(平成16・7)	254	66	106	15	12.4
第21回(平成19・7)	286	91	95	26	21.49
第22回(平成22・7)	337	100	104	17	14.05
第23回(平成25・7)	328	105	99	22	18.18
第24回(平成28・7)	293	96	93	28	23.14
第25回(令和元・7)	266	104	96	28	22.58

*当選者数は比例代表選挙及び選挙区選挙の当選者数の合計

³ 改選議席定数について、第18回までが126、第19回以降が121、今回は124であった。このため前回と当選人数は同じでも女性議員比率は異なる。(前回23.14%、今回22.58%)

(3) 選挙競争率

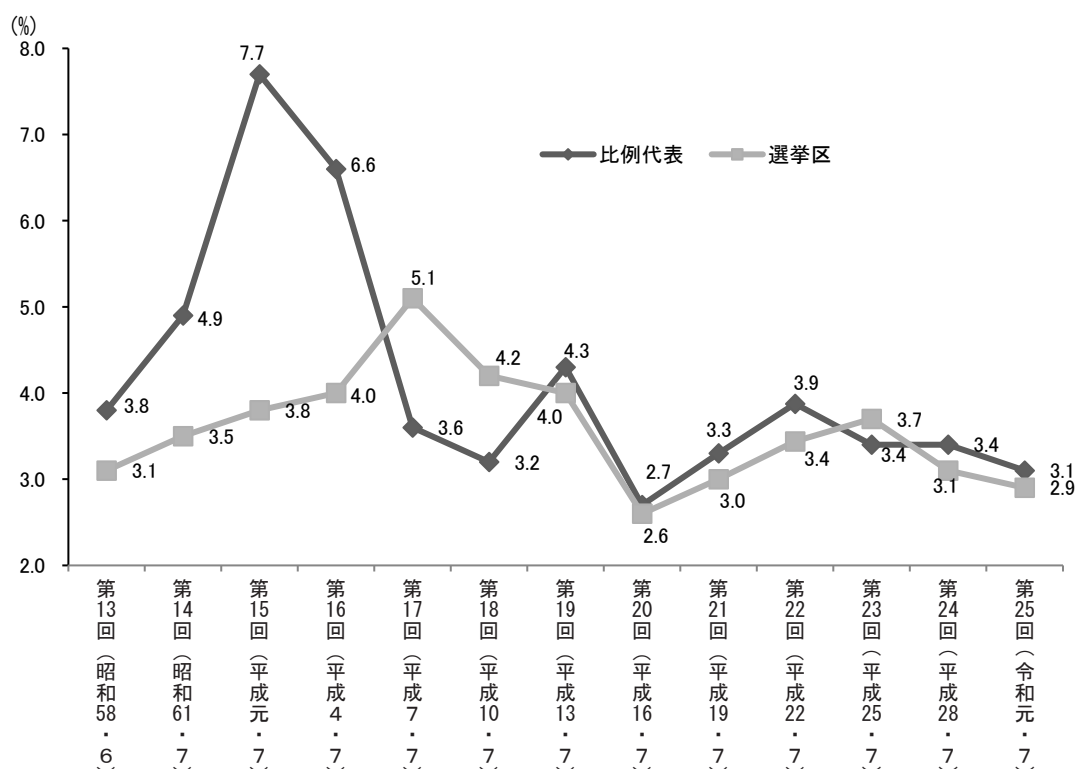
今回の参院選の選挙競争率は、選挙区選挙が2.9倍、比例代表選挙が3.1倍であった(表5)。競争率の推移を見ると(図4)、比例代表選挙は、第15回の7.7倍が最も高く、その後大きく低下して、第20回で過去最低の2.7倍となった。以降、4倍程度まで高まるものの近年は低下降傾向にある。なお、第13回から第18回までは拘束名簿式だったが、第19回からは非拘束名簿式に改正された。今回は非拘束名簿式を維持しながら、当選人となるべき順位が記載された名簿登載者が優先的に当選人となる特定枠制度が導入された。

選挙区選挙は比例代表選挙と様相が異なり、競争率の増減の幅が狭く、比較的なだらかな上昇と下降を繰り返している。比例代表選挙と同じく第20回の競争率が過去最低で(2.6倍)、以降、微増してきたが、前回は0.6ポイント減り(3.1)、今回も前回からわずかながら低下し2.9倍であった。

表5 競争率

	競争率	改選定数	立候補者数
選挙区選挙	2.9	74	215
比例代表選挙	3.1	50	155
合計	3.0	124	370

図4 参議院選挙競争率の推移



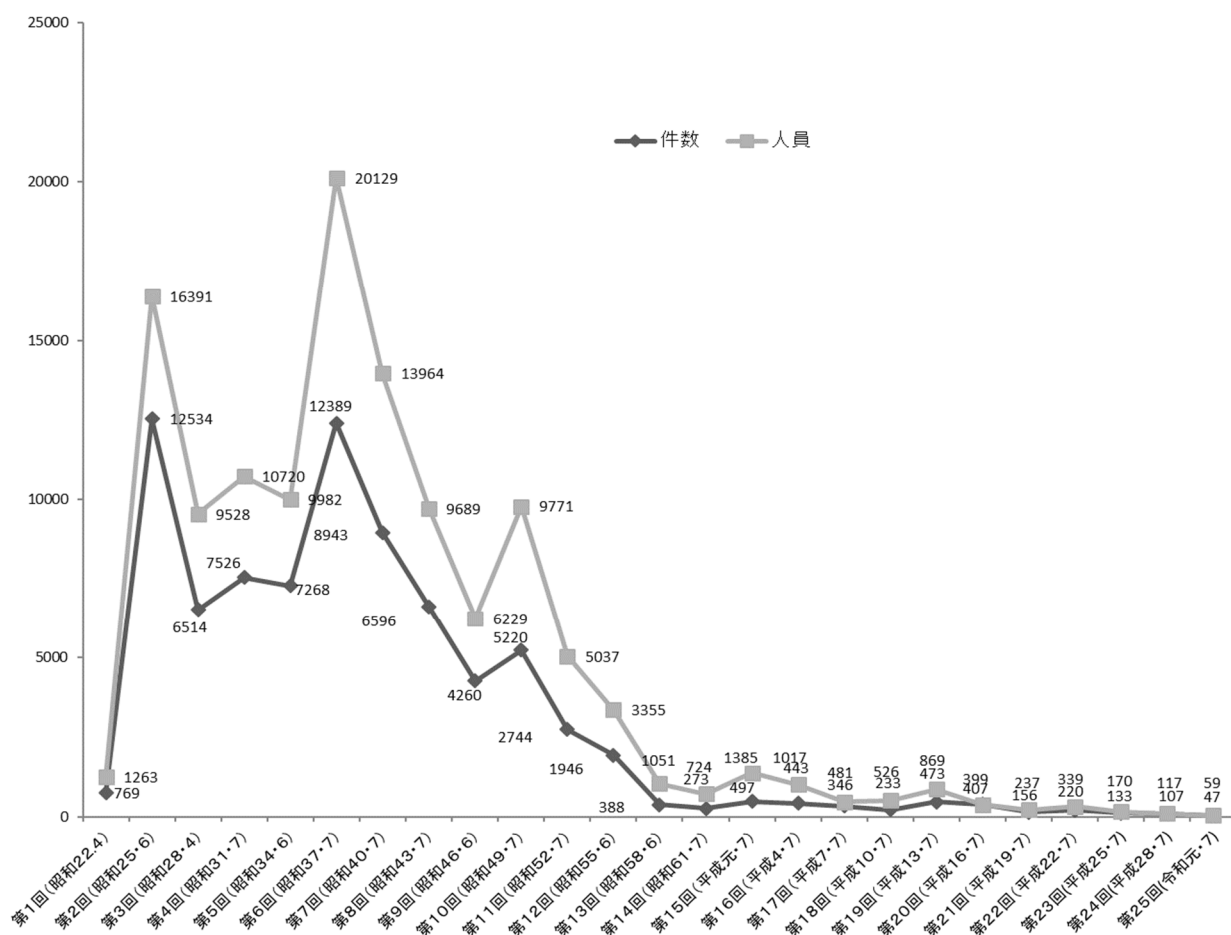
(4) 選挙違反検挙状況

警察庁発表の選挙期日後 90 日時点における選挙違反検挙状況を表 6 にまとめた。今回の参院選における検挙件数は 47 件、検挙された人数は 59 人で、過去最少の検挙件数、検挙人員となった。(図 5)

表 6 選挙違反検挙状況（選挙期日後 90 日時点（今回・前回）

	検挙件数		検挙人員		前回対比	
	今回	前回	今回	前回	検挙件数	検挙人員
買収	4	48	8	54	-44	-46
自由妨害	24	34	22	28	-10	-6
戸別訪問	0	0	0	0	0	0
文書違反	8	5	12	9	3	3
投票干渉	3	7	3	8	-4	-5
詐偽投票	6	3	8	3	3	5
投票偽造	1	1	5	6	0	-1
その他	1	9	1	9	-8	-8
合計	47	107	59	117	-60	-58

図 5 選挙違反検挙数の推移



VI 調査結果の概要

以下は本調査に基づく分析結果である。

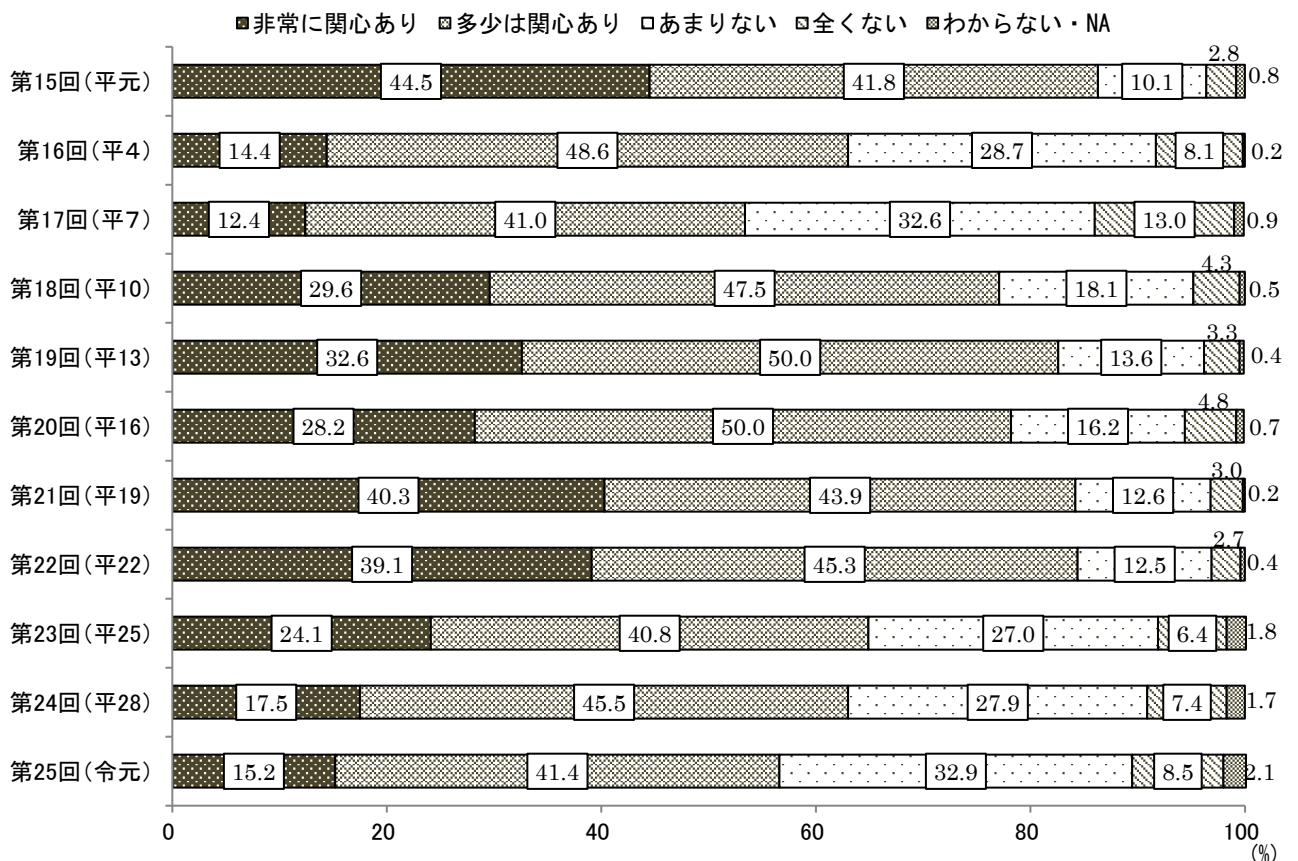
これまで尋ねてきた質問の回答結果を時系列にグラフなどで表しているが、第 22 回(平 22)までは面接調査法、第 23 回(平 25)以降は郵送調査法と調査方法が変わっているため、この点を特に留意して見ていく必要がある。

1 選挙に対する意識

(1) 選挙関心度

今回の参院選に有権者はどの程度の関心を示していたのだろうか。「7 月の参院選について、あなた自身はどれくらい関心がありましたか」という質問に対して、15.2%が「非常に関心があった」、41.4%が「多少は関心があった」、32.9%が「あまり関心がなかった」、8.5%が「全く関心がなかった」と回答している。前回と比べ、「非常に関心があった」は 2.3 ポイント、「多少は関心があった」は 4.1 ポイント減少している。一方「あまり関心がなかった」は前回の 27.9%より 5.0 ポイント増えて 32.9%となっており、これらの割合は参院選史上最も投票率が低かった第 17 回(平 7)と近い。(図 1-1)。

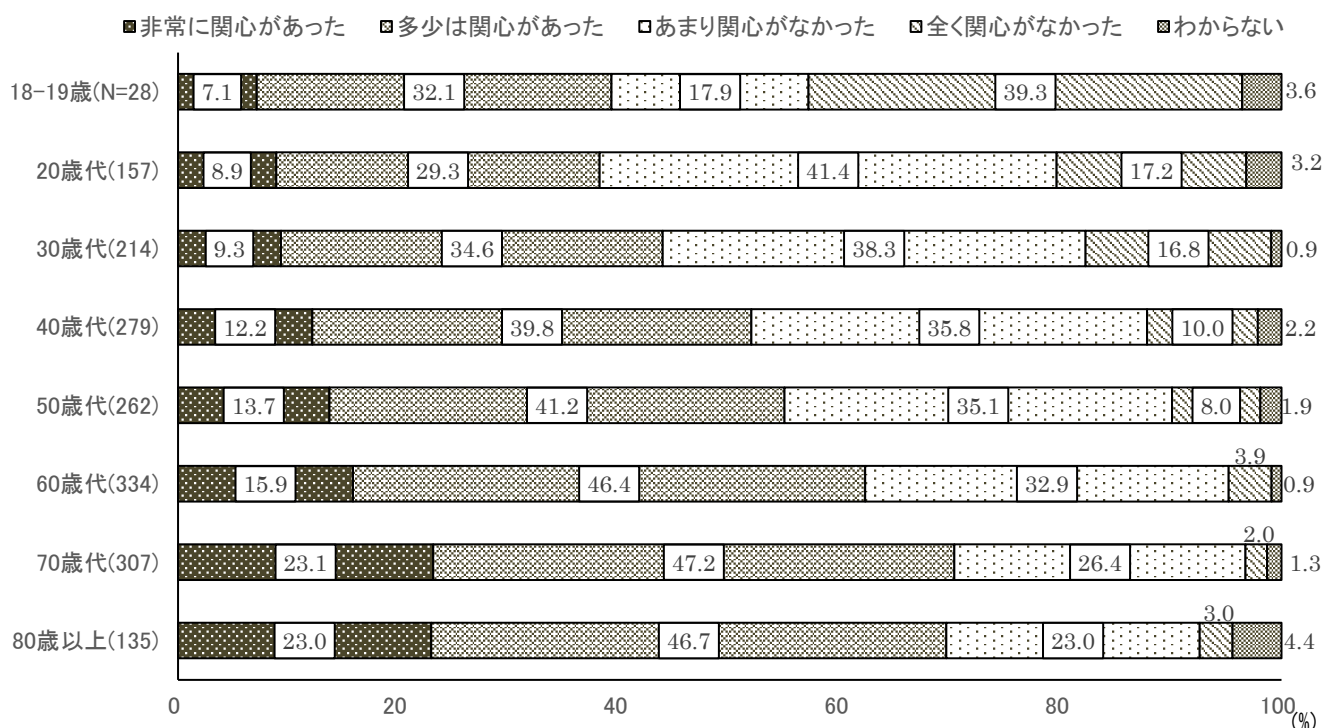
図 1-1 選挙関心度の推移



* 第 22 回以前は面接調査、第 23 回以降は郵送調査による。

今回の参院選に対する関心度を年代別に見てみる（図1-2）。選挙関心度は、投票率と同様、年齢との関係があることがわかる。「非常に関心があった」割合を見ると、新有権者である18-19歳の7.1%が最も低く、以降、年齢が高まるごとに上昇していく。これは「多少は関心があった」を含めてもほぼ同様となっている。一方、「あまり関心がなかった」は、20歳代の41.4%が最も高く、以降、減少していく。18-19歳の「あまり関心がなかった」は17.9%と他の年代に比べ最も低い⁴が、「全く関心がなかった」が39.3%と突出して高い⁴。前回の調査結果では「全く関心がなかった」は9.8%であったのに対し、今回は約30ポイントも増加している。この変化は、前回が18歳選挙権が話題となっていたことを念頭に理解する必要がある。

図1-2 年代別選挙関心度



⁴ 図1-2に記載のとおり18・19歳の標本数は28である点、留意のこと。

(2) 政治関心度

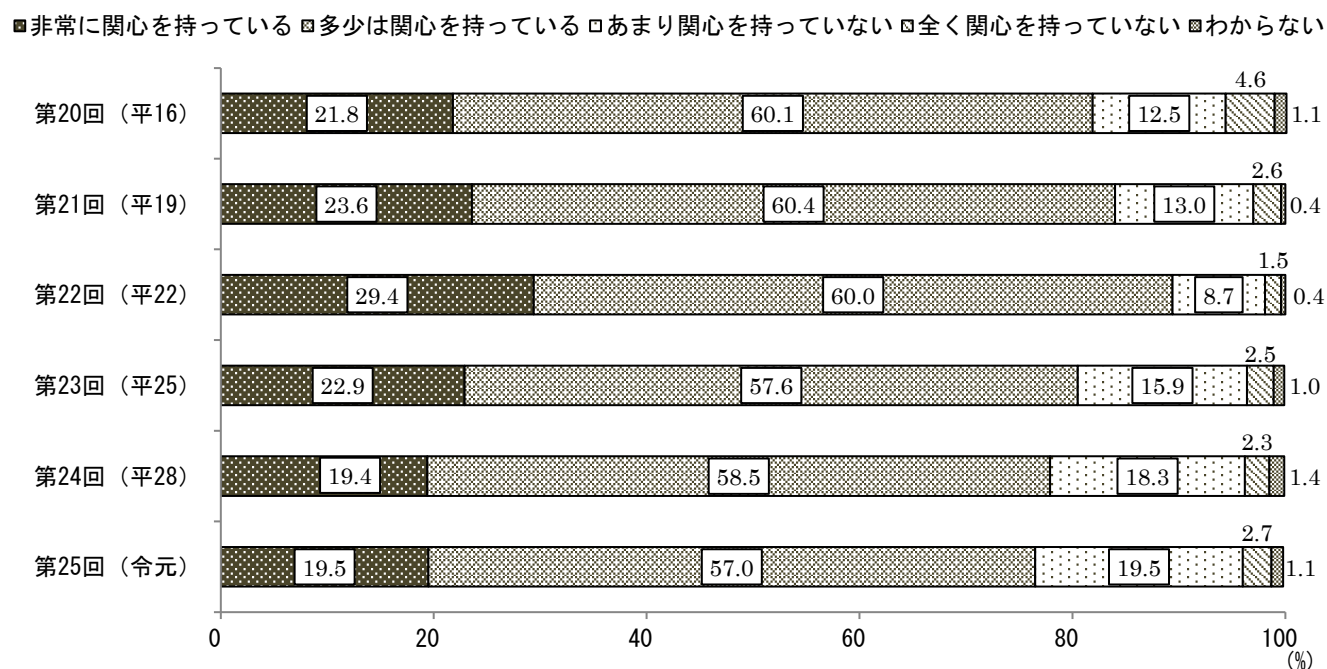
本調査では、有権者が常日頃、どの程度政治に関心があるのかを探るため「あなたは、ふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか」という質問を継続して尋ねている。その結果をまとめたのが図 1-3 である。

この図で調査結果の推移を見ると、第 22 回まで「非常に関心を持っている」及び「多少は関心を持っている」を含めた割合は増加してきたが、第 23 回からは減少に転じている。

今回は 19.5%が「非常に関心を持っている」、57.0%が「多少は関心を持っている」、19.5%が「あまり関心を持っていない」、2.7%が「全く関心を持っていない」と回答した（図 1-3）。前回とほぼ同様の結果となっている。

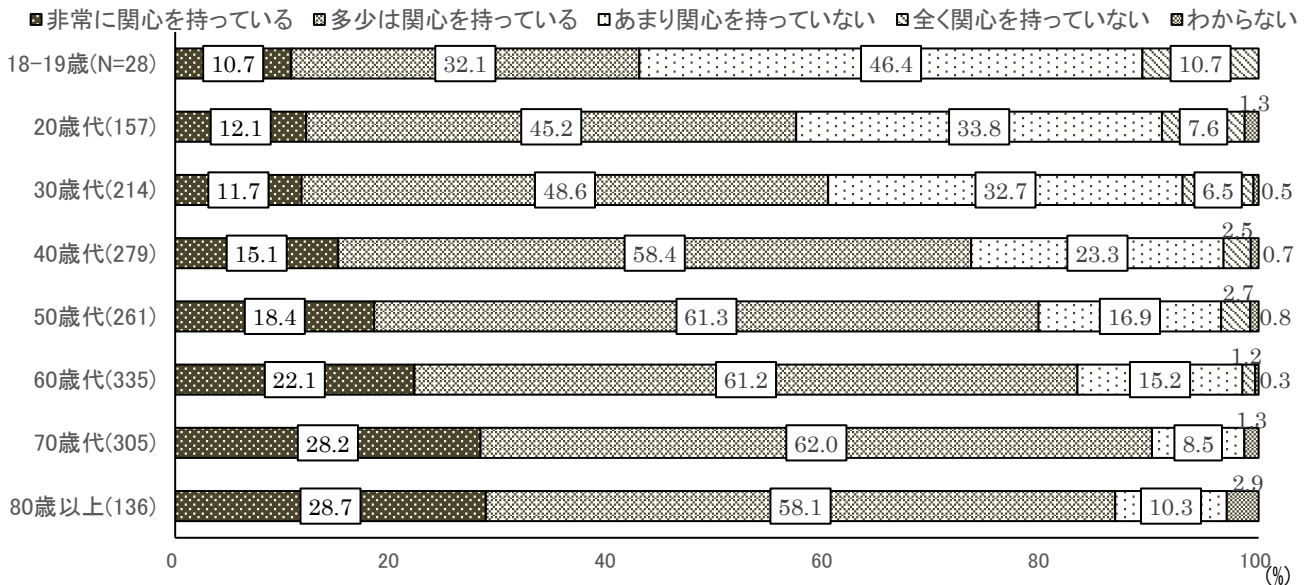
次に年代別の政治関心度を見ると（図 1-4）、先の選挙関心度と同じく、18-19 歳を起点とし、以降は年代が上がるにつれて「非常に関心を持っている」、「多少は関心を持っている」は高まる。反対に「あまり関心を持っていない」、「全く関心を持っていない」は 18-19 歳からの選択率が最も高く、以降、年代の高まりとともに減少していく。

図 1-3 政治関心度の推移



* 第 22 回以前は面接調査、第 23 回以降は郵送調査による。

図 1 - 4 年代別政治関心度

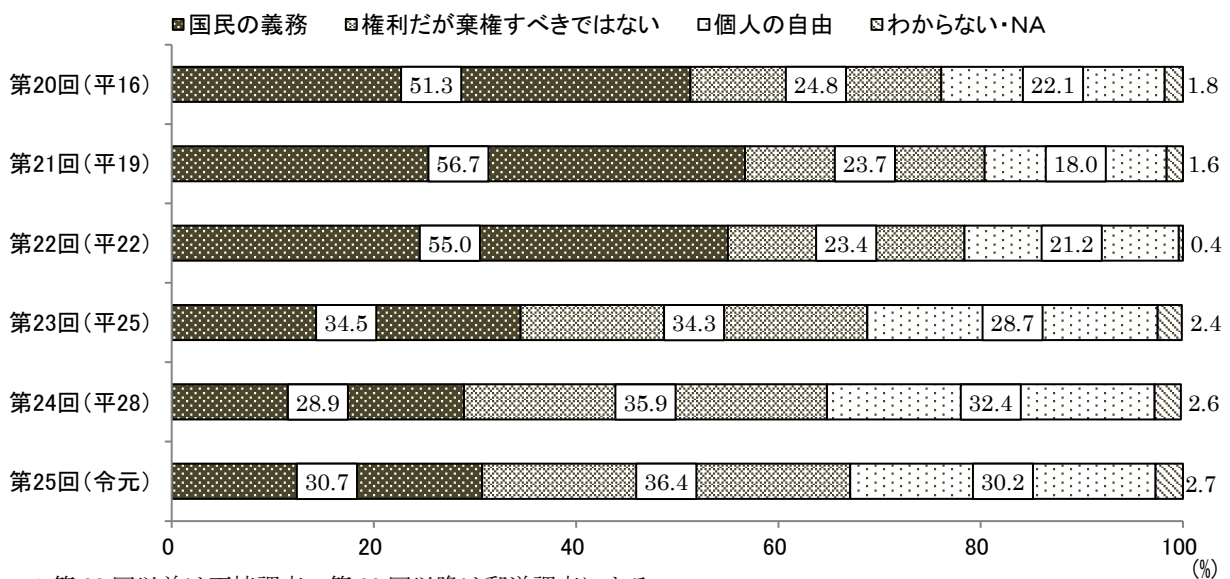


(3) 投票に対する意識 (投票義務感)

有権者は、選挙で投票するという行為を義務と捉えているのか、それとも権利と捉えているのか。「あなたはふだん、選挙の投票について、この中のどれに近い考えをもっていますか」という質問に対して 30.7%が「投票することは国民の義務である」、36.4%が「投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない」、30.2%が「投票する、しないは個人の自由である」、2.7%が「わからない」と回答している（図 1-5）。

前回の調査と比べ、いずれの選択肢も 1 ポイント程度の増減にすぎず、同様の結果となっている。過去の調査結果の推移を見ると第 22 回を境に、「国民の義務」が大きく減少するとともに、「権利だが棄権すべきではない」、「個人の自由」が増加しており、各選択肢の選択率に大きな変化が見られる。

図 1 - 5 投票に対する意識

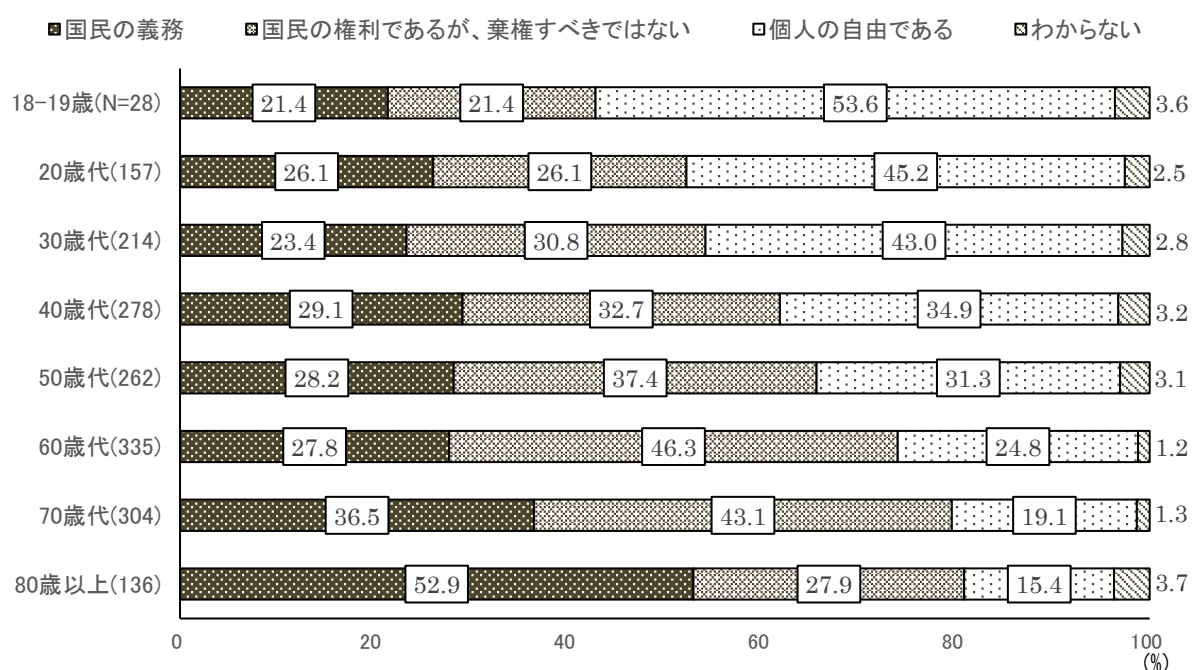


* 第 22 回以前は面接調査、第 23 回以降は郵送調査による。

次に投票に対する意識を年代別に見ると（図1-6）、「国民の義務」については18-19歳の21.4%が最も低く、高齢者層になると選択率は高まる。「権利だが棄権すべきではない」も18-19歳の21.4%を起点に、年代を追うごとに増加傾向となる。一方、「個人の自由」は80歳以上が15.4%、70歳代が19.1%と若年層に向かうほど高まる。特に18-19歳は53.6%と過半数が選択している。

若い人ほど投票は「個人の自由」という意識が強いなど、年代によって選挙への意識が異なることが表れている。

図1-6 投票に対する意識（年代別）



(4) 政党支持

本調査では「あなたはふだん何党を支持していらっしゃいますか」という質問をし、支持する政党などを選択してもらっている。表 1-1 は、過去 5 回の参院選について、各政党への支持率の推移を示したものである。自民党の支持率は今回 35.5%で、前回の 34.6%とほぼ変わらない。今回、第二党の立憲民主党への支持率は 9.2%、次いで公明党の 4.1%、日本維新の会の 3.4%、日本共産党の 2.9%の順となる。

支持政党なしは前回より数ポイント減ったが、依然として 3 割程度の人を選択している。

表 1-1 支持政党

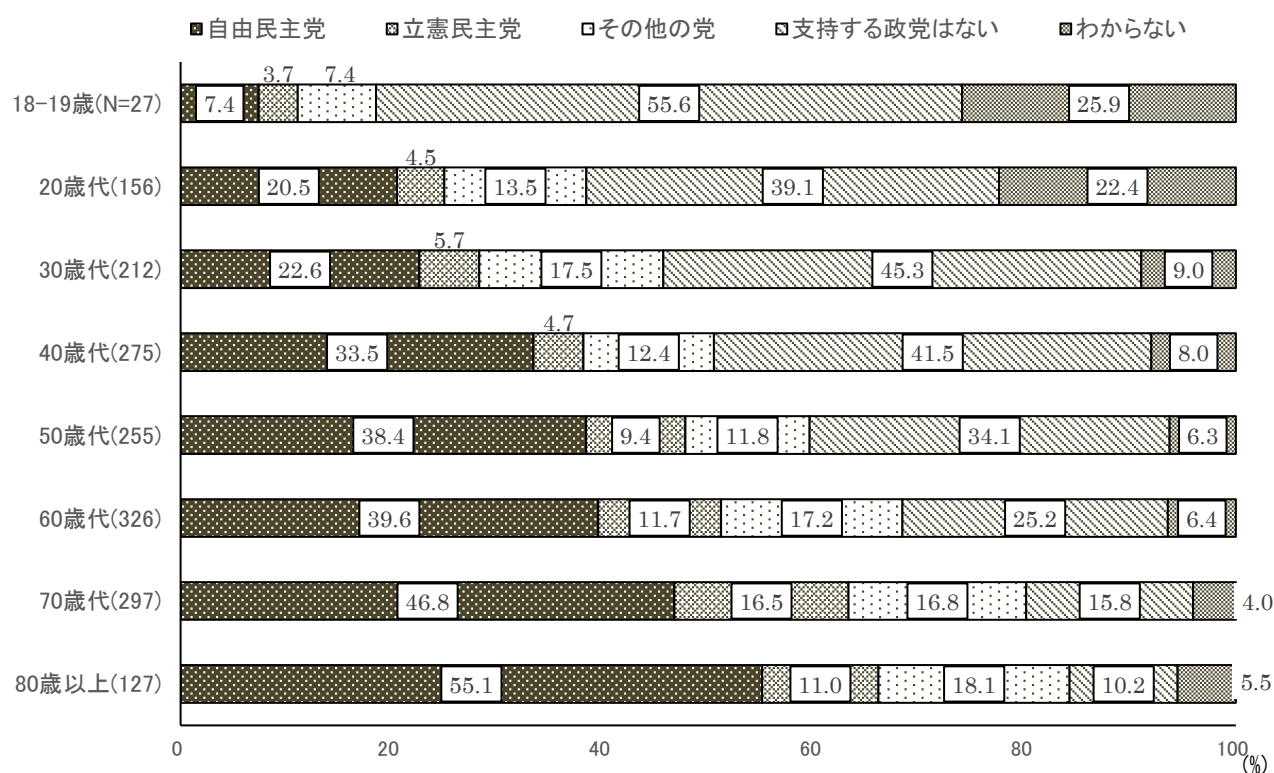
(%)

	第 20 回 (平 16)	第 21 回 (平 19)	第 22 回 (平 22)	第 23 回 (平 25)	第 24 回 (平 28)	第 25 回 (令元)
自民党	30.7	35.0	25.6	33.5	34.6	35.5
民主党	16.8	18.5	25.3	10.4		
民進党					11.9	
立憲民主党						9.2
国民民主党						1.2
公明党	4.9	5.1	4.1	4.7	5.2	4.1
日本共産党	2.4	2.5	2.3	3.0	2.7	2.9
日本維新の会				4.1		3.4
社会民主党	1.2	1.3	0.9	0.7	0.5	1.0
れいわ新選組						1.3
NHK から国民を守る党						0.5
みどりの風				0.0		
みんなの党			2.8	2.5		
生活の党				0.8	0.4	
新党大地			0.1	0.1		
おおさか維新の会					4.0	
日本のことを大切にする党					0.0	
その他	0.2	0.3	0.8	0.2	0.3	0.4
支持政党なし	37.8	32.5	31.5	32.5	32.2	30.0
わからない(NA 含む)	6.0	4.8	6.6	7.6	8.0	10.7

* 第 22 回以前は面接調査、第 23 回以降は郵送調査による。

次に、年代別の支持政党を「自民党」、自民党に次いで支持率の高かった「立憲民主党」、「その他の政党」、「支持政党なし」、「わからない」の5つに絞って見ていく（図1－7）。自民党及び立憲民主党とも、年代の高まりとともに支持率が増加する傾向が見られる。但し、いずれの年代も自民党への選択率と比べると、大きな開きがある。「その他の党」への支持は、18-19歳が他の世代に比べて少ないことを除けば、20歳代以上に大きな違いは見られない。「支持政党なし（支持する政党はない）」は若い人ほど多く、高齢に向かうに従い減少していく。特に18-19歳は半数を超える55.6%が、20歳代から40歳代においても約4割の人が「支持政党なし」を選択している。

図1－7 年代別支持政党



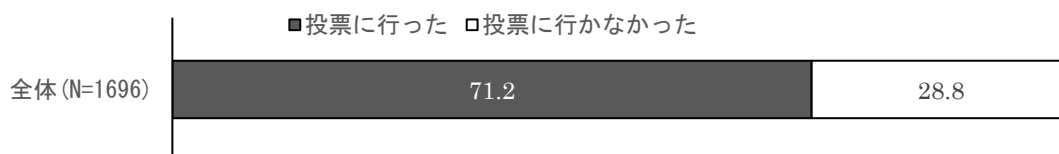
2 投票参加率

(1) 投票参加率とは

本報告書では、回答者の中で投票に行ったと回答した人の割合を「投票参加率」と呼び、「投票率」と区別する。「投票率」は、全国の有権者総数のうちで実際に投票した人の割合であり、「投票参加率」は本報告書で用いるデータに基づくものである。なお、無作為に抽出された標本を使えば、理論上は「投票参加率」で「投票率」を推定できるはずであるが、現実には投票参加率と投票率の間に統計上予想される標本誤差より大きなギャップが存在する。その理由は、本調査の回収率が100%ではなく、調査に協力しなかった対象者が、協力した対象者と特徴が異なると考えられるためである。特に、選挙で投票を棄権する有権者は、本調査にも協力しない傾向があると推測できる。したがって、投票参加率は、実際の投票率よりもかなり高くなる。今回は、投票参加率が71.2%で（図2-1）、実際の投票率の48.79%（比例代表選挙）とは22.4ポイントのギャップが生じている。ちなみに前回の投票参加率は73.1%で、実際の投票率とは19.7ポイントのギャップがあった。

なお、以下の分析では、「投票しましたか、しませんでしたか」という質問に対して、「わからない」、及び「NA（無回答）」は欠損値として除外して計算している。

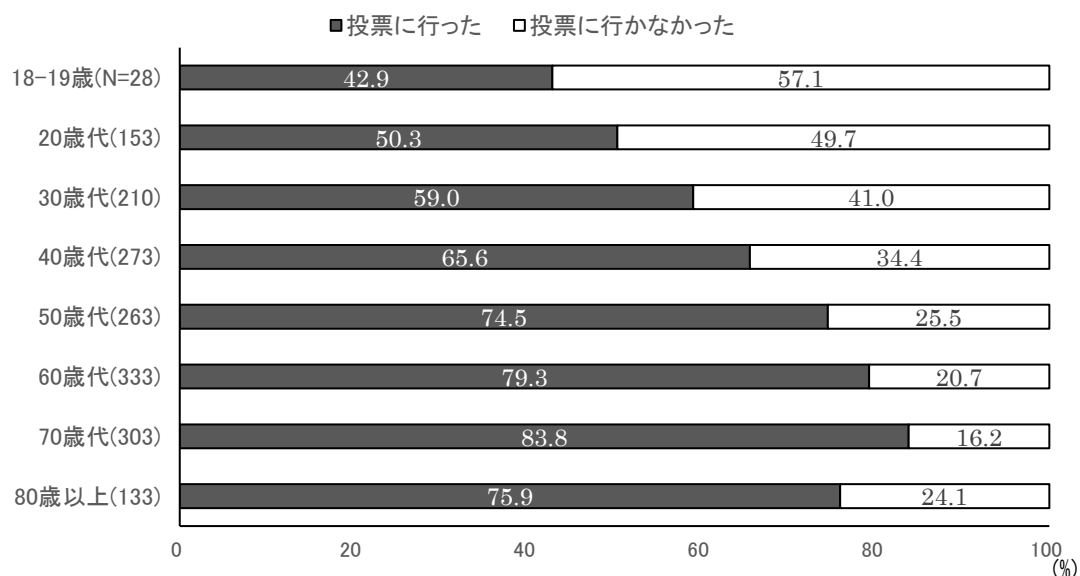
図2-1 投票参加率における投票・棄権



（２）社会的属性と投票参加率

以下、年代、学歴、職業等の社会的な属性がどのように投票参加率に影響を与えているのかを見ていく。まず、年代との関係では実際の投票率とは異なり、18-19 歳が最も低く、年代が上がるほど投票参加率も高くなっている（図 2-2）。

図 2-2 年代と投票・棄権



次に、学歴が投票参加率に与える影響を見るが、本報告書では在学中の場合、それを最終学歴とみなしている。学歴は、世代によって進学率が大幅に違うので、（１）「18-20 歳代」、（２）「30-40 歳代」、（３）「50-60 歳代」（４）「70 歳以上」の四つに分けて見ていくことにする（図 2-3～6）。まず、18-20 歳代では、学歴の影響が見られる。最終学歴が中学・高校卒の場合の投票参加率は 36.8%であるの対して、短大・高専・専修学校卒は 53.8%、大学・大学院卒では 57.0%となっている。30-40 歳代でも中学・高校卒から大学・大学院卒まで約 8 ポイントずつ高くなっていく。一方、50-60 歳代、70 歳以上では学歴の違いによる投票参加率の差異は見られない。

図 2 - 3 学歴と投票参加率（18-20 歳代）

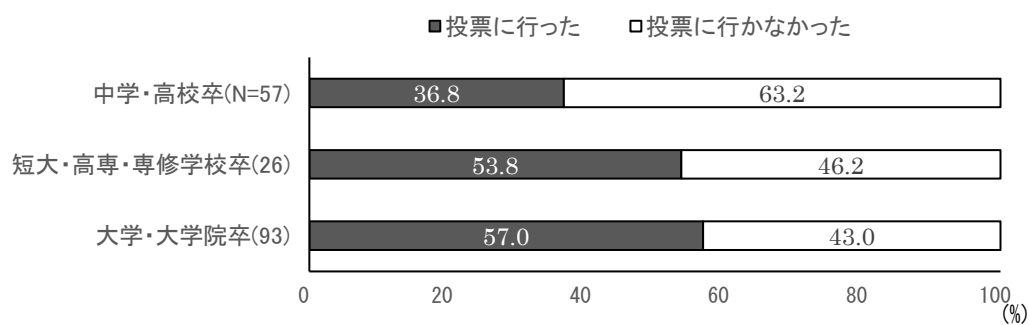


図 2 - 4 学歴と投票参加率（30-40 歳代）

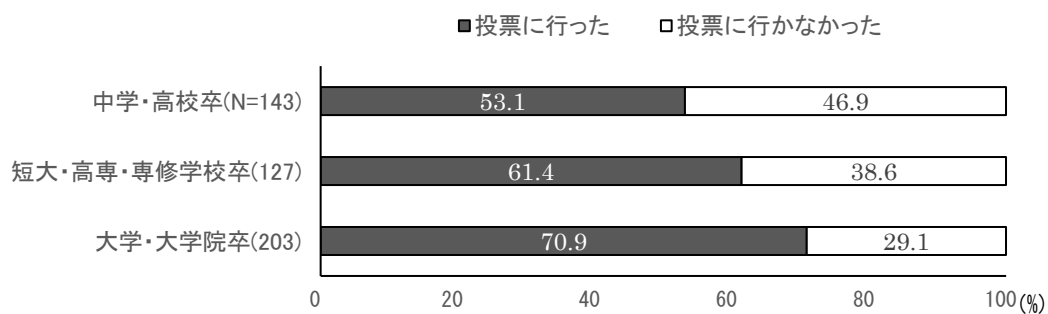


図 2 - 5 学歴と投票参加率（50-60 歳代）

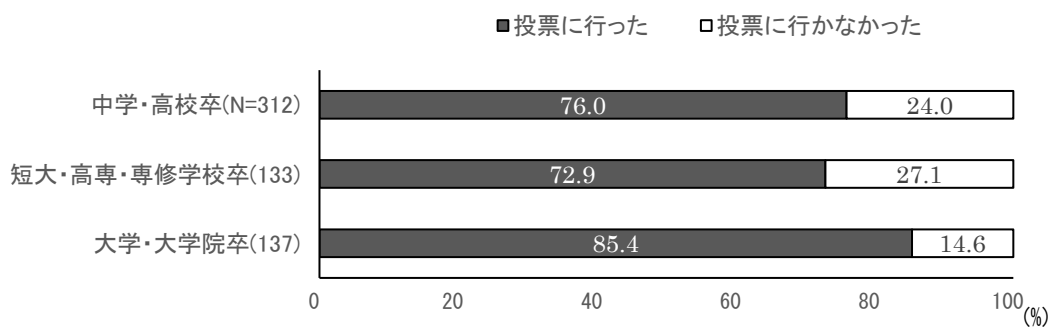
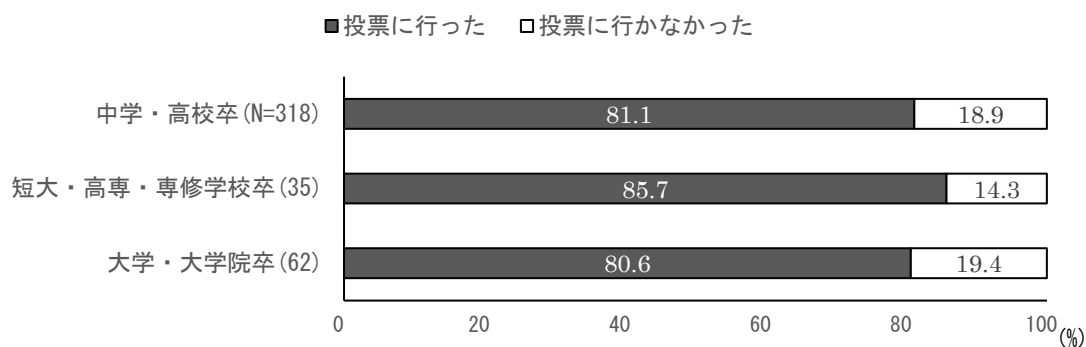
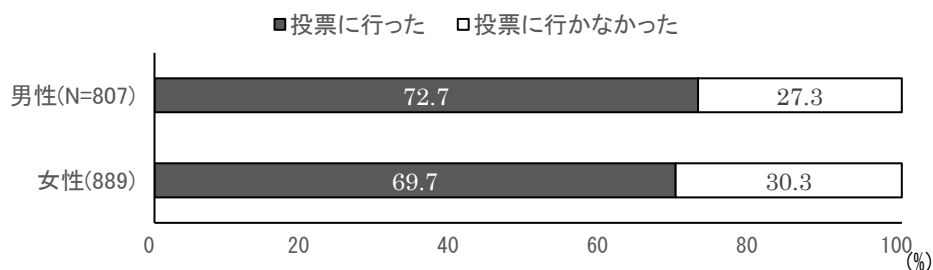


図 2 - 6 学歴と投票参加率（70 歳以上）



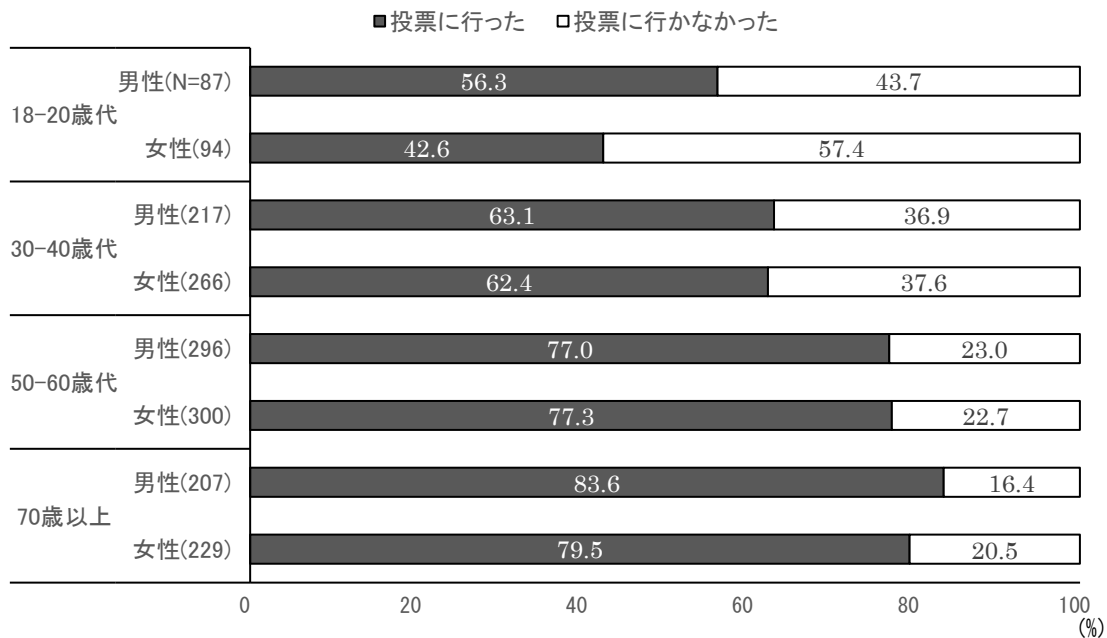
性別での違いを見ると（図 2－7）、男性の投票参加率は 72.7%、女性は 69.7%で男性が女性を上回っており、その差は 3.0 ポイントと、実際の投票率の差 1.19 ポイントより大きい（P16 図 2 参照）。

図 2－7 性別と投票参加率



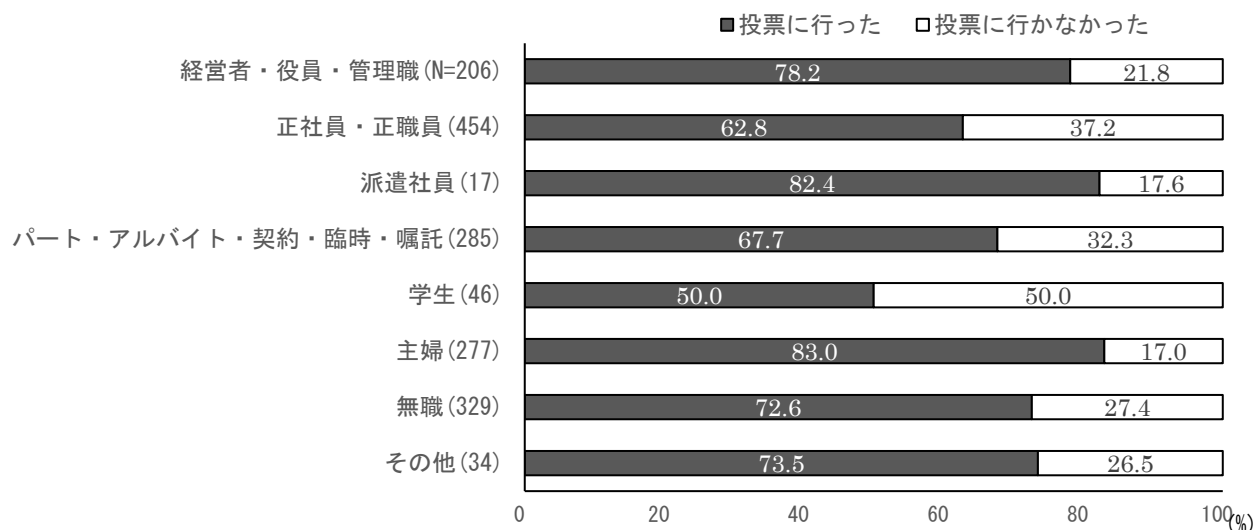
男女の違いを年代別に見ると、投票参加率の差が最も大きいのは 18-20 歳代で、男性の投票参加率が 56.3%であるのに対し、女性は 42.6%と男性の方が 13.7 ポイント高い。その他、70 歳以上で男性の方が女性より 4.1 ポイント高い以外は大きな違いは見られない（図 2－8）。

図 2－8 性・年代別と投票参加率



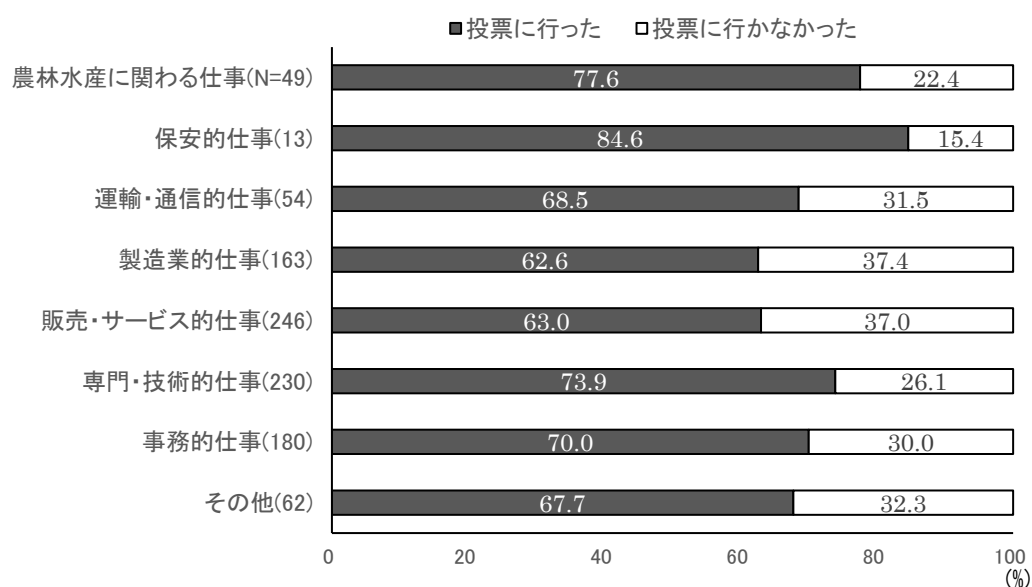
次に、就業形態別による投票参加率の違いをしてみる（図 2－9）。最も投票参加率が高かったのは主婦の 83.0%、次いで派遣社員の 82.4%、経営者・役員・管理職の 78.2%、無職の 72.6%の順となる。無職には 60 歳以上の高齢者が約 9 割を占めており、このことが投票参加率が高い要因と考える。

図 2－9 就業形態別投票参加率



就業者について、職種別投票参加率を見てみると（図 2－10）、保安的仕事に従事する人の投票参加率が 84.6%と最も高く、次いで農林水産に関わる仕事の 77.6%、専門・技術的仕事の 73.9%が続く。最も低かったのは製造業的仕事の 62.6%であった。

図 2－10 職種別投票参加率



団体への所属の有無による違いを見ると、団体に全く所属していない人の投票参加率は64.1%で、何らかの団体に所属している人よりも低い（図2-11）。団体やグループに所属することは、大なり小なり社会に関わることであり、そのため政治に関する情報も得る機会があったり、あるいは社会・政治運動の担い手の一員となることもあるため、投票参加率が高くなることが考えられる。

図2-11 所属団体と投票参加率

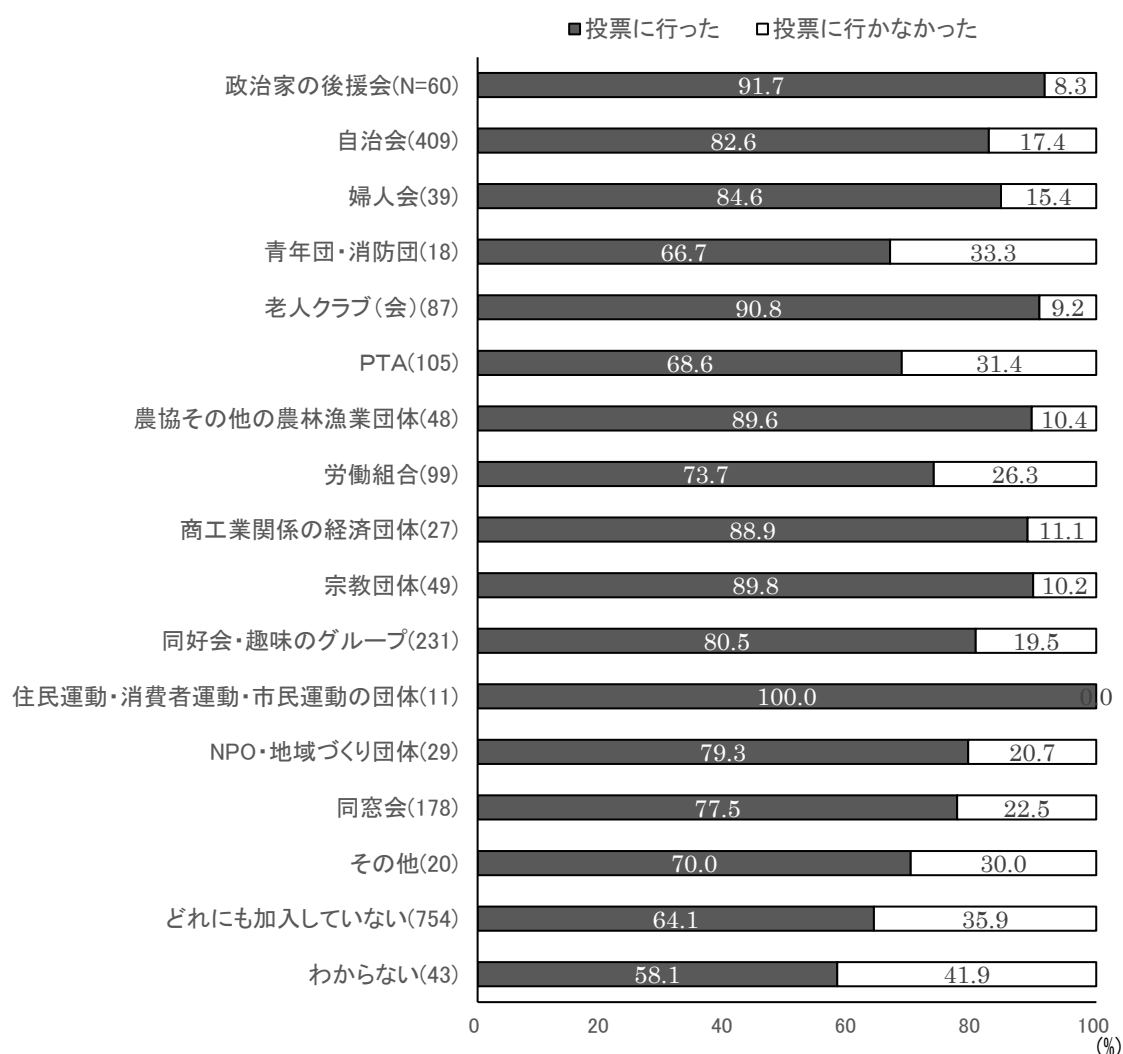


図 2-12 は、投票所までの移動時間と投票参加率の関係を見たものである。投票所までの時間が 5 分未満の人の投票参加率は 77.0%、10 分未満の人は 73.1%であるのに対し、20 分以上かかる人は 61.7%に止まっている。近年の調査結果と同じく、投票所まで時間がかかるほど投票参加率は低くなる傾向が見られた。

図 2-12 投票所までの時間と投票参加率

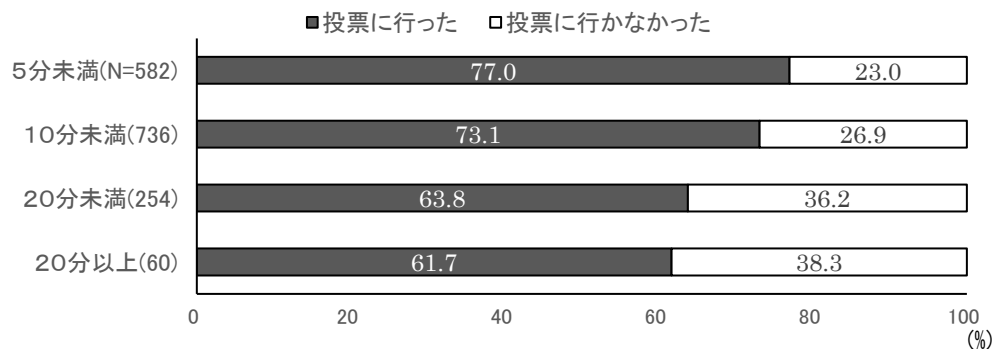


表 2 は、総務省が公表している資料を基に、参院選の投票日当日における全国の投票所の数の推移をまとめたものである。第 20 回以降、市町村合併や過疎化の進行、経費の節減などのため、投票所の数は全国的に減少している。加えて原則午後 8 時までの投票時間を繰り上げる自治体も散見される。一方で前回の参院選から、市区町村の区域内の既存の投票区の投票所とは別に、当該市区町村のすべての有権者が投票日当日に投票できる「共通投票所」が設置できるようになったほか、期日前投票所の投票時間の弾力的な設定ができるようになった。また市区町村では、地域の実情等に応じて駅やショッピングセンター等に期日前投票所を設置するなどの投票環境の向上のための工夫が続けられており、有権者の投票機会が失われることがなく、均等に与えられるよう、投票環境の整備は引き続き求められよう。

表 2

	投票所数	前回比
第 19 回(平 13)	53,439	22
第 20 回(平 16)	53,290	-149
第 21 回(平 19)	51,742	-1,548
第 22 回(平 22)	50,311	-1,431
第 23 回(平 25)	48,777	-1,534
第 24 回(平 28)	47,905	-872
第 25 回(令元)	47,044	-861

(3) 政治意識と投票参加率

ここでは、政治意識が投票参加率に与える影響を見てみることにしたい。

まず、政治関心度と投票参加率の関係を年代別に見てみよう。政治関心度は「あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか」という質問を指標としている。全体で見ると（図 2-13）、「全く関心を持っていない」、「あまり関心を持っていない」と答えた人の投票参加率は 15.2%、46.2%であるのに対して、「多少は関心がある」人は 76.2%が、「非常に関心がある」人では 89.7%が投票に行ったと回答している。このように政治関心度は投票参加率に強く影響していることがわかる。この傾向はどの年代でも同様に見られる（図 2-14～17）。

図 2-13 政治関心と投票参加率（全体）

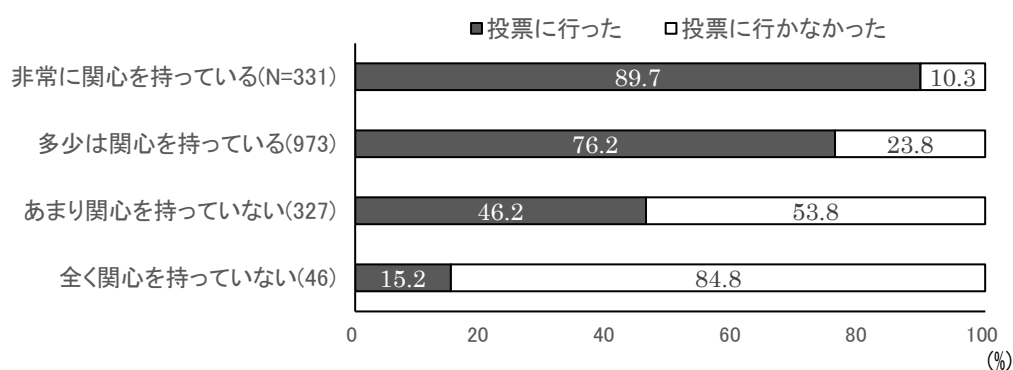


図 2-14 政治関心と投票参加率（18-20 歳代）

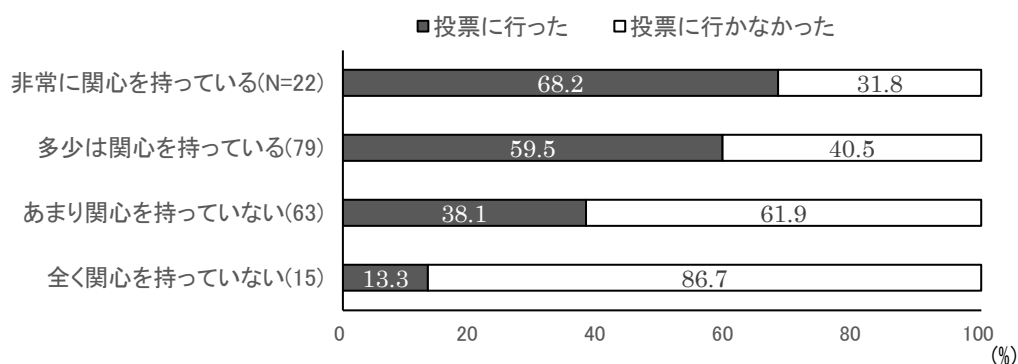


図 2-15 政治関心と投票参加率（30-40 歳代）

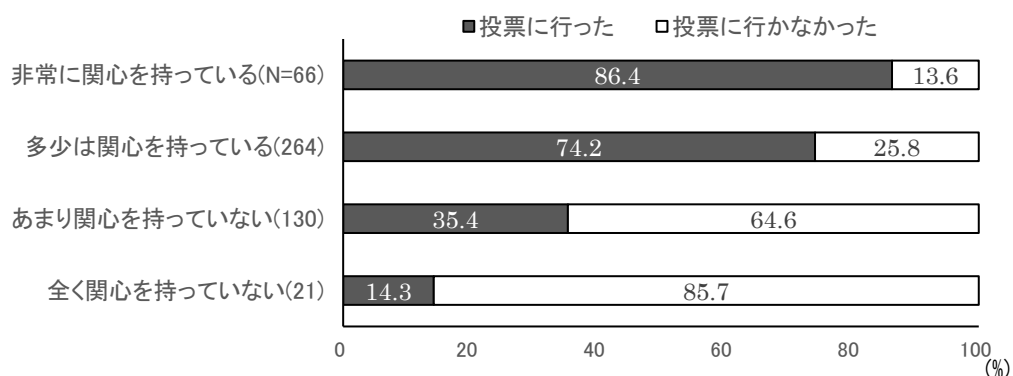


図 2-16 政治関心と投票参加率（50-60 歳代）

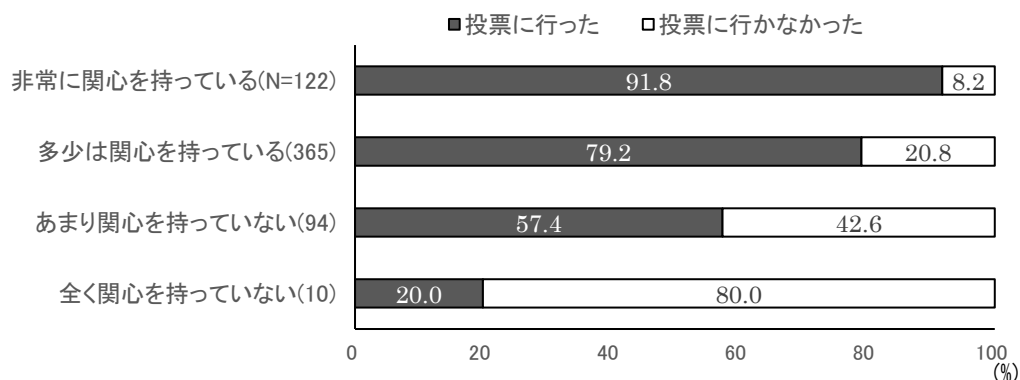
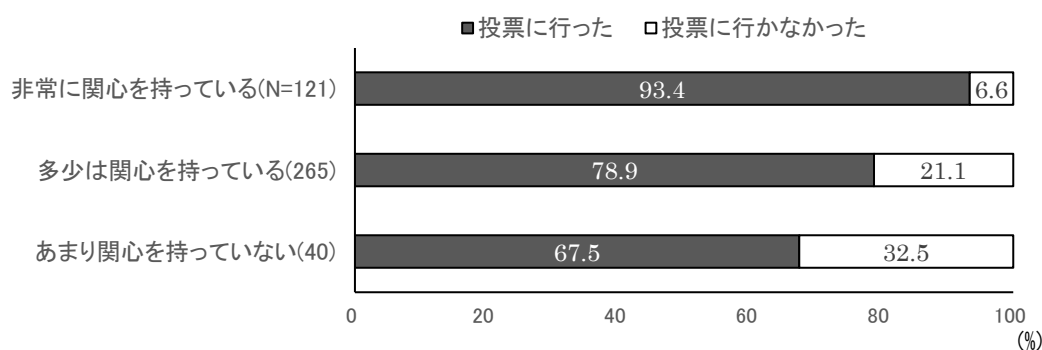


図 2-17 政治関心と投票参加率（70 歳以上）



*「全く興味を持っていない」は該当なし

次に、選挙で投票する行為は、（１）「国民の義務」、（２）「国民の権利だが棄権すべきではない」、（３）「個人の自由」のいずれの考えに近いかという投票に対する意識が投票参加率に与える影響を年代別に見てみる（図 2-18～22）。各年代とも投票を「個人の自由」と考えている人の投票参加率は低く、特に 18-20 歳代の投票参加率は 28.6%と、他の年代に比し最も低い。「個人の自由」と考えている人の投票参加率は年代が上がるごとに高くなるものの、最も高くても 51.2%（50～60 歳代）に止まる。

「権利だが棄権すべきではない」と考える人と、「投票は義務」と位置づけている人の投票参加率は、どの年代も大きな差は見られない。

図 2-18 投票に関する考えと投票参加率（全体）

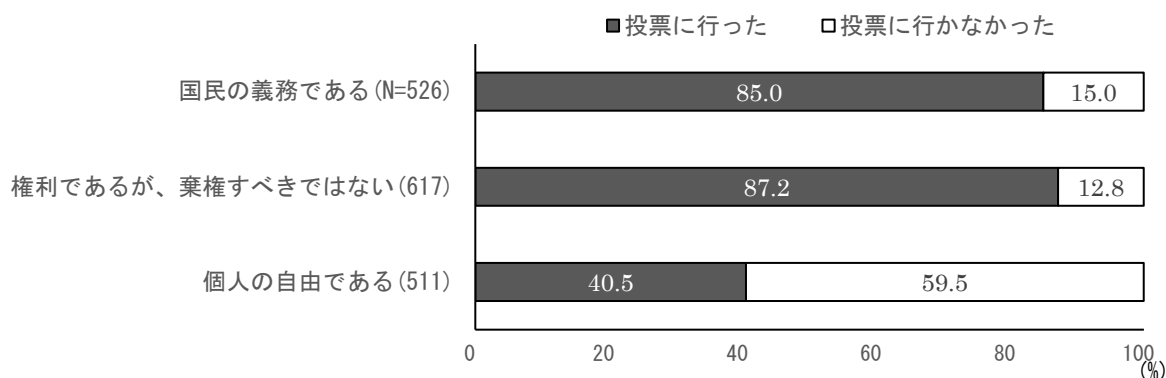


図 2-19 投票に関する考えと投票参加率（18-20 歳代）

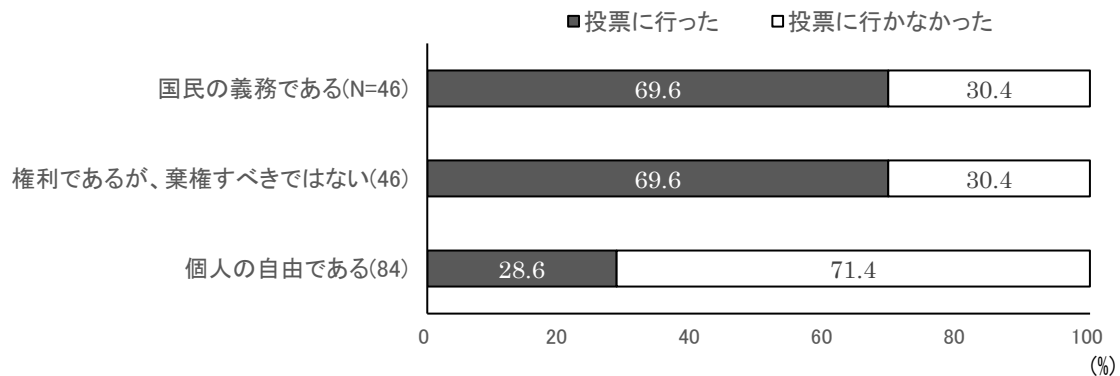


図 2-20 投票に関する考えと投票参加率（30-40 歳代）

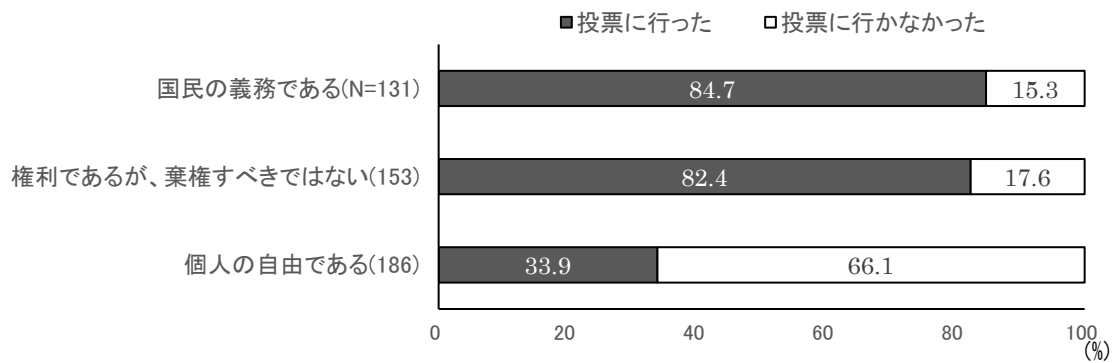


図 2-21 投票に関する考えと投票参加率（50-60 歳代）

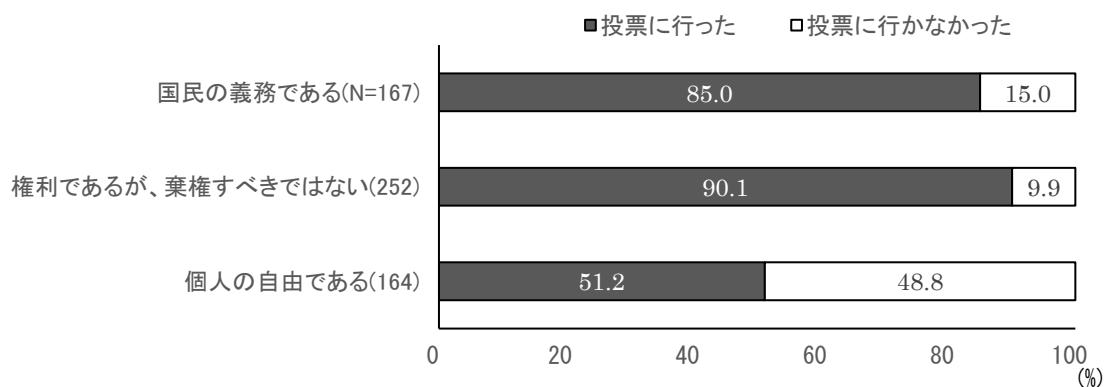
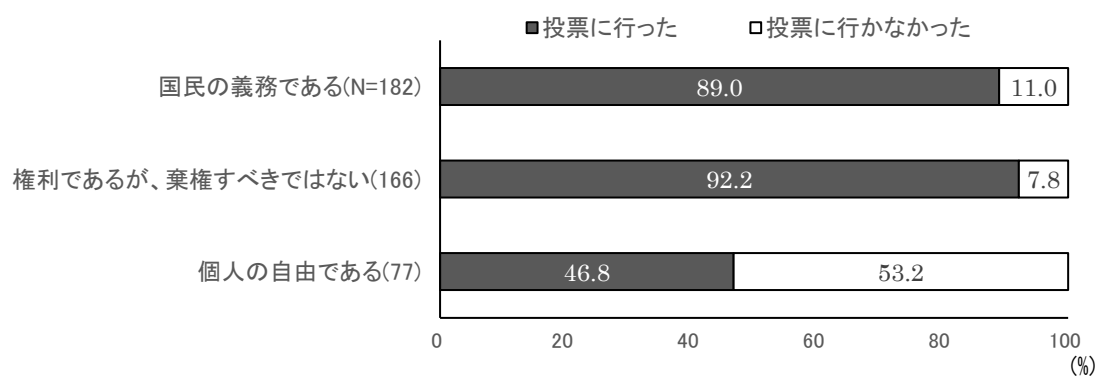


図 2-22 投票に関する考えと投票参加率（70 歳以上）



最後に、政党支持と投票参加率の関係を見てみよう。「あなたは、ふだん何党を支持していращやいますか」という質問をし、支持する政党、または支持政党なしなどを選択してもらっている。ここでは支持する政党を選択した人＝「支持政党あり」と「支持政党なし」を選択した人を年代別に分けて、各々の投票参加率を調べた。

まず、全体では、支持政党がある人の投票参加率は 81.5%で、支持政党がない人の投票参加率 58.2%より 23.3 ポイント高い（図 2－23）。年代別に見ても、各年代とも支持政党がある人の投票参加率は、支持政党がない人の投票参加率より高く、その差は 18-20 歳代で 29.7 ポイント、30-40 歳代で 23.4 ポイント、50-60 歳代で 16.5 ポイント、70 歳以上で 12.1 ポイントとなり、高齢に向かうほどその差は縮まる（図 2－24～27）。

支持政党がある人の投票参加率は、支持政党のない人に比べて一様に高い。ただ、先に見た投票義務感の有無や政治関心の度合いに応じた投票参加率の相違と比較すると、それほど顕著ではない。

図 2－23 政党支持と投票参加率（全体）

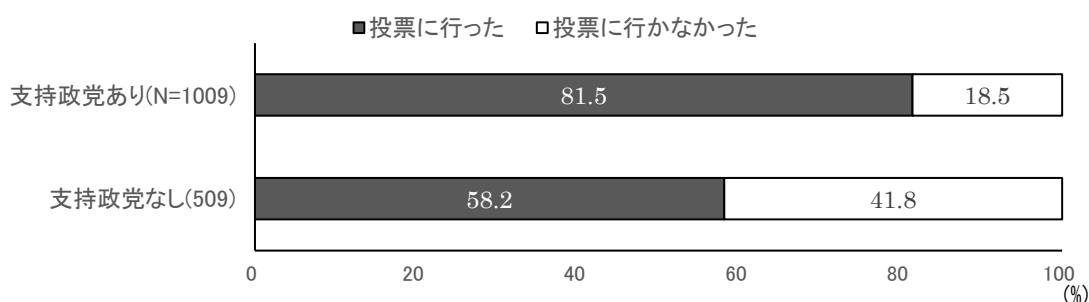


図 2－24 政党支持と投票参加率（18-20 歳代）

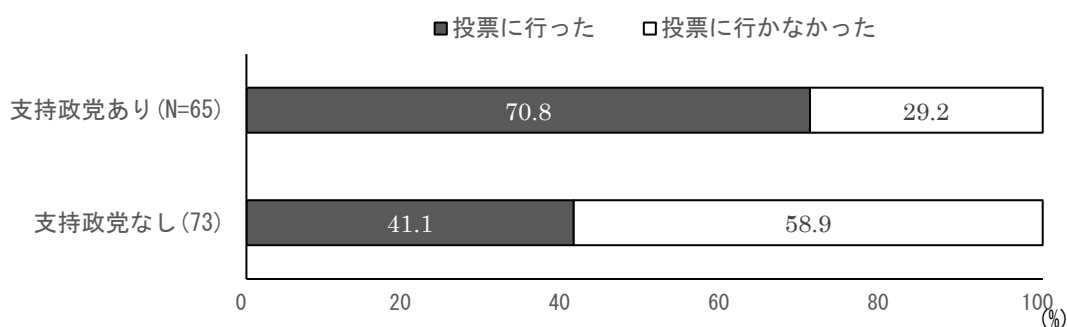


図 2－25 政党支持と投票参加率（30-40 歳代）

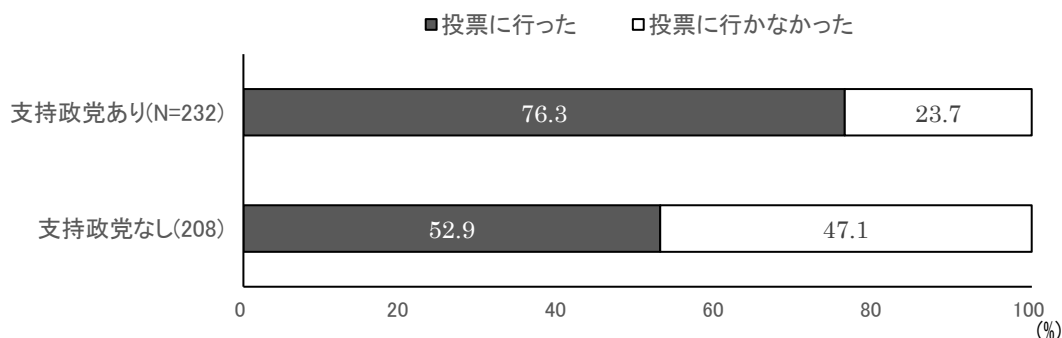


図 2 - 2 6 政党支持と投票参加率（50～60 歳以上）

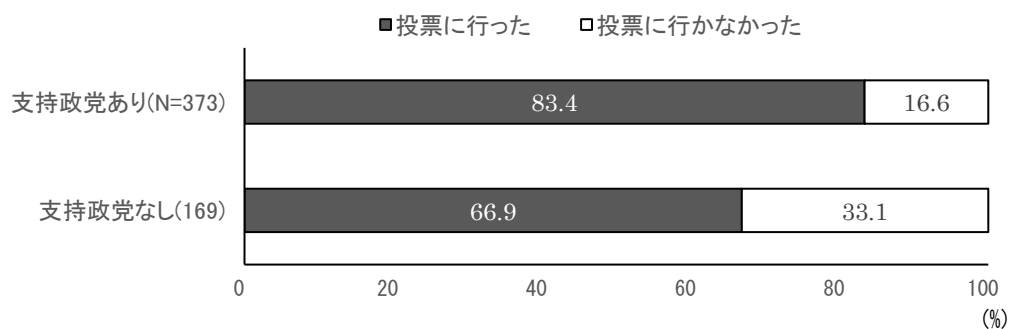
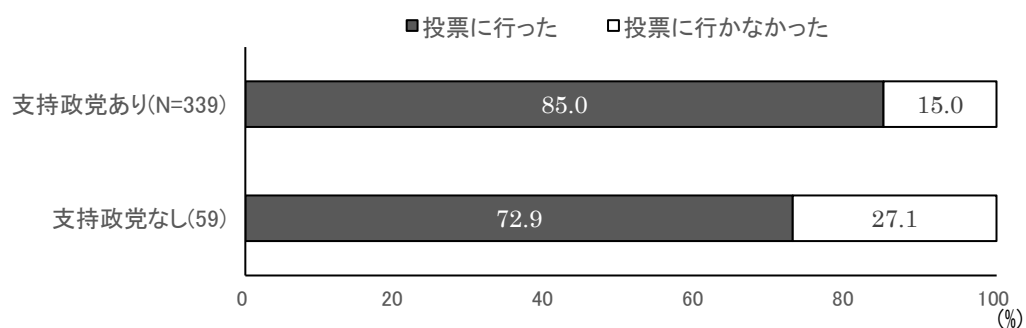


図 2 - 2 7 政党支持と投票参加率（70 歳以上）



3 棄権の理由

今回の参院選で棄権した人（N=489）の棄権理由を前回調査の結果と対比して見てみる（表 3）。

今回最も多く選択されたのは前回と同じく、「選挙にあまり関心がなかったから」（今回 30.9%、前回 27.1%）であった。次いで「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」（23.7%）、「適当な候補者も政党もなかったから」（21.7%）、「仕事があったから」（20.4%）となっている。

順位に違いはあるものの、1～4 位は前回と同じ選択肢となっている。

表 3 棄権理由（複数回答）

	第 25 回(N=489)	第 24 回(N=532)
仕事があったから	④20.4	②25.0
重要な用事(仕事を除く)があったから	14.5	11.8
病気だったから	－	6.6
体調がすぐれなかったから	17.0	12.2
投票所が遠かったから	3.9	5.1
面倒だったから	－	14.8
選挙にあまり関心がなかったから	①30.9	①27.1
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	②23.7	③24.6
適当な候補者も政党もなかったから	③21.7	④22.9
私一人が投票してもしなくても同じだから	13.9	12.8
自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	7.6	6.8
選挙によって政治はよくならないと思ったから	17.8	15.0
マスコミ(メディア)の当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	3.3	3.4
今の政治を変える必要がないと思ったから	1.0	0.9
今住んでいる所に選挙権がないから	2.0	4.9
天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)	1.4	1.3
その他	9.0	6.8
わからない	1.2	0.6

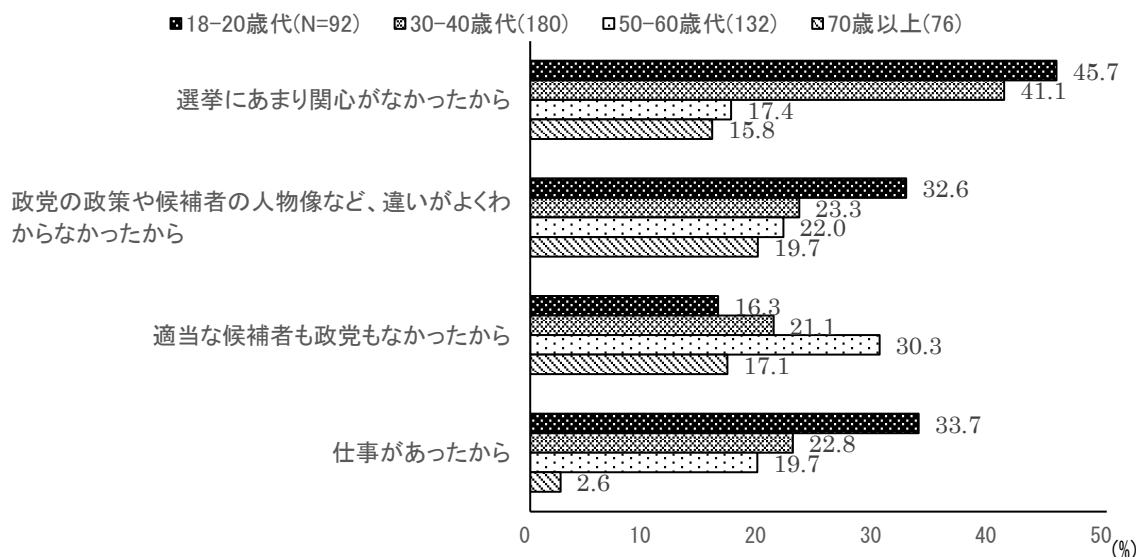
次に上記の 4 つの選択肢について各年代がどの程度選択しているのかをしてみる（図 3-1）。

上位 4 つの中で最も選択率が高かった「選挙にあまり関心がなかったから」を見ると、18-20 歳代の 45.7%が最多で、次いで 30-40 歳代の 41.1%となっている。18-20 歳代、30-40 歳代は、4 つの選択肢の中で最も選択率が高い。

「適当な候補者も政党もなかったから」は、50-60 歳代の 30.3%が最多で、かつ当該年代において最も選択率が高い。

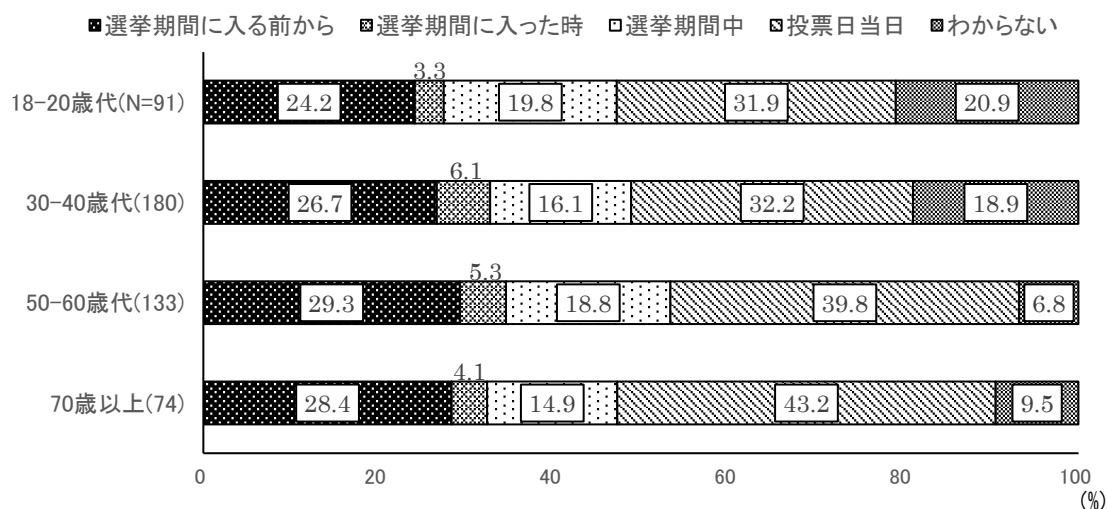
「仕事があったから」へは70歳以上からの選択が最も少なく(2.6%)、他の年代との就業率の違い⁵が表れている。

図3-1 上位4つの棄権理由への各年代の選択率



最後に棄権することを決めた時期について年代別に見てみる(図3-2)。「選挙期間に入る前から」は24~29%程度、「選挙期間に入ったとき」は3~5%程度、「選挙期間中」は15~20%程度と、各選択肢への選択率はいずれの年代も概ね変わらない。但し「投票日当日」は、18-20歳代及び30-40歳代は30%程度であるが、50-60歳代、70歳以上は40%程度であり、10ポイント高くなっている。高齢者ほど投票日当日に棄権することを決めていたことがうかがえる。

図3-2 棄権を決めた時期



⁵ 15歳以上の就業者総数に占める高齢就業者(65歳以上)の割合は12.9%
「統計からみた我が国の高齢者(令和元年9月15日)」(総務省統計局)より

4 投票行動

今回の参院選は、自民党が改選前議席数より9議席減り、57議席を、立憲民主党は8議席増え、17議席を、公明党も3議席増え、14議席をそれぞれ獲得した。本調査においては、選挙区選挙で45.0%（前回44.5%）が自民党へ、16.9%が立憲民主党に投票したと答え、比例代表選挙では40.3%（前回40.1%）が自民党、16.6%が立憲民主党に投票したと回答している。

実際の得票率は選挙区選挙で自民党が39.77%、立憲民主党は15.79%、比例代表選挙では自民党が35.37%、立憲民主党は15.81%で、調査結果と比べると立憲民主党は選挙区選挙、比例代表選挙とも近い値であったが、自民党はどちらの選挙も5ポイント程度の違いが見られた。

以下、参院選における有権者の投票選択をもう少し掘り下げて分析するために、①社会的属性と投票政党、②前回参院選（平成28年）・前回衆院選（平成29年）からの変化、③選挙区選挙と比例代表選挙での投票政党、の三点に焦点を当てて見ていく。

（1）社会的属性と投票政党

表4-1は社会的属性ごとに、比例代表選挙における投票政党の割合を示したものである。

まず性別で見ると、自民党、立憲民主党へは女性より男性の方が投票する傾向がある一方、公明党、共産党などは女性の方が男性よりも選択率が高い。

年代別では、自民党、立憲民主党へは高齢層に向かうほど選択率の高まりが見られる。日本維新の会は、若年から中年層で、公明党は20歳代、50歳代、80歳以上での選択率が高い。

学歴別では、自民党、公明党は中学校卒からの支持が高く、大学・大学院卒に向かうほど低下していく。立憲民主党、国民民主党は大学・大学院卒からの支持が比較的高い。

就業形態別では、自民党は経営者・役員・管理職、無職から、立憲民主党も無職、経営者・役員・管理職から、公明党は派遣社員、パート・アルバイト等、主婦から、それぞれ支持を集めている。

職種別では、自民党は保安的工作や農林水産に関する仕事、立憲民主党は農林水産や製造的工作、公明党は運輸・通信的工作や販売・サービスの仕事にそれぞれ従事する人からの支持が高い。

都市規模別では、自民党、立憲民主党は大都市より郡部からの支持が高く、公明党や日本維新の会は大都市など都市部からの支持が高い。

表4-1 社会的属性と投票政党（比例代表選挙）

	自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	白票を入れた	わからない	実数
全体	40.3	9.2	16.6	3.3	5.6	7.8	1.5	3.3	1.5	0.9	0.5	9.4	1190
男性	44.9	6.3	17.6	3.8	5.0	8.2	1.9	2.9	1.9	0.5	0.7	6.3	584
女性	36.0	11.9	15.7	2.8	6.3	7.4	1.2	3.6	1.2	1.3	0.3	12.4	606
18-19歳	25.0	8.3	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	12
20歳代	35.1	11.7	9.1	9.1	0.0	6.5	0.0	9.1	0.0	1.3	0.0	18.2	77
30歳代	31.5	4.8	12.9	4.8	7.3	8.1	0.8	3.2	0.8	0.8	0.8	24.2	124
40歳代	42.1	9.0	10.1	2.2	3.4	10.1	0.6	7.9	0.6	1.1	0.6	12.4	178
50歳代	38.9	12.1	17.4	2.1	1.1	9.5	1.6	2.6	3.7	1.1	0.5	9.5	190
60歳代	38.1	7.7	19.2	4.2	7.7	9.2	3.1	1.9	1.9	1.5	0.8	4.6	260
70歳代	45.2	7.2	22.4	2.8	9.6	5.6	1.2	1.6	0.8	0.4	0.4	2.8	250
80歳以上	50.5	16.2	17.2	0.0	5.1	2.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	5.1	99
中学校卒	52.5	13.6	17.8	0.8	2.5	4.2	0.0	0.8	0.8	1.7	0.0	5.1	118
高校卒	40.1	11.0	16.8	3.6	6.8	7.6	1.9	2.3	1.3	0.4	0.8	7.2	471
短大・高専・専修学校卒	39.1	9.8	12.6	2.8	4.7	10.2	1.9	5.6	1.4	0.9	0.5	10.7	215
大学・大学院卒	37.0	5.0	19.3	4.2	5.9	7.3	1.1	4.2	2.2	1.1	0.3	12.3	357
経営者・役員・管理職	45.0	6.9	14.4	1.9	5.0	11.9	0.6	3.1	3.1	0.6	0.0	7.5	160
正社員・正職員	41.3	6.8	15.3	4.6	2.1	9.3	1.4	4.6	1.1	1.4	0.4	11.7	281
派遣社員	35.7	14.3	7.1	0.0	0.0	28.6	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	14
パート・アルバイト等	33.3	14.6	13.5	4.2	5.2	9.4	2.1	4.7	0.0	1.0	1.6	10.4	192
その他	41.7	4.2	12.5	8.3	8.3	4.2	4.2	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	24
学生	34.8	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	30.4	23
主婦	38.2	12.0	16.9	3.6	6.2	6.7	1.8	1.8	1.3	0.4	0.0	11.1	225
無職	44.1	7.1	25.2	1.7	8.4	2.9	1.7	0.8	2.5	0.8	0.8	3.8	238
農林水産に関わる仕事	54.1	2.7	21.6	5.4	5.4	0.0	2.7	0.0	2.7	0.0	0.0	5.4	37
保安の仕事	81.8	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
運輸・通信の仕事	40.5	18.9	10.8	2.7	2.7	8.1	8.1	5.4	2.7	0.0	0.0	0.0	37
製造業の仕事	39.2	8.8	16.7	3.9	4.9	7.8	0.0	2.9	2.0	1.0	1.0	11.8	102
販売・サービスの仕事	36.4	16.2	11.0	3.2	5.8	11.7	0.0	5.8	0.0	0.6	0.6	8.4	154
専門・技術の仕事	34.5	6.0	12.5	4.8	4.8	14.9	2.4	4.2	3.0	1.2	0.6	11.3	168
事務の仕事	41.5	5.7	17.1	4.1	1.6	7.3	1.6	4.1	0.0	2.4	0.0	14.6	123
その他	50.0	2.4	16.7	2.4	2.4	4.8	0.0	9.5	0.0	0.0	2.4	9.5	42
大都市	32.7	11.1	16.7	2.0	4.2	10.1	1.3	5.2	1.6	1.6	0.7	12.7	306
20万人以上の市	45.1	8.5	12.9	2.4	7.1	7.5	0.7	3.4	1.7	0.7	1.0	9.2	295
10万人以上の市	39.0	8.8	17.7	4.4	4.4	10.0	1.2	2.8	1.2	0.4	0.0	10.0	249
10万人未満の市	42.3	9.2	16.7	5.9	7.1	3.3	2.5	2.5	2.1	1.3	0.4	6.7	239
郡部(町村)	48.5	5.9	24.8	1.0	5.0	6.9	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	101

* 無回答を除く

選挙区選挙についても同様の分析を掲載してある（表 4-2）。

比例代表選挙については有権者はどの政党へも投票することができるが、選挙区選挙では自民党以外の政党の候補者は限られているため、自民党以外の政党の選択率が若干低めに出ている（公明党（選挙区 7.3%、比例区 9.2%）、日本維新の会（選挙区 6.3%、比例区 7.8%）など）。

性別では、自民党、立憲民主党は女性より男性の投票傾向が高く、逆に公明党、共産党は男性より女性の投票傾向が高い。いずれも比例代表選挙で見た傾向と変わらない。

年代別で見ると、自民党の選択率は、今回は 80 歳以上（56.6%）を除けば、年代による大きな違いは見られない（前回調査では 18-20 歳代は 50%台の選択率で、80 歳以上と同等の選択率であった）。立憲民主党も 70 歳代が 22.8%と突出している以外、他の年代は 10%台であり、年代による大きな違いは見られない。れいわ新選組は 20 歳代から 40 歳代などの若年・中年層から選択されている。

学歴別では、自民党、公明党は中学校卒の選択率が高く、学歴の違いによってその割合は低下していく傾向が見られる。反対に国民民主党やれいわ新選組は、大学・大学院卒に向かうほど選択率は高くなる傾向が示されている。

就業形態別では、自民党は経営者・役員・管理職や派遣社員から、公明党はパート・アルバイトや主婦から、立憲民主党は無職、派遣社員からの支持が高い。

職種別では、自民党は保安的な仕事や農林水産に関わる仕事に従事する人から、立憲民主党は農林水産に関わる仕事や製造的工作、公明党は販売・サービスの仕事に従事する人からの支持が比較的高い。

都市規模別では、比例代表選挙と同じく、自民党、立憲民主党は、大都市より郡部からの支持が高く、反対に公明党、日本維新の会は大都市での支持が高いほかは、明確な違いは見られない。

表4-2 社会的属性と投票政党（選挙区選挙）

	自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	無所属	白票を入れた	わからない	実数
全体	45.0	7.3	16.9	3.8	5.7	6.3	0.9	1.6	0.9	0.5	3.5	0.5	6.8	1186
男性	49.5	4.8	18.2	4.0	4.3	6.0	1.2	1.5	1.0	0.5	3.6	0.9	4.5	582
女性	40.7	9.8	15.7	3.6	7.1	6.6	0.7	1.7	0.8	0.5	3.5	0.2	9.1	604
18-19歳	33.3	8.3	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	12
20歳代	41.6	5.2	11.7	7.8	2.6	7.8	0.0	5.2	0.0	0.0	2.6	0.0	15.6	77
30歳代	35.5	4.8	13.7	5.6	5.6	8.1	0.8	2.4	0.8	0.8	2.4	1.6	17.7	124
40歳代	44.1	9.6	13.6	3.4	4.0	8.5	0.0	4.5	0.0	0.6	3.4	1.1	7.3	177
50歳代	47.4	9.5	17.4	4.7	2.1	5.3	0.5	1.6	1.1	1.1	3.7	0.0	5.8	190
60歳代	43.6	5.1	16.7	4.3	8.2	7.8	1.6	0.0	1.9	0.8	5.8	0.4	3.9	257
70歳代	47.2	6.8	22.8	2.4	8.8	4.0	0.8	0.4	0.8	0.0	2.4	0.4	3.2	250
80歳以上	56.6	11.1	16.2	0.0	4.0	3.0	3.0	0.0	1.0	0.0	3.0	0.0	2.0	99
中学校卒	57.5	10.0	17.5	0.8	1.7	1.7	1.7	0.0	0.8	0.8	5.0	0.0	2.5	120
高校卒	45.3	8.6	16.3	3.4	6.4	6.2	1.3	1.3	1.1	0.6	3.6	0.6	5.2	466
短大・高専・専修学校卒	42.5	8.0	15.6	4.7	6.1	8.0	0.0	1.9	1.4	0.0	3.8	0.0	8.0	212
大学・大学院卒	41.2	4.2	19.3	5.0	6.2	7.0	0.6	2.5	0.6	0.6	2.8	0.8	9.2	357
経営者・役員・管理職	51.9	4.4	15.6	3.8	3.1	11.3	0.6	1.9	1.3	0.0	1.3	0.0	5.0	160
正社員・正職員	45.0	5.0	17.9	5.7	3.2	7.9	0.4	2.9	0.4	1.1	3.2	1.1	6.4	280
派遣社員	50.0	0.0	21.4	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14
パート・アルバイト等	38.9	11.1	11.6	6.8	5.3	6.3	1.6	1.6	0.5	0.0	4.7	1.1	10.5	190
その他	52.2	0.0	17.4	0.0	8.7	4.3	0.0	8.7	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	23
学生	39.1	4.3	13.0	8.7	4.3	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	21.7	23
主婦	42.4	11.2	16.1	3.1	6.3	5.8	0.4	0.4	0.4	0.4	4.9	0.0	8.5	224
無職	46.0	6.8	23.6	0.4	9.3	1.7	2.1	0.0	2.1	0.8	3.4	0.4	3.4	237
農林水産に関わる仕事	60.5	0.0	18.4	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	5.3	2.6	5.3	38
保安の仕事	72.7	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	11
運輸・通信の仕事	51.4	8.1	10.8	2.7	2.7	5.4	5.4	5.4	2.7	0.0	5.4	0.0	0.0	37
製造業の仕事	47.5	5.0	16.8	5.0	4.0	5.9	0.0	1.0	0.0	2.0	5.9	1.0	5.9	101
販売・サービスの仕事	38.3	12.3	13.0	8.4	3.2	9.7	0.6	3.9	0.0	0.0	1.9	0.6	7.8	154
専門・技術の仕事	39.9	5.4	15.5	6.5	6.0	12.5	0.6	1.8	1.2	0.0	2.4	1.2	7.1	168
事務の仕事	49.2	4.1	19.7	3.3	4.1	7.4	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.0	8.2	122
その他	51.3	2.6	10.3	0.0	5.1	5.1	0.0	7.7	0.0	0.0	5.1	0.0	12.8	39
大都市	34.3	11.1	19.0	3.6	5.6	10.5	0.7	1.6	2.0	1.3	2.6	0.0	7.8	306
20万人以上の市	50.5	6.4	11.5	2.0	7.1	6.1	0.3	2.4	1.4	0.0	4.1	1.4	6.8	295
10万人以上の市	45.5	7.7	15.4	3.7	6.5	6.5	0.4	1.6	0.0	0.4	3.3	0.4	8.5	246
10万人未満の市	47.9	5.0	18.5	5.9	4.6	2.5	2.1	1.3	0.4	0.4	5.9	0.0	5.5	238
郡部(町村)	53.5	3.0	26.7	5.0	3.0	3.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	101

* 無回答を除く

(2) 投票行動の変化

本調査は、調査対象者に3年前の参院選での投票についても答えてもらっている。

表4-4は前回(平28)参院選での投票政党ごとに今回の政党選択の割合を、比例代表選挙について示したものである。

前回の参院選の比例代表選挙で自民党に投票した有権者のうち、今回も自民党に投票した人は81.3%であった。この歩留まり率は⁶、前々回(平25)から前回参院選における自民党の歩留まり率(80.2%)とほぼ同じである。公明党は今回85.2%で、前回の81.8%より約4ポイント増えている。一方、共産党は今回67.6%で、前回の83.8%から約16ポイント減少した。主な減少要因を探ると、前回、共産党に投票した人の12.7%は今回、立憲民主党に投票していることがわかる。同じく社会民主党は今回36.7%で、前回の66.7%から30ポイント減少しているが、その減少分の大半は、立憲民主党に流れている(33.3%)。

前回参院選で民進党に投票した人は今回、64.0%が立憲民主党に、11.2%が国民民主党に投票している。

表4-4 前回・今回の投票政党(比例代表選挙)

		(%)												
		今回投票政党(比例区)											実数	
		自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の 会	社会民主党	れいわ新選 組	NHKから 民を守る党	その他の党	白票を入 れた		わからない
前回参院選投票政党 (比例区)	自由民主党	81.3	4.0	4.6	1.9	0.4	3.4	0.2	0.4	1.5	0.8	0.0	1.5	476
	民進党	6.2	1.9	64.0	11.2	2.5	3.1	2.5	6.2	0.6	1.2	0.0	0.6	161
	公明党	6.2	85.2	1.2	1.2	0.0	3.7	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	81
	日本共産党	0.0	2.8	12.7	1.4	67.6	4.2	1.4	7.0	2.8	0.0	0.0	0.0	71
	おおさか維新の会	8.3	0.0	11.7	0.0	0.0	71.7	0.0	1.7	3.3	1.7	0.0	1.7	60
	日本のことを大切に	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	社会民主党	3.3	3.3	33.3	3.3	6.7	3.3	36.7	3.3	0.0	0.0	0.0	6.7	30
	生活の党	12.5	0.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8
	その他の党	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10
	白票を入れた	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	27.3	9.1	11
	投票しなかった	21.1	5.3	10.5	0.0	15.8	5.3	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	31.6	19
	選挙権がなかった	30.0	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10
わからない	22.4	4.4	13.6	3.1	3.1	4.8	0.4	5.3	1.8	0.9	1.3	39.0	228	

* 前回と今回で投票選択が一致しているセルは太枠で示している。

6 前回参院選で投票した政党に今回の参院選でも投票した人の割合

表4-5は平成29年10月に行われた第48回衆院選での政党選択と今回参院選での政党選択について、比例代表選挙で見たものである。最も歩留まり率が高いのは公明党(86.7%)で、次いで自民党(83.5%)、共産党(79.1%)の順となっており、当該衆院選に際し結党した立憲民主党の歩留まり率は71.1%となっている。

表4-5 前回衆院選・今回の投票政党(比例代表選挙) (%)

	今回投票政党(比例区)												実数
	自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	白票を入れた	わからない	
前回衆院選投票政党(比例区)	自由民主党	83.5	3.6	3.2	1.8	0.4	3.0	0.2	0.6	1.4	0.4	0.2	503
	立憲民主党	4.1	2.0	71.1	6.6	2.5	2.5	3.0	5.6	1.0	0.5	1.0	197
	希望の党	7.7	7.7	15.4	30.8	0.0	23.1	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	13
	公明党	3.6	86.7	2.4	1.2	0.0	3.6	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	83
	日本共産党	4.5	0.0	3.0	1.5	79.1	1.5	1.5	7.5	1.5	0.0	0.0	67
	日本維新の会	10.3	2.6	5.1	1.3	1.3	66.7	0.0	6.4	3.8	0.0	1.3	78
	社会民主党	11.1	0.0	16.7	5.6	0.0	0.0	55.6	0.0	0.0	0.0	11.1	18
	日本のこころ	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	その他の党	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	45.5	0.0	0.0	11
	白票を入れた	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	0.0	33.3	9
	投票しなかった	13.8	6.9	27.6	3.4	3.4	3.4	0.0	13.8	0.0	0.0	3.4	29
今回参院選投票政党(比例区)	選挙権がなかった	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	7
	わからない	13.1	4.4	10.0	3.8	2.5	4.4	0.0	5.0	1.3	1.3	54.4	160

* 前回と今回で投票選択が一致しているセルは太枠で示している。

(3) 選挙区選挙と比例代表選挙の分割投票

有権者は様々な理由により選挙区選挙と比例代表選挙で異なる政党に投票することがある。例えば、選挙区選挙に全ての政党が候補者を擁立できるわけではないので、有権者の中には比例代表選挙では自分の最も望ましいと思う政党に投票しながらも、選挙区選挙においては他党への投票を余儀なくされる場合もある。

表4-6は今回参院選での選挙区選挙と比例代表選挙の両者の間における選択の一致・不一致を、選挙区選挙における選択を基準に見たものである。

選挙区選挙で自民党に投票した有権者のうち、比例代表選挙でも自民党に投票した人の割合は83.1%で、前回参院選(80.3%)より約3ポイント増えている。公明党も前回の80.2%から約4ポイント増の84.9%で、最も一致率が高かった。反対に共産党は前回85.0%であったが、今回は72.1%と約13ポイント減少している。

次に選挙区選挙で投票した政党と、比例代表選挙で当該政党以外に投じた割合を見てみる。

まず、選挙区選挙での自民党投票者が、比例代表選挙で同党以外に最も多く投票したのは連立を組んでいる公明党(5.3%)で、次いで立憲民主党(3.6%)、日本維新の会(3.2%)となっている。立憲民主党の投票者が同党以外で最も投票したのは日本維新の会(5.5%)で、次いで自民党(4.0%)であった。同様に共産党を見ると、7.4%が立憲民主党とれいわ新選組にそれぞれ投じられている。公明党の投票者は、同党以外では自民党に最も多く投票している(9.3%)。

表 4－6 選挙区選挙と比例代表選挙の投票政党

(%)

		投票政党(比例代表選挙)												実数
		自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	白票を入れた	わからない	
投票政党(選挙区選挙)	自由民主党	83.1	5.3	3.6	0.2	0.6	3.2	0.2	0.0	0.9	0.6	0.2	2.3	532
	公明党	9.3	84.9	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	2.3	86
	立憲民主党	4.0	1.5	73.6	3.5	3.5	5.5	2.0	3.5	0.5	0.0	0.0	2.5	201
	国民民主党	4.4	0.0	8.9	57.8	8.9	2.2	2.2	2.2	0.0	4.4	0.0	8.9	45
	日本共産党	2.9	0.0	7.4	1.5	72.1	1.5	2.9	7.4	0.0	0.0	0.0	4.4	68
	日本維新の会	6.7	1.3	4.0	0.0	2.7	74.7	0.0	2.7	2.7	0.0	0.0	5.3	75
	社会民主党	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	63.6	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	11
	れいわ新選組	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	89.5	0.0	0.0	0.0	0.0	19
	NHKから国民を守る党	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	72.7	0.0	0.0	0.0	11
	その他の党	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	6
	無所属	17.1	4.9	34.1	7.3	0.0	4.9	4.9	2.4	0.0	4.9	0.0	19.5	41
	白票を入れた	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	6
	わからない	2.5	1.2	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	3.7	1.2	0.0	1.2	85.2	81

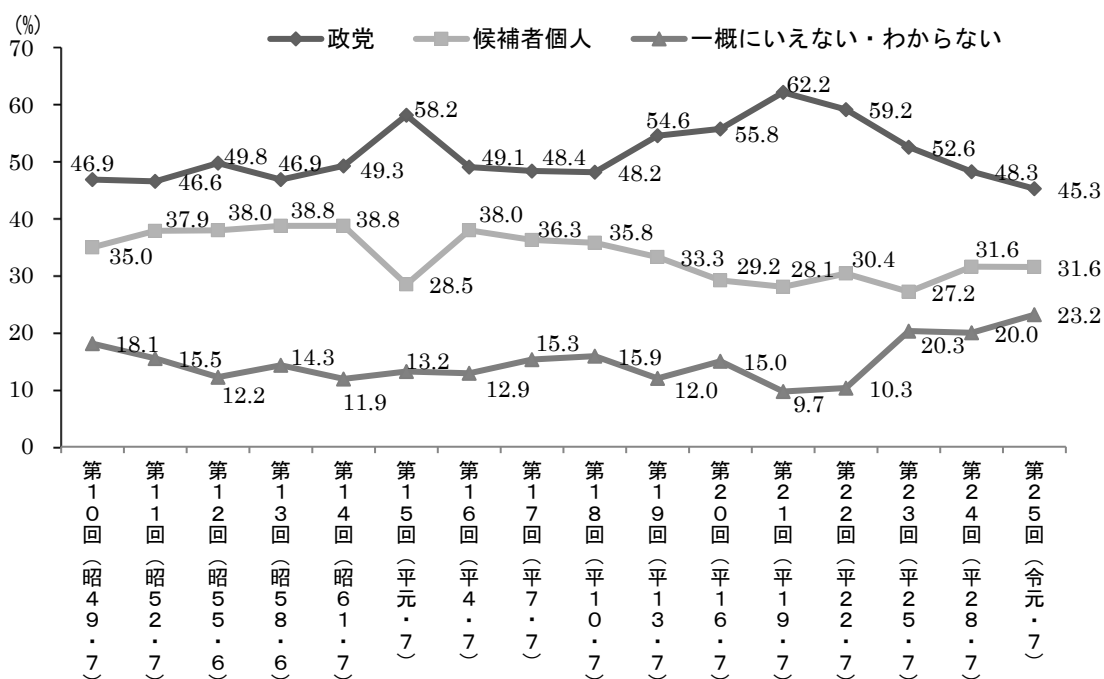
* 選挙区と比例区で投票選択が一致しているセルは太枠で示している。

(4) 投票判断基準(党か人か)

本調査では、「あなたは選挙区選挙で、政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか」という質問を継続して尋ねている。今回の調査では、投票したと回答した人のうち45.3%が「政党を重くみて」、31.6%が「候補者個人を重くみて」、23.2%が「一概に言えない・わからない」と答えている。

過去の結果と比較すると、「政党を重くみて」は第18回の48.2%を起点に第21回の62.2%まで上昇したが、以降は減少しており、今回も前回より3ポイント減少した。「候補者個人を重くみて」は前回と同じで変化は見られず、「一概に言えない・わからない」は前回から3.2ポイント増えて23.2%であった。

図 4－1 政党か候補者か(選挙区選挙)



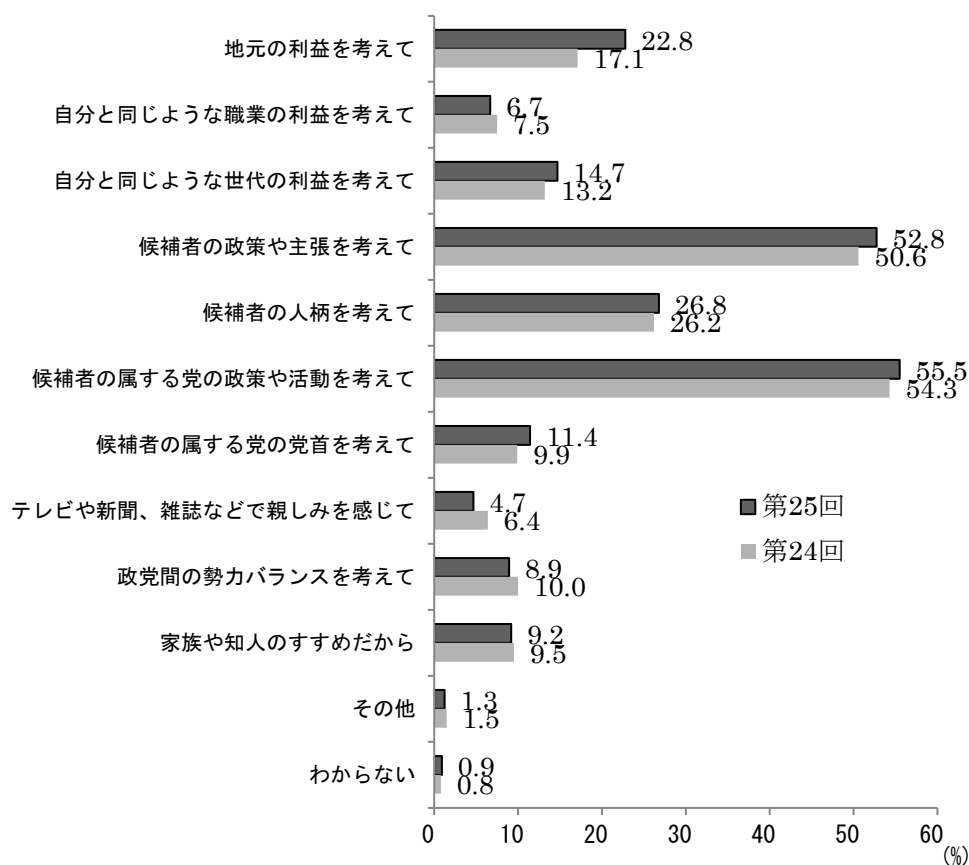
* 第22回以前は面接調査、第23回以降は郵送調査による。

(5) 候補者・政党の選択理由

選挙区選挙で投票した候補者の選択理由に関して、本調査ではより詳しい質問をしている。それは「あなたは、選挙区選挙で候補者を選ぶ時、どういう点を考えて投票する人を決めたのですか」という質問で、11 の選択肢の中から当てはまるものを全て選んでもらっている。前回と今回の調査結果を図 4-2 に示した。

今回最も選択されたのは前回と同じく「候補者の属する党の政策や活動を考えて」の 55.5%であった。次いで「候補者の政策や主張を考えた」の 52.8%、「候補者の人柄を考えた」の 26.8%が続く。前回と同様の順番だが、選択率はどちらも今回の方が若干高い。「地元の利益を考えた」も 22.8%と前回より約 5 ポイント高くなっている。

図 4-2 選挙区選挙で考慮した点（複数回答）



（６）投票する候補・政党決定時期

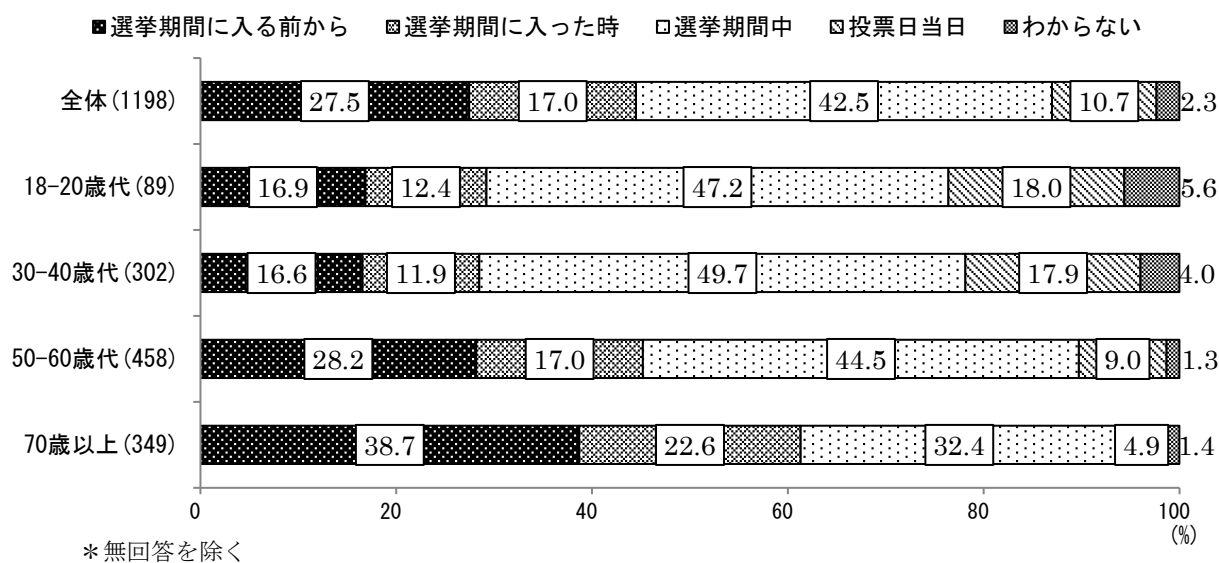
選挙区選挙で投票をした人に、どの候補者に投票するかを決めた時期について尋ね、その結果を年代別に図４－３にまとめた。

まず、「選挙期間に入る前」に投票先を決めた人は、18-20 歳代は 16.9%、30-40 歳代は 16.6%、50-60 歳代は 28.2%で、70 歳以上は 38.7%と年代が上がるごとに増えている。一方、「投票日当日」に投票先を決めた人を見ると、18-20 歳代の 18.0%が最も多く、30-40 歳代は 17.9%、50-60 歳代は 9.0%、70 歳以上は 4.9%と年代が上がるごとに減っていく。

70 歳以上の高齢者層は「選挙期間に入る前」＋「選挙期間に入った時」で 61.3%と過半数が選挙序盤に投票先を決めているのに対し、18-20 歳代、30-40 歳代は「選挙期間中」＋「投票日当日」で 65.2%、67.6%と、多くは選挙終盤に決めている。

年代によって決定時期に違いがあることがわかる。

図４－３ 投票候補者決定時期（選挙区選挙）



5 政治的志向

有権者が政党や政治家に対して抱く印象や好悪の感情、あるいは政策に対する考えや政治的・社会的な価値観は、実際の投票行動をある程度規定している。例えば、有権者の政党支持や政治的イデオロギーを知ることによって、その人の投票行動をある程度説明することができる。

ここでは、投票行動を規定する要因として、①政党支持、②保革イデオロギー、③考慮した問題、④生活と政治への満足度、について検討する。

(1) 支持政党と投票政党

表 5-1 は支持政党と選挙区選挙における投票政党との関連を見たものである。支持政党ごとに、投票した政党の割合が示してある。自民党以外は、自分が支持する党の候補者がいない選挙区があるため、支持している政党に投票した割合は選挙区選挙では低くならざるを得ない。このため各党を横並びにして比較することには若干の無理があることを含んだうえ、ご覧いただきたい。

今回の参院選で自民党支持者のうち、自民党に投票したのは 89.1% (前回 88.6%) で、同党以外には立憲民主党、公明党にそれぞれ 2.2%、2.0% が投票している。次いで公明党支持者は、同党に 88.5% が投票し、同党以外に 6.6% は自民党に投じている。同様に、立憲民主党支持者は、同党に 82.9% が投票しているが、自民党、国民民主党、共産党にそれぞれ 3.6% が投票している。

共産党支持者の同党への投票割合 85.7% は、公明党に次ぎ 3 番目に高いが、立憲民主党と国民民主党にそれぞれ 4.8% が投票している。

「支持する政党はない」を選択した人の中で 27.4% が自民党に (前回は 22.0%)、18.5% が立憲民主党に投票している。

表 5-1 支持政党と選挙区選挙

投票政党(選挙区選挙)															(%)	実数
自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	無所属	白票を入れた	わからない				
支持政党	自由民主党	89.1	2.0	2.2	1.1	0.4	2.4	0.0	0.2	0.2	0.2	0.9	0.4	0.9	460	
	公明党	6.6	88.5	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	61	
	立憲民主党	3.6	0.0	82.9	3.6	3.6	1.4	0.0	0.7	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	140	
	国民民主党	0.0	0.0	10.0	75.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20	
	日本共産党	0.0	0.0	4.8	4.8	85.7	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	42	
	日本維新の会	17.3	0.0	5.8	0.0	1.9	65.4	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	5.8	52	
	社会民主党	6.7	0.0	33.3	0.0	0.0	6.7	46.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	13	
	れいわ新選組	0.0	0.0	5.9	5.9	17.6	0.0	0.0	52.9	0.0	0.0	11.8	0.0	5.9	17	
	NHKから国民を守る党	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2	
	その他の党	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	7	
	支持する政党はない	27.4	6.8	18.5	4.8	5.8	8.2	0.7	2.4	2.7	1.0	5.8	1.0	14.7	292	
わからない	24.1	1.7	10.3	3.4	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	1.7	8.6	0.0	43.1	58		

* 支持政党と選挙区での投票選択が一致しているセルは太枠で示している。

比例代表選挙について支持政党ごとの投票の割合を示したのが、表 5-2 である。公明党、共産党は選挙区選挙と比べると支持政党と投票政党との一致率が上昇するが、自民党と立憲民主党については、両者の一致率が減少する。自民党支持者の中で、自民党に投票した人は 81.6%（選挙区選挙では 89.1%）に止まり、他は公明党（4.5%）、日本維新の会（3.7%）等に流れている。立憲民主党支持者を見ると、同党に投票した人は 81.6%（選挙区選挙では 82.9%）で、「その他の党」を除く各党に数%程度が流れている。

「支持する政党はない」については、25.3%（選挙区選挙 27.4%）が自民党、17.1%（選挙区選挙 18.5%）が立憲民主党、10.6%（選挙区選挙 8.2%）が日本維新の会に投票している。

表 5-2 支持政党と比例代表選挙

(%)

		投票政党(比例代表選挙)												実数
		自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	白票を入れた	わからない	
支持政党	自由民主党	81.6	4.5	3.5	0.9	0.4	3.7	0.0	0.0	1.3	0.9	0.2	3.0	463
	公明党	1.6	91.8	0.0	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	61
	立憲民主党	2.1	1.4	81.6	2.8	2.1	2.8	2.1	2.8	0.7	0.0	0.0	1.4	141
	国民民主党	0.0	0.0	5.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	10.0	20
	日本共産党	0.0	0.0	0.0	0.0	90.5	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	42
	日本維新の会	9.6	1.9	3.8	0.0	1.9	69.2	1.9	1.9	1.9	0.0	1.9	5.8	52
	社会民主党	6.7	0.0	20.0	6.7	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	15
	れいわ新選組	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.2	0.0	0.0	0.0	5.9	17
	NHKから国民を守る党	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	3
	その他の党	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3	7
	支持する政党はない	25.3	7.2	17.1	3.8	6.5	10.6	1.0	5.8	2.4	1.0	1.4	17.8	292
	わからない	15.3	6.8	15.3	1.7	3.4	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	50.8	59

* 支持政党と比例区での投票選択が一致しているセルは太枠で示している。

表 5-3 は、社会的属性別に見た政党支持率である。

全体では自民党が 36.4%で最も高く、次いで立憲民主党の 9.4%、公明党の 4.2%となる。性別で見ると、自民党、立憲民主党等は男性から、公明党、共産党、日本維新の会は女性からの支持が高い。

年代別では、自民党、立憲民主党とも年齢が高くなるに従い支持率が高まる傾向が見られる。学歴別に見ると、自民党、立憲民主党は中学校卒からの支持が高く、また大学・大学院卒からも一定程度の支持を得ている。共産党は高校卒からの支持が高い。就業形態別では、自民党は経営者・役員・管理職から、立憲民主党は派遣社員からの支持が高い。職種別では、自民党、立憲民主党とも農林水産に従事する人からの支持が高い。

「支持する政党はない」（全体 30.7%）を見てみると、性別では男性より女性の方が多く（男性 28.0%、女性 33.3%）、年代別では若年層ほど多い（80 歳以上 10.2%、20 歳代 39.1%、18-19 歳 55.6%）。学歴別では短大・高専卒（40.4%）、大学・大学院卒（35.0%）が多い。選択率に違いはあるが、この結果は前回参院選と同じである。

表5-3 社会的属性と政党支持

(%)

	自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	支持する政党はない	わからない	実数
全体	36.4	4.2	9.4	1.2	2.9	3.5	1.1	1.3	0.5	0.4	30.7	8.3	1675
男性	40.8	2.7	11.1	1.6	2.2	2.9	1.2	1.5	0.7	0.4	28.0	6.7	803
女性	32.3	5.5	7.9	0.8	3.6	4.1	0.9	1.1	0.2	0.5	33.3	9.7	872
18-19歳	7.4	0.0	3.7	0.0	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	25.9	27
20歳代	20.5	5.1	4.5	1.3	0.6	1.3	0.0	3.8	1.3	0.0	39.1	22.4	156
30歳代	22.6	3.3	5.7	1.4	2.8	6.1	0.0	1.4	0.9	1.4	45.3	9.0	212
40歳代	33.5	4.7	4.7	0.0	1.1	3.3	0.7	2.2	0.4	0.0	41.5	8.0	275
50歳代	38.4	4.3	9.4	0.8	1.2	3.1	0.4	1.2	0.4	0.4	34.1	6.3	255
60歳代	39.6	2.1	11.7	2.5	4.6	4.0	2.1	0.3	0.6	0.9	25.2	6.4	326
70歳代	46.8	4.7	16.5	1.7	4.7	3.0	1.7	1.0	0.0	0.0	15.8	4.0	297
80歳以上	55.1	7.9	11.0	0.0	4.7	3.1	2.4	0.0	0.0	0.0	10.2	5.5	127
中学校卒	48.8	6.1	13.4	0.6	1.2	1.8	1.2	0.6	0.0	0.6	16.5	9.1	164
高校卒	37.9	4.7	9.7	1.5	4.2	4.1	1.7	0.9	0.9	0.2	26.3	8.0	662
短大・高専・専修学校卒	29.9	4.1	6.1	0.0	2.9	4.5	0.3	1.0	0.0	1.0	40.4	9.9	314
大学・大学院卒	34.6	3.1	10.4	1.6	2.0	3.1	0.6	2.2	0.4	0.4	35.0	6.5	489
経営者・役員・管理職	46.8	2.0	8.8	0.0	2.4	3.4	0.0	1.5	0.0	0.0	30.7	4.4	205
正社員・正職員	31.6	3.6	8.9	2.0	1.1	3.8	0.7	1.8	1.1	1.1	35.1	9.3	450
派遣社員	43.8	0.0	18.8	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	16
パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託	31.9	6.0	6.0	1.4	2.8	4.2	1.8	2.5	0.4	0.4	31.9	10.9	285
学生	21.7	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0	0.0	47.8	23.9	46
主婦	32.5	6.9	8.4	0.7	4.0	5.5	1.5	0.0	0.0	0.4	31.8	8.4	274
無職	43.8	4.0	15.8	1.2	4.3	1.6	1.6	0.6	0.6	0.0	21.7	4.7	322
その他	45.5	0.0	15.2	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	21.2	12.1	33
農林水産	61.2	0.0	12.2	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	14.3	8.2	49
保安	57.1	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	14
運輸・通信	37.7	5.7	5.7	1.9	1.9	5.7	3.8	3.8	1.9	1.9	26.4	3.8	53
製造業	37.2	2.4	9.8	1.8	1.8	3.0	0.0	0.6	0.6	1.2	29.9	11.6	164
販売・サービス	29.9	6.6	7.8	1.2	2.5	2.9	1.2	3.3	0.4	0.0	36.5	7.8	244
専門・技術	33.2	3.1	6.2	1.8	3.1	4.9	0.9	1.3	1.3	0.9	35.0	8.4	226
事務	34.3	2.8	8.4	1.1	1.1	4.5	0.6	0.6	0.0	0.6	38.8	7.3	178
その他	41.9	0.0	12.9	0.0	0.0	4.8	0.0	1.6	0.0	0.0	24.2	14.5	62
大都市	30.6	6.1	9.4	0.7	2.2	4.8	0.7	1.5	0.2	0.4	34.4	9.0	457
20万人以上の市	40.2	3.0	7.7	1.0	3.5	3.5	0.5	2.2	0.5	0.2	29.0	8.7	403
10万人以上の市	37.1	4.1	8.7	1.2	3.2	2.9	1.2	1.2	0.6	0.3	31.6	8.1	345
10万人未満の市	35.9	2.9	9.7	2.4	2.6	2.6	2.1	0.6	0.6	0.9	31.2	8.5	340
郡部(町村)	44.6	4.6	16.2	0.8	3.8	3.1	1.5	0.0	0.8	0.0	20.0	4.6	130

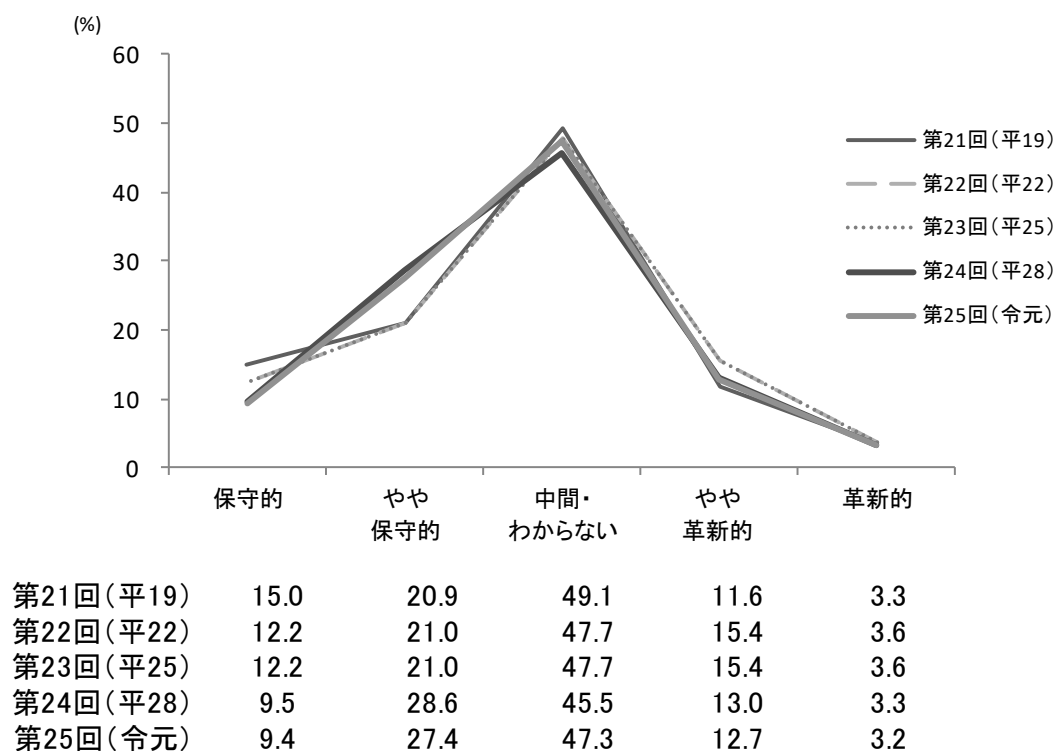
* 無回答を除く

(2) 保革イデオロギー

日本政治研究では長い間「保守－革新」の次元で人々の意識や政党の政策的立場を測定してきた。近年、「保守－革新」というイデオロギー次元の有用性が疑問視されることもあるが、今日においても有権者の意識を測定する指標として利用されている。「保守」と「革新」を一義的に定義することは難しいが、経済的側面における市場メカニズムの自立性重視と市場メカニズムの抑制重視、価値観における伝統的価値観と近代的価値観等、複数の要素が複雑に絡み合っている構成されていると言ってよいであろう。

本調査では、「保守的とか革新的とかいう言葉が使われていますが、あなたご自身はこの中のどれにあたるとお考えですか」という質問で、有権者の保革イデオロギー認識を尋ねている。今回のデータを、第21回(平19)以降のデータと比較するために一覧にしたのが図5-1である。若干の変動はあるものの、基本的に保革イデオロギーの分布に大きな変化はないと思われる。今回は、「保守的」は前回とほぼ同じの9.4%(前回9.5%)、「やや保守的」は27.4%(前回28.6%)、「やや革新的」は12.7%(前回13.0%)、「革新的」は3.2%(前回3.3%)と、ほぼ前回と同じ軌道を辿っている。

図5-1 保革イデオロギーの変化



* 第22回以前は面接調査、第23回以降は郵送調査による。

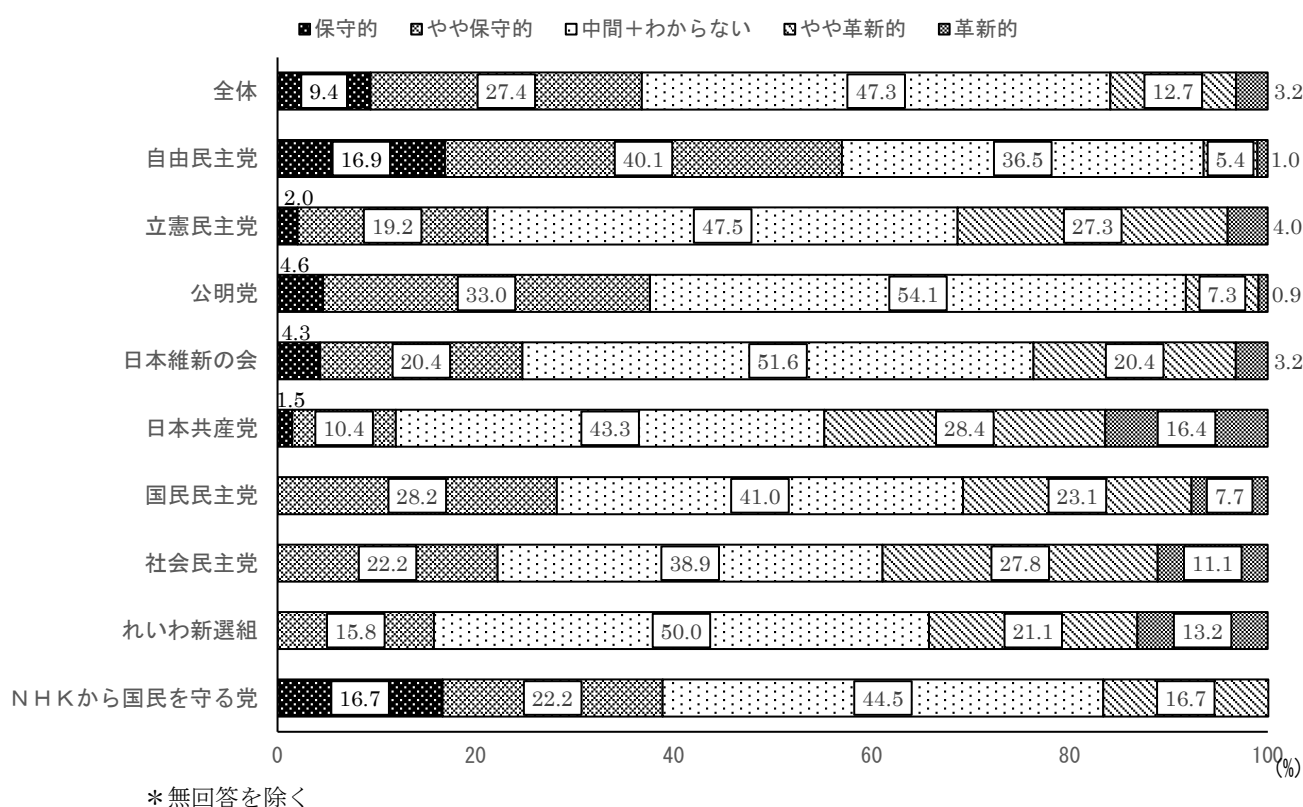
次に比例代表選挙で議席を獲得した政党について、各党の投票者内の保革イデオロギ一分布を示したのが、図5-2である。

主だった政党を見ていくと、まず自民党は「保守的」と考える人が16.9%、「やや保守的」が40.1%と保守層（保守的+やや保守的）が57.0%を占めている。反対に「やや革新的」は5.4%、「革新的」は1.0%と革新層（革新的+やや革新的）は6.4%で、保守層を大きく下回る。「中間（わからないを含む）」は36.5%で、全体の47.3%より少ない。公明党は「中間」と考えている人で54.1%を占めているが、「保守的」と考えている人が4.6%、「やや保守的」は自民党に次いで多い33.0%を占める。反対に「やや革新的」は7.3%、「革新的」は0.9%となっており、いずれも自民党の割合に近い。

立憲民主党は、「中間」の47.5%が最も多く、これは全体の47.3%に近い。また保守的（2.0%）、やや保守的（19.2%）の保守層（21.2%）に比べ、やや革新的（27.3%）、革新的（4.0%）の革新層（31.3%）の割合が多い。国民民主党も同様の割合が示されている。

日本維新の会も「中間」の51.6%が最も多いが、やや革新的と考える人が20.4%、革新的は3.2%で革新層は23.6%、一方、保守的が4.3%、やや保守的が20.4%で保守層が24.7%と、保守層と革新層は拮抗している。共産党は「中間」の43.3%が最も多いものの、「やや革新的」が28.4%、「革新的」が16.4%と、他党に比べ革新的と考える人が多く（革新層44.8%）、保守層（11.9%）を大きく上回っている。社会民主党も共産党ほどではないが、革新層（38.9%）が保守層（22.2%）を上回っている。

図5-2 投票政党内保革構図（比例代表選挙）



(3) 考慮した政策課題

本調査では、「今回の参院選では、どのような政策課題を考慮しましたか」（複数回答）という質問をして、19 の政策問題の中から当てはまるものをいくつでも選んでもらっている。この設問は、政治情勢に合わせて毎回選択肢が修正されるので、厳密な時系列の比較を行うことは難しい。そこで各問題への回答者の選択割合の順序を利用して、大まかに変化をとらえてみたい。

今回、最も考慮された問題は、「医療・介護」の 52.9%であった。以下、「年金」の 51.3%、「景気対策」の 45.6%、「子育て・教育」の 33.9%と続く。順位や選択率に差はあるものの、過去の調査においてもこれらは上位に入っている。

表 5－4 考慮した問題（複数回答）

第23回	%	第24回	%	第25回	%
景気対策	54.7	医療・介護	53.5	医療・介護	52.9
年金	43.4	景気対策	51.2	年金	51.3
医療・介護	42.1	年金	46.5	景気対策	45.6
消費増税	32.0	子育て・教育	36.0	子育て・教育	33.9
原発・エネルギー	27.8	消費増税	25.1	消費税	30.2
子育て・教育	25.1	雇用対策	22.8	雇用対策	21.0
雇用対策	25.1	憲法改正	20.2	財政再建	18.4
震災からの復興	24.8	外交・防衛	18.6	防災対策	17.4
財政再建	22.4	財政再建	18.3	原発・エネルギー	15.5
外交・防衛	17.4	原発・エネルギー	17.7	外交・防衛	15.3
憲法改正	15.6	防災対策	13.8	憲法改正	14.8
TPPへの参加	11.6	震災からの復興	10.8	地域振興	12.4
防災対策	9.1	地域振興	10.2	震災からの復興	12.3
行政改革・地方分権	7.5	治安対策	9.6	治安対策	6.7
政策は考えなかった・わからない	5.8	政策は考えなかった・わからない	8.1	わからない	5.4
治安対策	5.0	TPPへの参加	4.9	社会資本整備	4.4
選挙制度	4.3	選挙制度	3.2	政策は考えなかった	4.2
社会資本整備・公共事業	3.7	社会資本整備	2.4	選挙制度	3.6
その他	1.0	規制緩和	2.4	男女共同参画	2.8
		男女共同参画	2.3	規制緩和	1.7
		その他	0.6	その他	1.3

今回の調査について、回答者を年代別に四つに分けて再集計を行った結果が表 5－5 である。上位 3 つについて年代ごとに見ていくと、18-20 歳代では景気対策が最も選ばれており、次いで子育て・教育、消費税となっている。30-40 歳代は子育て・教育、景気対策、医療・介護の順、50-60 歳代は年金、医療・介護、景気対策、70 歳以上では医療・介護、年金、景気対策の順となっている。年代を問わず景気対策は上位に選ばれている。年代ごとの特色として、年金や医療・介護については、高齢者層ほど考慮する順位が高まり、子育て・教育は若年層ほど上位に位置している。

表 5－5 年代別考慮した問題

(%)

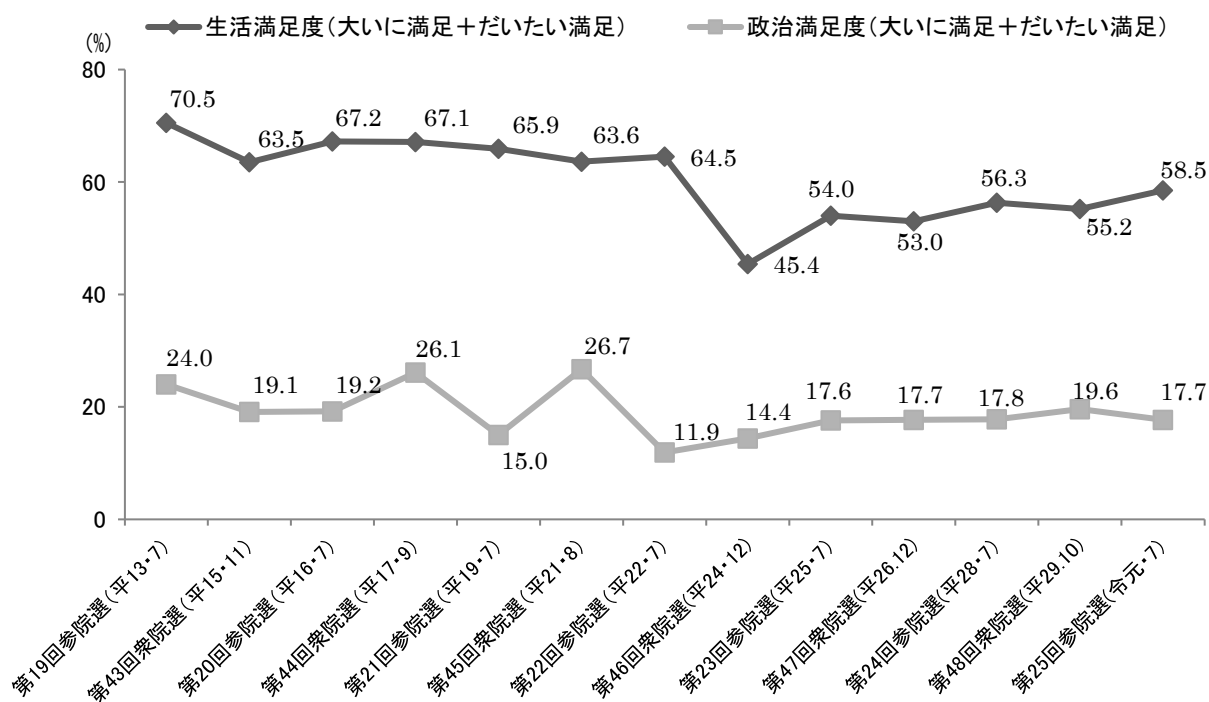
	18-20歳代		30-40歳代		50-60歳代		70歳以上	
1	景気対策	37.8	子育て・教育	48.0	年金	60.6	医療・介護	69.7
2	子育て・教育	36.2	景気対策	46.7	医療・介護	58.8	年金	63.7
3	消費税	29.7	医療・介護	40.8	景気対策	47.5	景気対策	44.9
4	年金	27.6	年金	38.0	消費税	30.0	消費税	31.7
5	医療・介護	26.5	消費税	29.2	子育て・教育	27.9	子育て・教育	25.2
6	雇用対策	22.2	雇用対策	25.7	雇用対策	23.1	防災対策	24.3
7	わからない	15.7	財政再建	18.8	財政再建	20.5	外交・防衛	20.4
8	財政再建	12.4	防災対策	13.5	防災対策	18.4	原発・エネルギー	19.9
9	政策は考えなかった	10.8	憲法改正	12.9	原発・エネルギー	18.2	地域振興	17.8
10	憲法改正	9.7	外交・防衛	12.7	憲法改正	16.8	財政再建	17.6

(4) 生活と政治への満足度

本調査では従来から、生活と政治に対する満足度を調査しているが、これまでの全ての調査で生活満足度は政治満足度よりも高くなっている。図 5－3 は、生活に対する満足度及び政治に対する満足度の「大いに満足している」と「だいたい満足している」を合算した数値の推移をグラフ化したものである。今回、生活満足度は 58.5%で、前回参院選より 2.2 ポイント、直近の国政選挙である第 48 回衆院選からも 3.3 ポイント増えている。第 46 回衆院選 (45.4%) を起点に増加の傾向にある。

一方、政治満足度については、今回は 17.7%で前回参院選 (17.8%) と変わらない。直近の第 48 回衆院選からは約 2 ポイント減少している程度で、顕著な違いは見られない。

図 5－3 生活満足と政治満足



* 第 22 回以前は面接調査、第 23 回以降は郵送調査による。

表 5－6 は、社会的属性と政治満足度との関係を示したものである。男女別で見ると、男性の満足度（「大いに」＋「だいたい」 21.8％）の方が、女性（13.9％）より高い。

一方、不満足度（「やや」＋「大いに」）を見ると、男性が 72.3％、女性が 74.7％で女性の方が高い。

年代別で見ると、80 歳以上が 34.3％、次いで 70 歳代が 21.6％と高齢層の満足度が比較的高い⁷。ほか、20 歳代から 60 歳代までは 15％前後で推移している。

学歴との関係では、中学校卒の満足度が 25.6％と他より高い（このため不満足度も 66.8％と他より低い）。

表 5－6 社会的属性と政治満足度

(%)

	大いに満足	だいたい満足	やや不満	大いに不満	わからない
全体(N=1712)	0.4	17.3	48.1	25.5	8.8
男性(819)	0.6	21.2	47.1	25.2	5.9
女性(893)	0.2	13.7	48.9	25.8	11.4
18-19歳(28)	0.0	21.4	42.9	7.1	28.6
20歳代(157)	1.3	15.3	43.3	22.3	17.8
30歳代(214)	0.0	16.4	42.1	29.0	12.6
40歳代(279)	0.0	16.1	48.0	26.5	9.3
50歳代(260)	0.4	12.3	49.6	30.4	7.3
60歳代(335)	0.0	13.7	53.1	29.3	3.9
70歳代(305)	1.3	20.3	51.8	19.7	6.9
80歳以上(134)	0.0	34.3	40.3	19.4	6.0
中学校卒(172)	0.6	25.0	49.4	17.4	7.6
高校卒(668)	0.3	14.8	51.8	24.1	9.0
短大・高専・専修学校卒(321)	0.3	12.8	46.1	29.6	11.2
大学・大学院卒(500)	0.6	20.2	45.6	27.6	6.0

⁷ 18-19 歳の政治満足度も 21.4％と高齢層と同等ではあるが、標本数が 28 であるため留意を要する。

次に、政治満足度と、比例代表選挙での投票政党をしてみる（表 5－7）。

現在の政治に大いに満足している人の 66.7%は自民党に、16.7%は公明党に投票している（但し、標本数が 6）。だいたい満足している人も 68.4%が自民党に投票しており、公明党の 9.8%、立憲民主党の 6.2%とは大きな開きがある。

反対にやや不満足な人の 39.7%は自民党に、18.8%は立憲民主党に、9.8%は公明党に投票しているが、上記のだいたい満足している人の投票行動ほどの開きではない。大いに不満足な人の 23.3%は立憲民主党に投票し、自民党に投票した 20.4%を上回っている。

表 5－7 政治満足度と投票政党(比例代表選挙)

(%)

	自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	白票を入れた	わからない
大いに満足している(N=6)	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
だいたい満足している(225)	68.4	9.8	6.2	2.2	0.0	5.8	0.9	0.4	1.3	0.0	0.4	4.4
やや不満足である(580)	39.7	9.8	18.8	4.0	4.7	7.9	1.2	1.6	0.9	1.7	0.7	9.1
大いに不満足である(309)	20.4	5.5	23.3	3.2	12.3	10.0	2.6	9.4	2.6	0.3	0.3	10.0
わからない(64)	42.2	17.2	4.7	1.6	3.1	3.1	1.6	0.0	3.1	0.0	0.0	23.4

同じように生活満足度でもしてみる(表 5－8)。

上記の政治満足度で見た各党への投票割合と概ね同じ傾向が見られる。大いに・だいたい満足、やや不満足な人は、その度合いに応じて段階的に選択率は減少するが、自民党への投票が最も多い。大いに不満足も自民党の 21.5%が最も多く、次いで 12.7%の日本維新の会、10.1%の公明党、立憲民主党、共産党が続く。

表 5－8 生活満足度と投票政党(比例代表選挙)

(%)

	自由民主党	公明党	立憲民主党	国民民主党	日本共産党	日本維新の会	社会民主党	れいわ新選組	NHKから国民を守る党	その他の党	白票を入れた	わからない
大いに満足している(N=49)	57.1	8.2	12.2	2.0	0.0	8.2	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	8.2
だいたい満足している(671)	44.4	9.5	16.8	3.3	4.2	6.6	1.6	2.4	1.6	0.9	0.4	8.2
やや不満足である(376)	34.8	8.8	18.1	3.7	8.0	9.0	1.1	3.7	0.8	1.1	0.3	10.6
大いに不満足である(79)	21.5	10.1	10.1	2.5	10.1	12.7	3.8	11.4	3.8	1.3	1.3	11.4
わからない(15)	40.0	0.0	20.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7

6 選挙関連情報源

(1) 政治・選挙に関する情報源

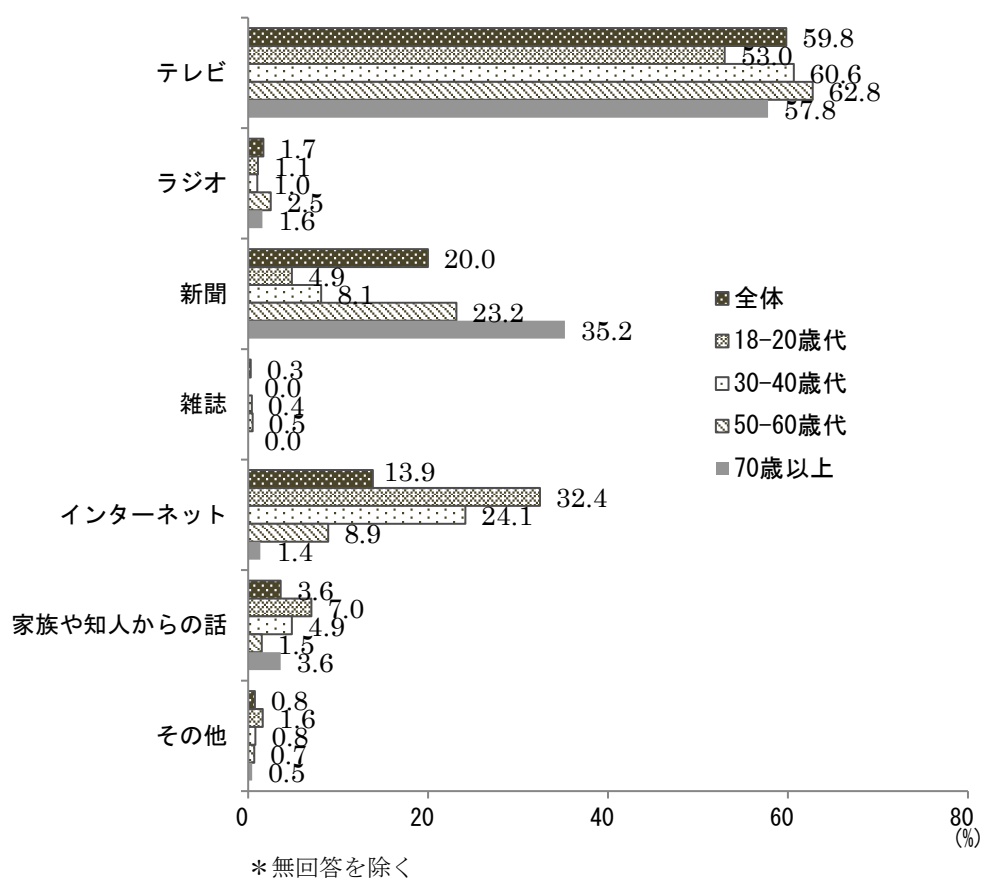
有権者は日ごろ、政治や選挙の情報をどこから得ているのか。本調査では「あなたは、政治、選挙に関する情報を主に何から得ていますか」と尋ね、6つの選択肢から選んでもらっている。その結果を年代ごとに図6-1にまとめた。

これによると政治・選挙に関する主たる情報源はテレビであり、各年代とも過半数が選択している。

インターネットは前回調査では全体で9.3%だったが、今回は13.9%に上昇している。年代別に見ると若年層の選択率が高く、18-20歳代の32.4%を先頭に、30-40歳代の24.1%、50-60歳代の8.9%と、年代が上がるごとに減少している。反対に「新聞」は70歳以上の35.2%が最も高く、50-60歳代の23.2%、30-40歳代の8.1%、18-20歳代の4.9%と、若年層に向かうほど選択率は減少していく。

若者はインターネットとの親和性が高いと言われているが、「政治・選挙」に関する情報源としてはテレビの役割が大きいことが、今回の調査からも示された。

図6-1 政治・選挙の情報入手元



（２）選挙運動への接触度と有用度

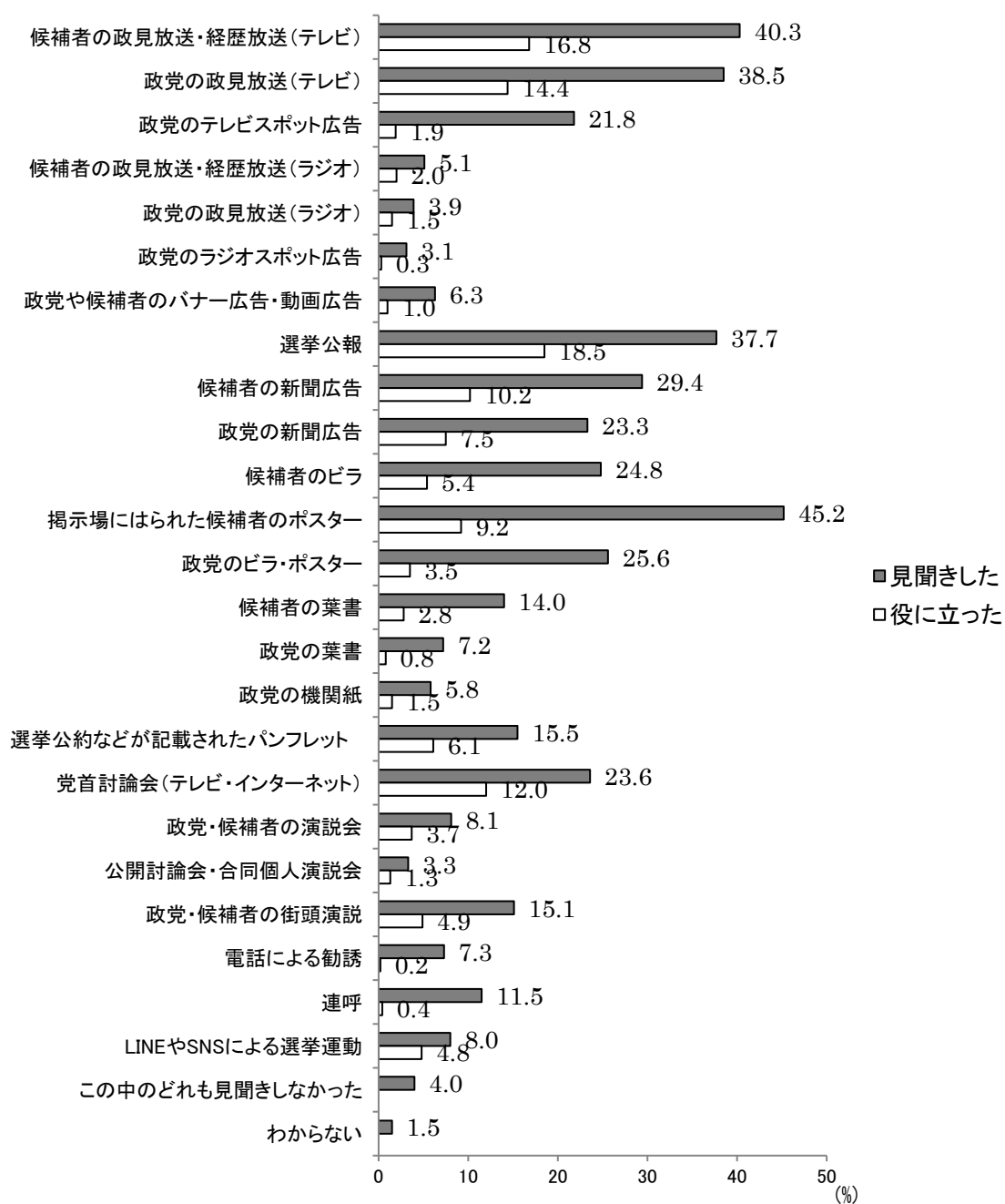
有権者は今回の参院選では、どのような選挙運動媒体に接触したのだろうか。本調査では、政党や候補者の情報提供と働きかけについて質問している。具体的には、24 の媒体を列举して、調査対象者が「直接見たり、聞いたり」したものすべてを選択してもらっている（接触度）。また、その中で役に立ったもの全てを選択してもらっている（有用度）。その結果を図 6-2 にまとめた。

今回、特に接触度が高かった媒体は、「掲示場にはられた候補者のポスター」(45.2%)、「候補者の政見放送・経歴放送(テレビ)」(40.3%)、「政党の政見放送(テレビ)」(38.5%)、「選挙公報」(37.7%)、「候補者の新聞広告」(29.4%)、「政党のビラ・ポスター」(25.6%) などである。

有用度は、接触度の度合いよりもかなり低い。基本的な傾向として、接触度が高い媒体ほど有用度も高い傾向にある。今回、有用度が高かった媒体は、「選挙公報」(18.5%)、「候補者の政見放送・経歴放送(テレビ)」(16.8%)、「政党の政見放送(テレビ)」(14.4%)、「党首討論会（テレビ・インターネット）」(12.0%)、「候補者の新聞広告」(10.2%) などである。

その他、「LINE やツイッター、フェイスブックなどの SNS」(接触度 8.0%、有用度 4.8%) や、上記の「党首討論会（テレビ・インターネット）」(接触度 23.6%、有用度 12.0%)、は接触した人の半数以上が役に立ったと回答している。半数には届かなかったが、「選挙公報」(接触度 37.7%、有用度 18.5%) や「政党・候補者の演説会」(接触度 8.1%、有用度 3.7%) も接触した人にとっては役立った情報源だったと言えよう。

図6-2 選挙運動への接触度と有用度（複数回答）



(3) 投票参加促進媒体への接触

次に、選挙啓発媒体への接触を見ていく。「今回の参院選で総務省や都道府県・市区町村の選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が「投票に参加しましょう」という呼びかけを行いました、下記の中で見たか聞いたかしたものがありますか。」(複数回答) という質問への回答結果を年代ごとにまとめた(表6)。

全体の選択率が10%を超えるのは、「テレビスポット広告」(42.7%)、「新聞広告」(35.7%)、「国や都道府県、市区町村の広報紙」(25.6%)、「啓発ポスター」(18.2%)、「都道府県、市区町村などの広報車」(17.4%)、「立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン」(10.2%)で、これらは選択率の違いはあるが、前回の調査結果でも挙げられた。

次にこれらの媒体への接触状況を、若年層(18-20歳代)と高齢者層(70歳以上)とで対比して見てみる。

まず、高齢者層の接触率が高い媒体として、新聞広告(70歳以上56.4%、18-20歳代14.2%)、国や都道府県、市区町村の広報紙(70歳以上43.8%、18-20歳代7.1%)などの活字媒体が挙げられ、若年層の数倍以上の接触率となっている。一方、若年層の接触率が高い媒体は、交通広告(18-20歳代10.4%、70歳以上6.9%)、インターネット上の啓発動画(18-20歳代7.1%、70歳以上0.7%)、国、都道府県、市区町村のHP、SNS(18-20歳代4.4%、70歳以上0.7%)などが挙げられる。

「啓発ポスター」の接触率は全体で18.2%ではあるが、各年代とも概ね同程度、接触している(18-20歳代14.8%、30-40歳代18.1%、50-60歳代22.4%、70歳以上15.6%)。

表6 投票促進広告への媒体別・年代別接触率

(%)

	全体	18-20歳代	30-40歳代	50-60歳代	70歳以上
新聞広告	35.7	14.2	19.8	43.2	56.4
テレビスポット広告	42.7	23.5	38.8	50.0	49.8
ラジオスポット広告	4.3	1.1	4.3	5.6	4.3
交通広告(車内・駅・バス)	9.9	10.4	12.6	10.6	6.9
雑誌広告(フリーペーパーを含む)	2.8	2.7	4.1	3.2	0.9
啓発ポスター	18.2	14.8	18.1	22.4	15.6
国や都道府県、市区町村の広報紙	25.6	7.1	14.8	29.0	43.8
都道府県・市区町村などの広報車	17.4	5.5	10.3	22.5	25.4
街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン	7.3	7.1	7.2	8.4	6.9
立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン	10.2	4.4	6.4	13.5	13.7
電光掲示板・大型映像広告、SC、遊園地などでのアナウンス	1.9	1.6	3.5	1.5	0.9
銀行などのATM	1.0	1.6	1.0	0.9	0.9
コンビニのレジ画面	1.2	1.6	1.9	0.9	0.7
有線放送	2.9	1.1	0.6	4.4	4.3
国、都道府県、市区町村のホームページ、ツイッター、フェイスブック	2.6	4.4	4.3	2.0	0.7
インターネット上の啓発動画	4.0	7.1	6.8	3.2	0.7
その他	0.5	0.5	1.0	0.2	0.5
見聞きしなかった	16.2	30.6	24.1	12.8	7.3

7 選挙制度関連

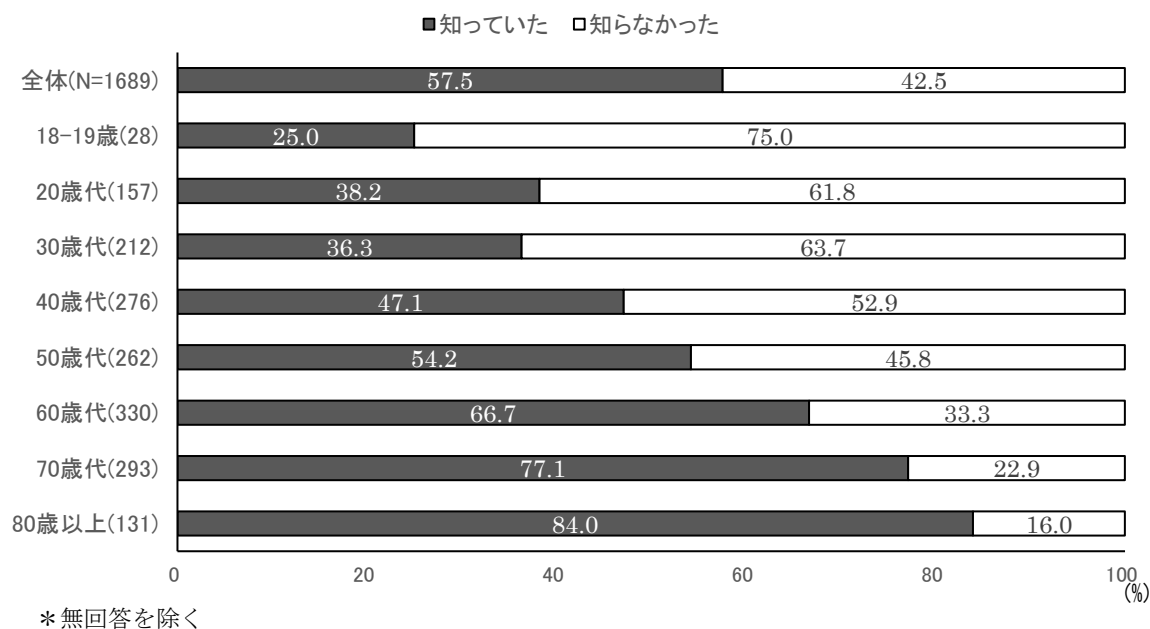
(1) 住民票の異動と選挙権の行使の認知

本調査では「現在住んでいる市区町村で投票するには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければなりません。あなたは、このことをご存知でしたか」と、投票と住民票異動の関係についての知識の有無を尋ねた。

全体では、57.5%の人が知っていたと回答した。年代別に見ると、18-19歳は25.0%、20歳代は38.2%と若年層は「知っていた」割合が低く、60歳代は66.7%、70歳代は77.1%と高齢者層に向かうほど認知率は高くなっていく。

新有権者である18-19歳、20歳代は、進学や就職で実家を離れる場合がある。転居先で投票するためにも、住民票の異動と併せて周知していく必要がある。

図7-1 住民票の異動と選挙権の行使の認知（年代別）



(2) インターネット選挙運動の解禁

平成 25 年 4 月の公職選挙法の改正により、インターネット上でも選挙運動が行えるようになった。今回も前回同様、「あなたは今回の参院選に関して、インターネットをどのように利用しましたか」とインターネット上の選挙運動など 6 つの選択肢から該当するものをすべて選んでもらった（表 7-1）。

「政党や候補者のホームページ、ブログを見た」（10.3%）、「政党や候補者のツイッター、フェイスブックを見た」（6.2%）は、前回「政党や候補者のHP・ブログ・SNSを見た」と一つにまとめていたため、厳密な比較はできないが、参考までに今回を合算して見比べると、前回の 8.7% の約 2 倍となる 16.5% となっている。ほか、「ニュースサイトや選挙情報サイトを見た」は今回 18.2% で、これも前回より約 6 ポイント多い。

一方、「利用しなかった」は前回は 74.5% だったが、今回は 66.6% と約 8 ポイント減少しており、インターネット上の選挙運動や選挙関連の情報への接触者が増えていることが示されている。

インターネット上の選挙運動などへの年代別の接触状況を見ると、18-20 歳代は 55.7%（前回 38.2%）、30-40 歳代は 63.9%（38.9%）、50-60 歳代は 32.9%（20.5%）、70 歳以上は 16.7%（13.0%）となっており、若年層ほど接触率は高い。但し、いずれの年代も前回より増えており、特に若年層や中年層は前回より 20 ポイント程度多い。

表 7-1 インターネット上の選挙運動などの利用

	全体		18-20歳代	30-40歳代	50-60歳代	70歳以上
	前回	今回				
政党や候補者のホームページ・ブログを見た	8.7	10.3	8.7	16.5	9.2	4.6
政党や候補者のツイッター、フェイスブックを見た		6.2	14.2	9.9	3.5	1.6
政党や候補者のメールを受信した	0.4	0.4	0.0	0.2	1.0	0.0
自分自身が特定の候補者を応援又は批判する情報を発信した	0.9	0.2	0.5	0.2	0.0	0.5
政党や候補者とインターネットを通して交流した	0.3	0.2	0.0	0.2	0.3	0.0
動画共有サイトで選挙関連の動画を見た	3.3	4.2	6.6	7.0	3.1	0.8
ニュースサイトや選挙情報サイトを見た	12.8	18.2	23.5	28.0	15.2	7.4
ポータルマッチを利用した	0.3	0.4	1.6	0.2	0.2	0.3
その他	0.5	1.0	0.5	1.6	0.3	1.4
小計	27.2	41.2	55.7	63.9	32.9	16.7
利用しなかった	74.5	66.6	53.0	54.6	74.4	77.0
わからない	4.4	4.4	5.5	2.7	2.3	9.6
合計	106.1	112.2	114.2	121.2	109.6	103.3

* 複数回答のため合計は 100% を超える。

* 無回答を除く

(3) 政治分野における男女共同参画

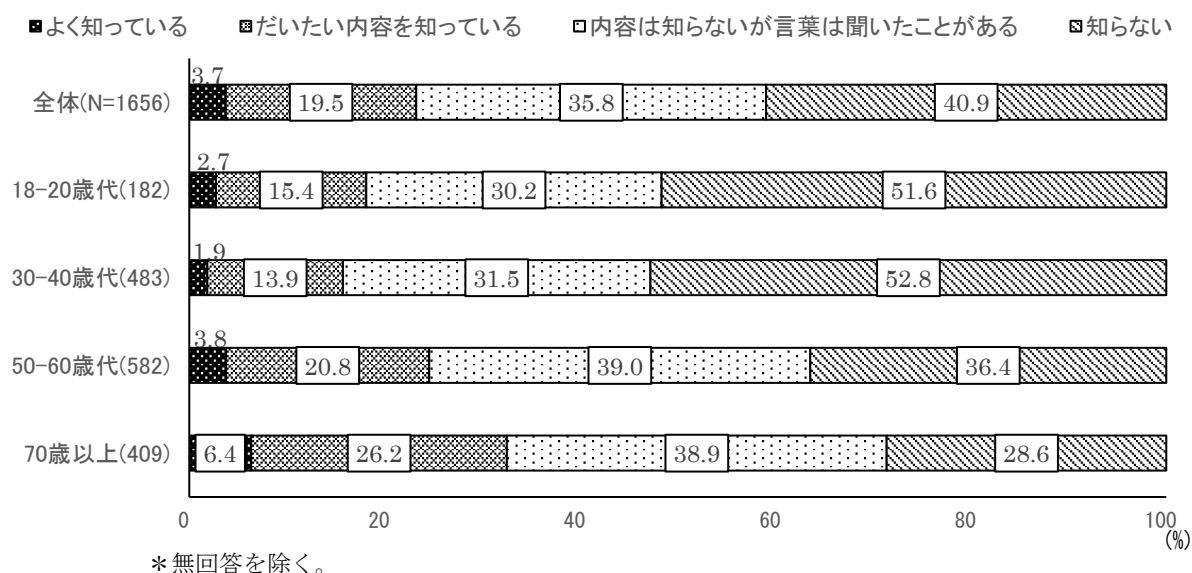
平成 30 年 5 月に、衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とした「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布、施行された。

このことについて「知っているか」尋ね、その回答結果を図 7-2 にまとめた。

「よく知っている」と回答した人は 3.7%、「だいたい内容を知っている」は 19.5%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」は 35.8%、「知らない」は 40.9%であった。

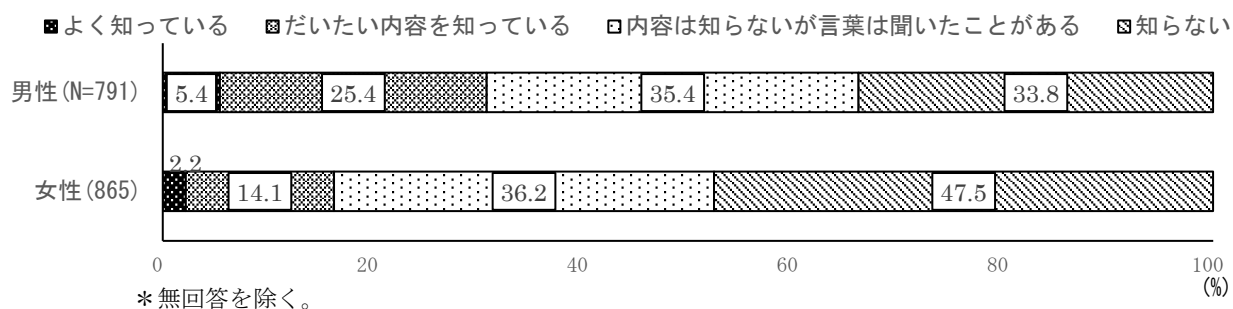
これを年代別に見ると、「よく知っている」、「だいたい内容を知っている」は、年齢が上がるにつれて増加していくが、両者を合わせた割合は、18～20 歳で 18.1%、30-40 歳代で 15.8%、50-60 歳代で 24.6%となっており、最も高い 70 歳以上でも 32.6%に止まっている。

図 7-2 男女共同参画認知度（年代別）



男女別の認知度を見てみると（図 7-3）、「よく知っている」は男性が 5.4%、女性は 2.2%、「だいたい内容を知っている」まで含めると男性は 30.8%、女性は 16.3%となり、男性の方が約 14 ポイント高くなっている。

図 7-3 男女共同参画認知度（男女別）



「よく知っている」、「だいたい内容を知っている」と回答した人に、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律は、女性議員を増やすためにどの程度有効かを尋ねた（表 7-2）。全体では「多少の効果はあると思う」が 55.6%と最も高く、次いで「努力義務なので、あまり効果的ではない」の 38.8%であった。男女別の選択率を見ると、「かなり効果的である」は 4 ポイント（男性 4.1%、女性 8.1%）、「多少の効果はあると思う」では約 6 ポイント（男性 53.5%、女性 59.3%）と、いずれも女性の方が高い。反対に「努力義務なので、あまり効果的ではない」は男性の方が約 10 ポイント高かった。

表 7-2 男女共同参画の有効度（男女別） (%)

	全体 (N=376)	男性 (241)	女性 (135)
努力義務なので、あまり効果的ではない	38.8	42.3	32.6
多少の効果はあると思う	55.6	53.5	59.3
かなり効果的である	5.6	4.1	8.1

* 無回答を除く。

また「日本で女性議員が少ないのはなぜだと思いますか」と調査対象者全員に尋ねたところ、「政治活動は家庭と両立しにくいから」が 28.4%と最も高く、次いで「政党が本気で女性を発掘しようとしにくいから」（23.1%）、「政治家という職業に魅力を感じる女性が少ないから」（17.6%）となった（表 7-3）。

男女別では「政治に関心のある女性が少ないから」で、男性が 11.2%、女性が 8.5%と男性が約 3 ポイント高い以外、性別による顕著な違いは見られない。

表 7-3 女性議員が少ない理由（男女別） (%)

	全体 (N=1643)	男性 (780)	女性 (863)
政治に関心のある女性が少ないから	9.7	11.2	8.5
政治家という職業に魅力を感じる女性が少ないから	17.6	17.8	17.4
政治活動は家庭と両立しにくいから	28.4	28.1	28.7
政党が本気で女性を発掘しようとしにくいから	23.1	22.3	23.9
有権者が男性の方を政治家としてふさわしいと思っているから	16.2	15.4	16.9
その他	4.9	5.3	4.6

* 無回答を除く。

(4) 投票時間

有権者ができるだけ投票しやすいように、投票時間は原則午後 8 時までとなっており、夕方まで仕事のある人や昼間はレジャーに出かけた人も投票ができるようになっている。

本調査では調査対象者の地域の投票所の投票時間が何時までであったかを尋ねており、その回答結果は図 7-4 のとおりである。このうち「午後 8 時」と回答した人に絞って、投票した時間を年代別にまとめたのが表 7-4 である。これによると、午後 6 時以降(夜間)に投票した割合は全体で 9.4%であるが、年代による違いが見られる。今回は 40 歳代の 18.2%が最も高く、次いで 30 歳代の 14.7%が続く。反対に 60 歳以上の大半は午前、午後に投票を済ませており、70 歳以上では午後 6 時以降に投票に行った人の割合は 1~2%台となる。

図 7-4 投票所の投票時間

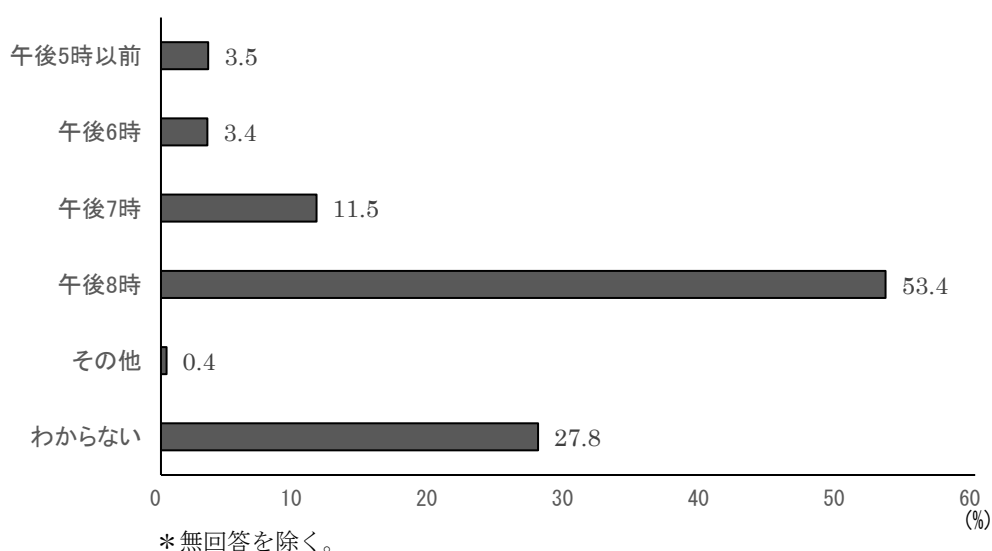


表 7-4 投票時間が午後 8 時までの地域での投票した時間 (年代別) (%)

	午前中	午後(6時まで)	午後 6 時から 8 時の間
全体	57.6	33.0	9.4
18-19 歳	40.0	60.0	0.0
20 歳代	53.8	34.6	11.5
30 歳代	50.0	35.3	14.7
40 歳代	42.9	39.0	18.2
50 歳代	41.3	46.7	12.0
60 歳代	63.8	26.7	9.5
70 歳代	68.8	29.5	1.8
80 歳以上	82.9	14.3	2.9

* わからない、無回答を除く。

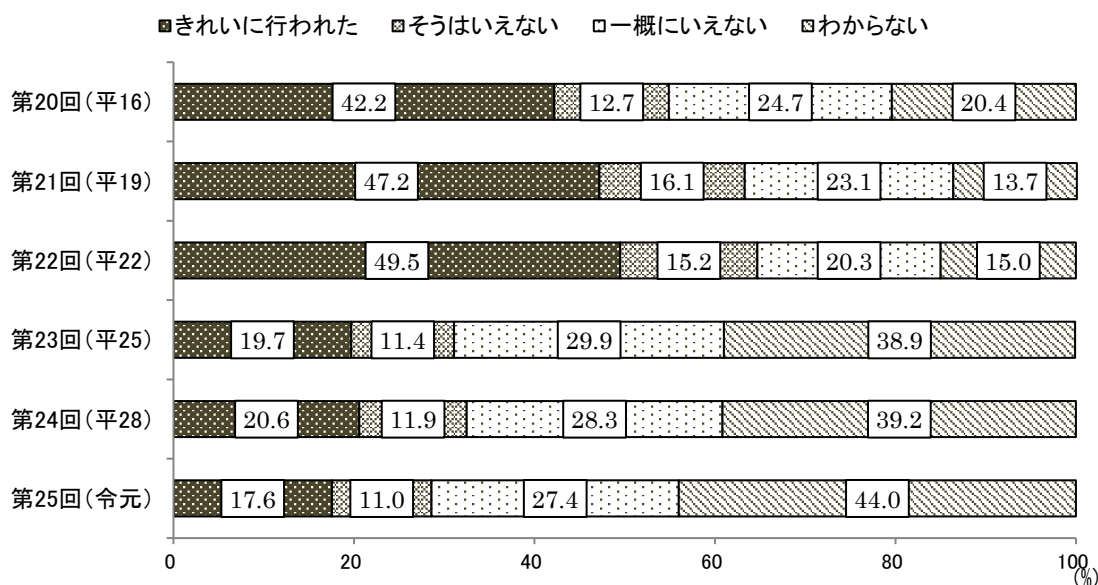
8 清潔度の印象

本調査では、「今回の参院選は、全体としてきれいな選挙が行われたと思いますか」という質問を継続的に行っている。今回の調査では 17.6%が「きれいに行われた」、11.0%が「そうはいえない」、27.4%が「一概にいえない」、44.0%が「わからない」と回答している。

図 8 を見ると「きれいに行われた」と答える割合は第 22 回参院選まで大きな変動はなく、概ね 40%台であったが、23 回以降は「わからない」の選択率が最も高くなる。この結果は調査方法の違いによることが主要因と考える。

今回は「わからない」が前回から約 5 ポイント多いが、前回、前々回と比べて大きな違いは見られない。

図 8 清潔度の印象



* 第 22 回以前は面接調査、第 23 回以降は郵送調査による。

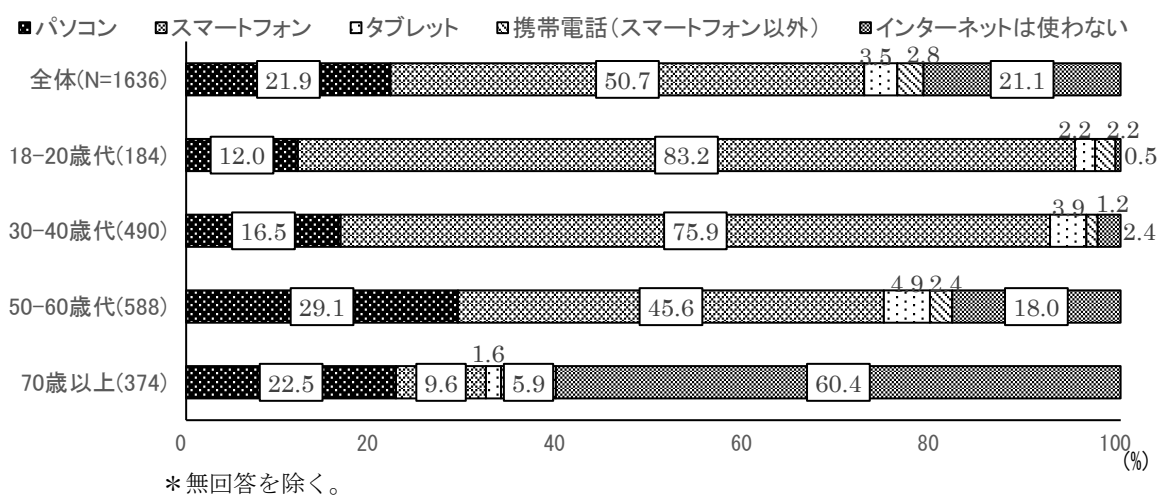
9 その他

本調査では、政治や選挙に関すること以外の事柄も尋ねている。ここではその調査結果について見ていく。

まず、「あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか。」と尋ね、パソコン、スマートフォンなどの中から1つを選んでもらっている。これを年代別にまとめたのが図9-1である。全体ではスマートフォン(50.7%)からの接続が最も多く、次いでパソコン(21.9%)、タブレット(3.5%)の順となっている。

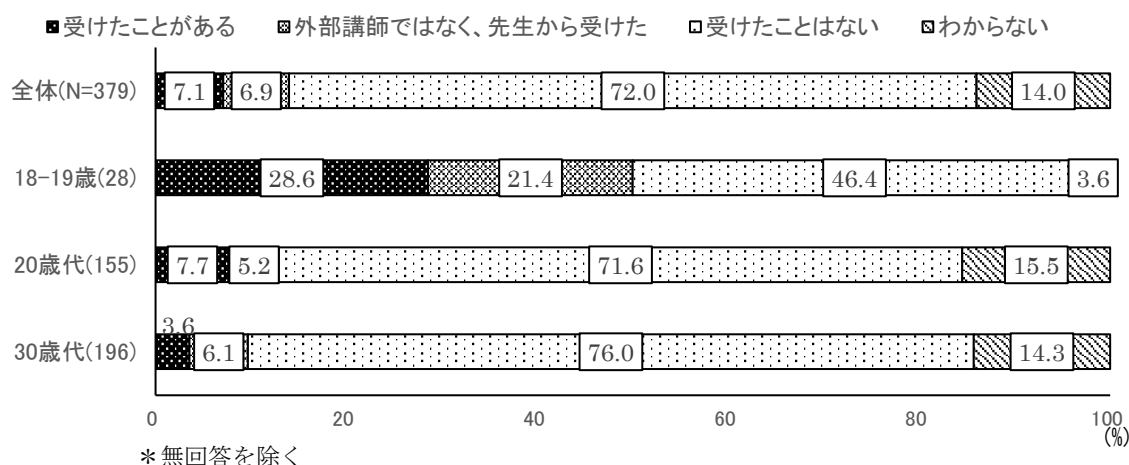
年代別に見ると、スマートフォンからの接続は若年層が多く、高齢者層はパソコンからの接続が多い。

図9-1 インターネットへの接続方法



調査対象者の中で、年齢が18-19歳、20歳代、30歳代の方に対し、「あなたは、小学校、中学校、高校で選挙管理委員会の職員など外部講師による選挙に関する出前授業(模擬投票含む)を受けたことがありますか」と尋ねた。回答結果は図9-2の通りで、全体では「受けたことがある」は7.1%、「外部講師ではなく先生から受けた」が6.9%と、14%が選挙に関する授業を受けたと回答している。年代別では18-19歳の50% (「受けたことがある」28.6% + 「外部講師ではなく先生から受けた」21.4%) が最も高い。

図9-2 出前授業の受講の有無



第 25 回参議院議員通常選挙全国意識調査

－調査結果の概要－

令和 2 年 3 月

公益財団法人 明るい選挙推進協会

住所 東京都千代田区一番町 13-3 ラウンドクロス一番町 7 階

電話 03-6380-9891

Fax 03-5215-6780

Mail akaruisenkya@mua.biglobe.ne.jp
